

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

「伐折羅大将 (2016年版)」

制作過程

—詰め込みすぎたはずなのに
シンプル?—

Making of Vajra
(Basara Taisho) 2016:
Turned Out to Be Simple
but with Lots of Ideas

北條高史

Hojyo Takashi

折り図 Diagrams

ダルメシアン

Dalmatian

川畑文昭

Kawahata Fumiaki

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

伐折羅大将 (2016年版)

Vajra (Basara Taisho) 2016

北條高史

Hojyo Takashi

つまみおり Information

OrigamiUSAコンベンション
2016レポート

The Origami USA Convention 2016 Report



通巻 158 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

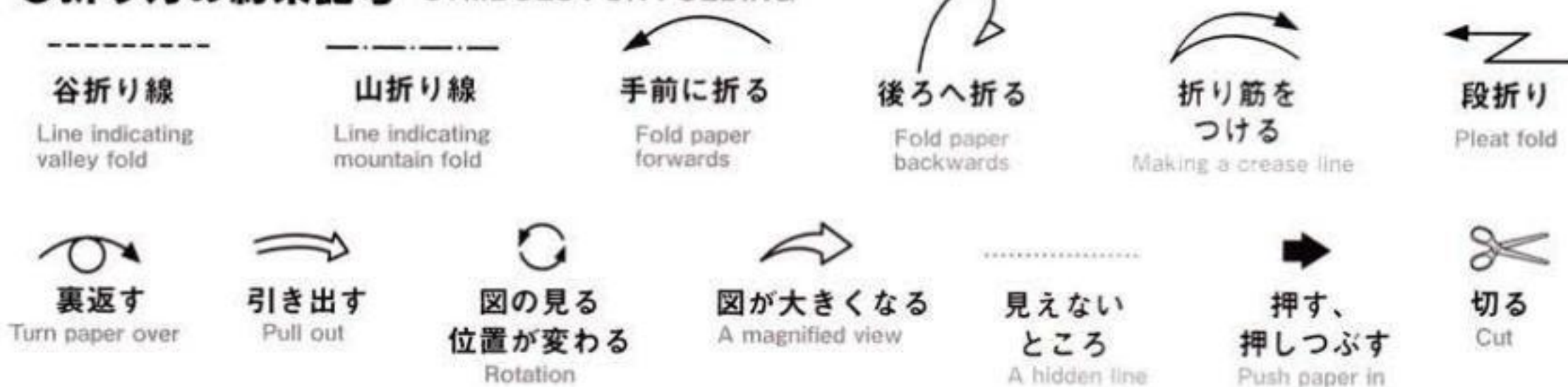
Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING



「伐折羅大将(2016年版)」
(P.13, 38) 作:北條高史
Vajra (Basara Taisho) 2016
(P.13, 38) by Hojyo Takashi

■基本構造を思いついてから約半年にわたって改修を続けて至った、現時点の最新状態で展開図を作成しました。さまざまな技法が入り交じって混沌としています、その混沌までも含めて楽しんでいただければ幸いです。

(解説:北條高史) Comments : Hojyo Takashi

ORIGAMI TANTEIDAN
折紙探偵団
 MAGAZINE
 CONTENTS

No. **158**



Vajra (Basara Taisho) 2016: Hojyo Takashi

クローズアップ / Close-up

**P.13 「伐折羅大将(2016年版)」
制作過程**
-詰め込みすぎたはずなのに
シンプル?-

Making of Vajra (Basara Taisho) 2016:
Turned Out to Be Simple but with Lots
of Ideas

北條高史
Hojyo Takashi

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.26 ダルメシアン
Dalmatian

川畑文昭
Kawahata Fumiaki



P.38 展開図折りに挑戦!
Crease Pattern Challenge!

伐折羅大将(2016年版)
Vajra (Basara Taisho) 2016

北條高史
Hojyo Takashi

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー
Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より
Models Based on Diagrams and Crease
Patterns of This Issue

解説・北條高史
Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 ユニット折り紙カルテット
Modular Origami Quartette

川村みゆき
Kawamura Miyuki

ハロウィーン
Trick or Treat (Halloween)

P.8 おりがみ我楽多市
Origami Odds and Ends

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

うし、直方体ボックス
Cow, Cuboid Box

読み物 / Articles

P.16 折紙図書館の本棚から
From the Bookshelves of the JOAS Library
『おりがみーのりものアルバム』
"ORIGAMI VEHICLES IN THE NEW STYLE"

神谷哲史
Kamiya Satoshi

P.18 ぼくらは折紙探偵団

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

中村智晴
Nakamura Tomoharu

『連鶴史料集—魯縞庵義道と桑名の千羽鶴—』
発刊に寄せて—講読会レポート

"Archives of Historical Documents on Rokoan-Gido and
Senbadzuru Cranes in Kuwana": A Report from a Reading
Circle

コラム / Columns

P.7 折り紙の周辺
Origami and Its Neighbors

布施知子
Fuse Tomoko

P.36 おりすじ
Orisuzi ("Fold-Creases")

川井千世
kawai chiyo

P.37 折紙三昧
Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司
Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.39 つまみおり Rabbit Ear

OrigamiUSAコンベンション2016レポート
The Origami USA Convention 2016 Report

Trick or Treat (Halloween)

These 3D stars seem to be applying a bandage. When glossy paper is used, it seems to be ribbon art. You can make another patterns on the face of the stars by folding corners of modules. Please enjoy making them for Halloween!



Kawamura Miyuki

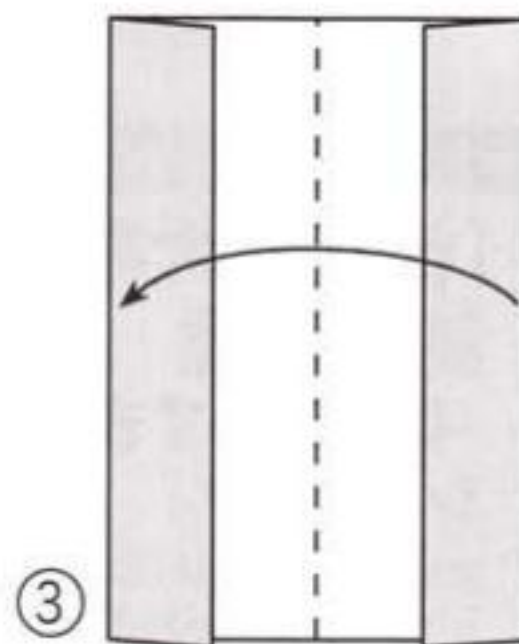
MUMMY STAR

創作日 (Designed) 2015/10/20

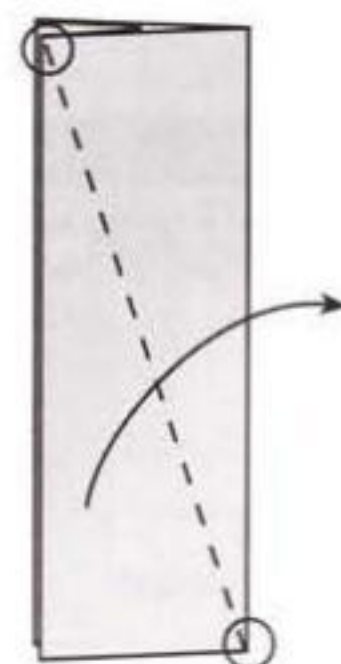


②

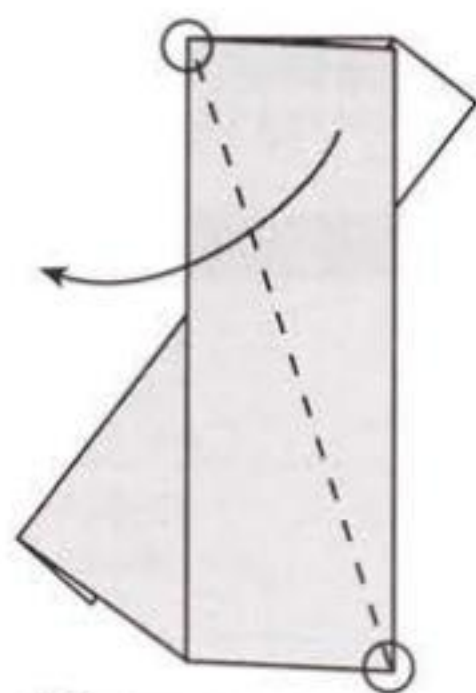
②



③

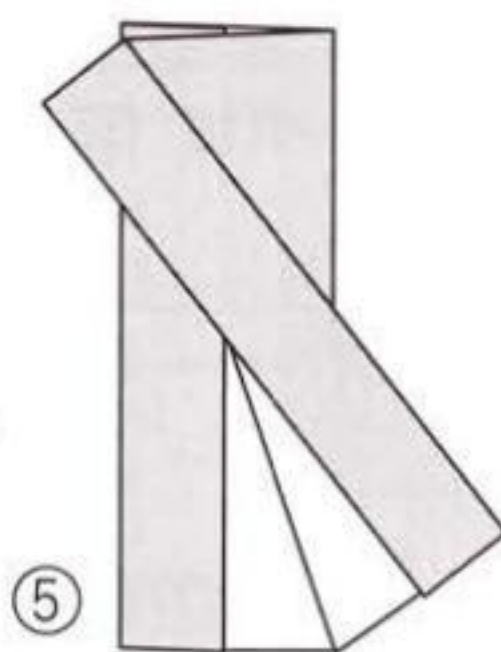


④

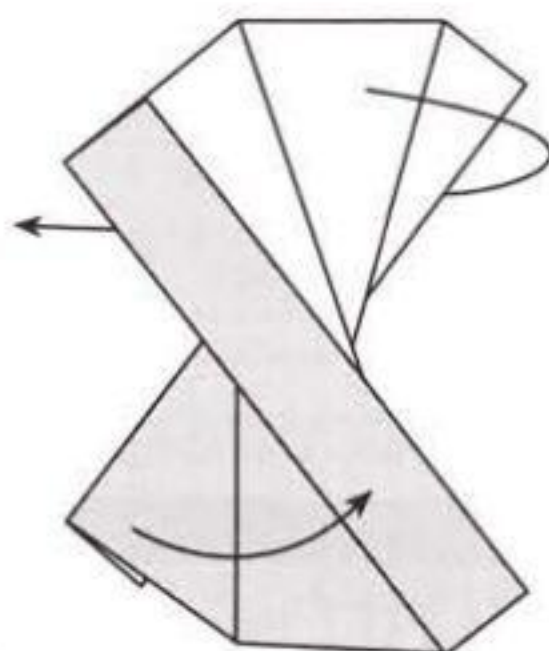


⑥

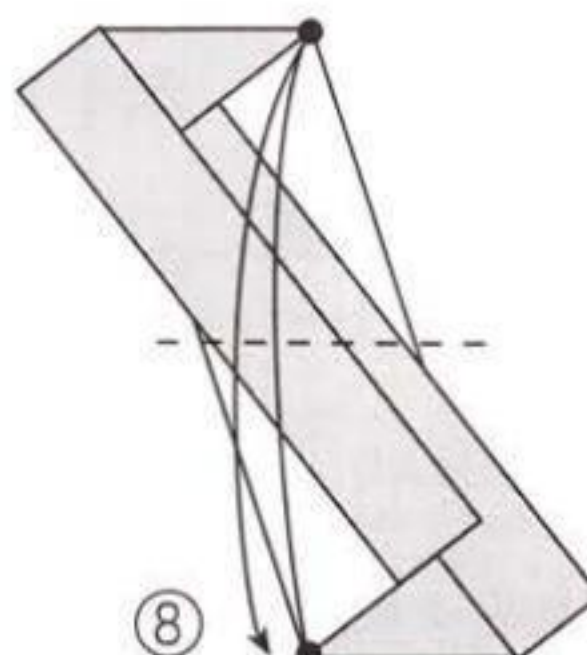
Tur



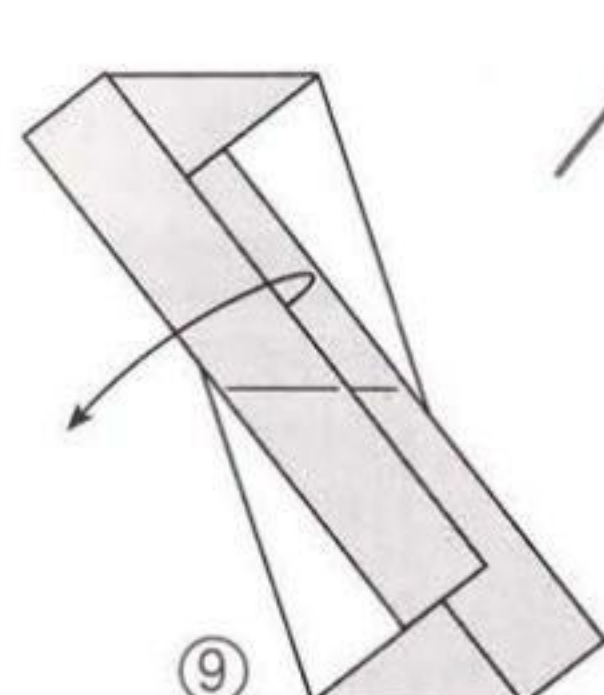
⑤



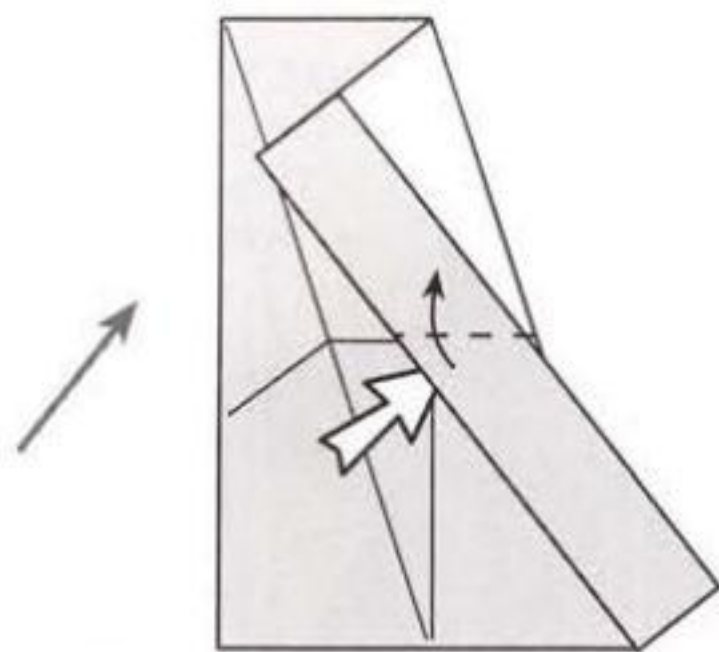
⑦



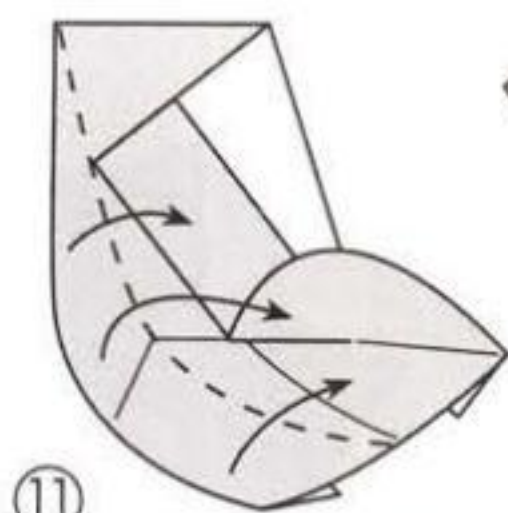
⑧



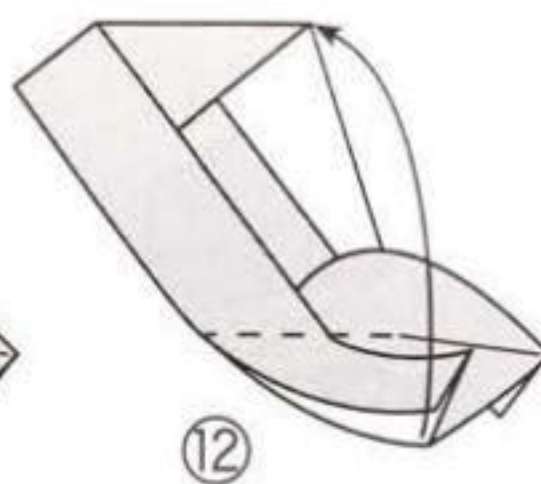
⑨



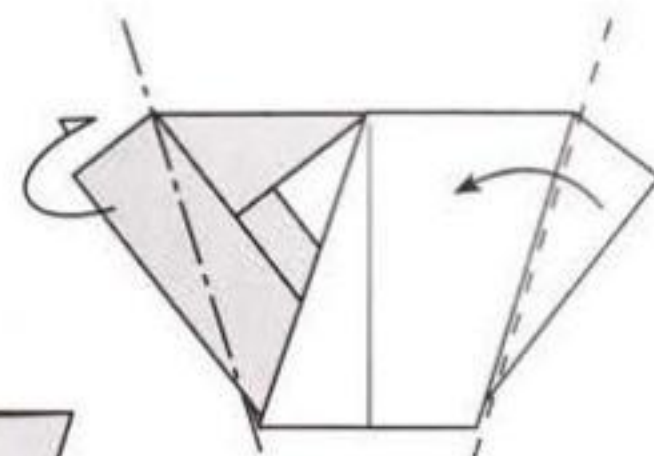
- ⑩ ついでに短い折り線で折り上げてポケットを半開きにする。平面に潰してしまわないように注意。
Fold the flap up along the crease line. The model becomes 3D.



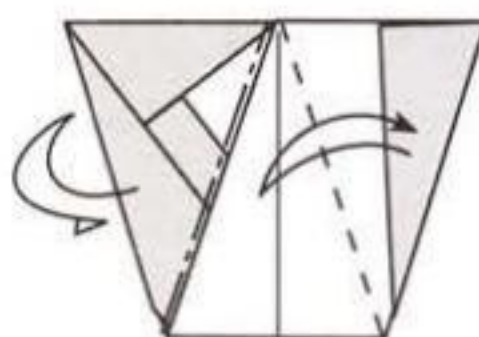
- ⑪ ついでに折り線で折る。
Fold along the crease line.



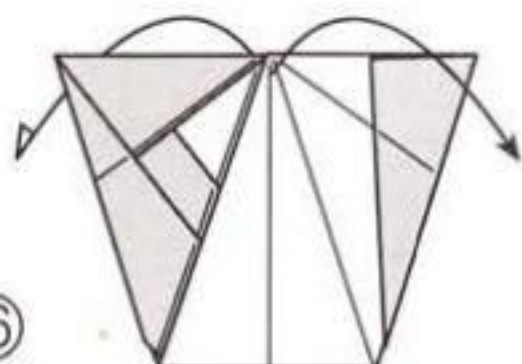
ついでに折り目で折り上げて平面にたたく。
Fold the corner up along the crease lines. The model becomes into flat.



⑬



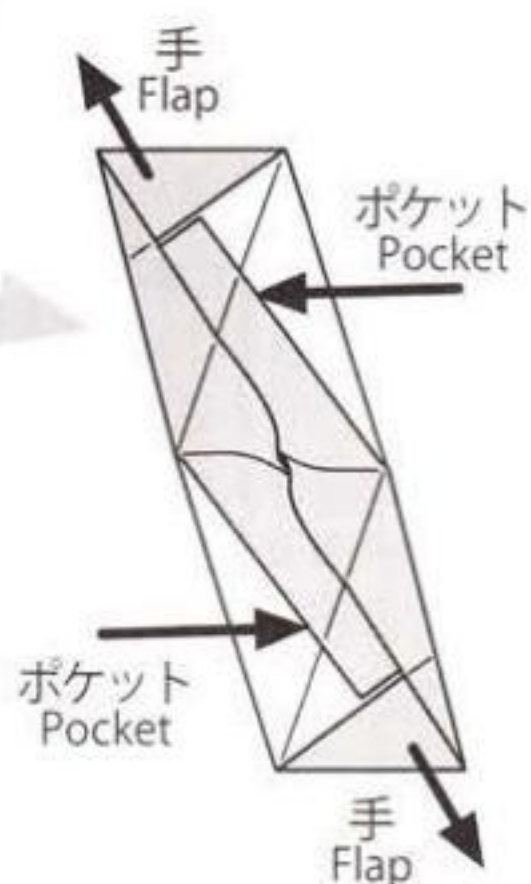
⑭



- ⑬ 半開きにする。中央のかみ合っている部分が外れないように注意。
Open the model, but don't unfold the center area.

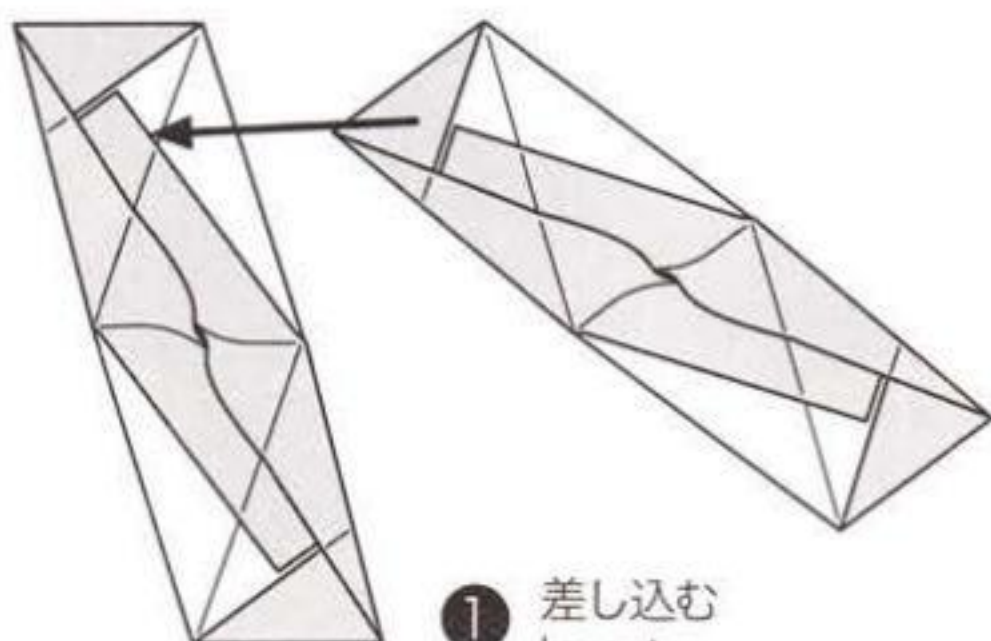


⑮

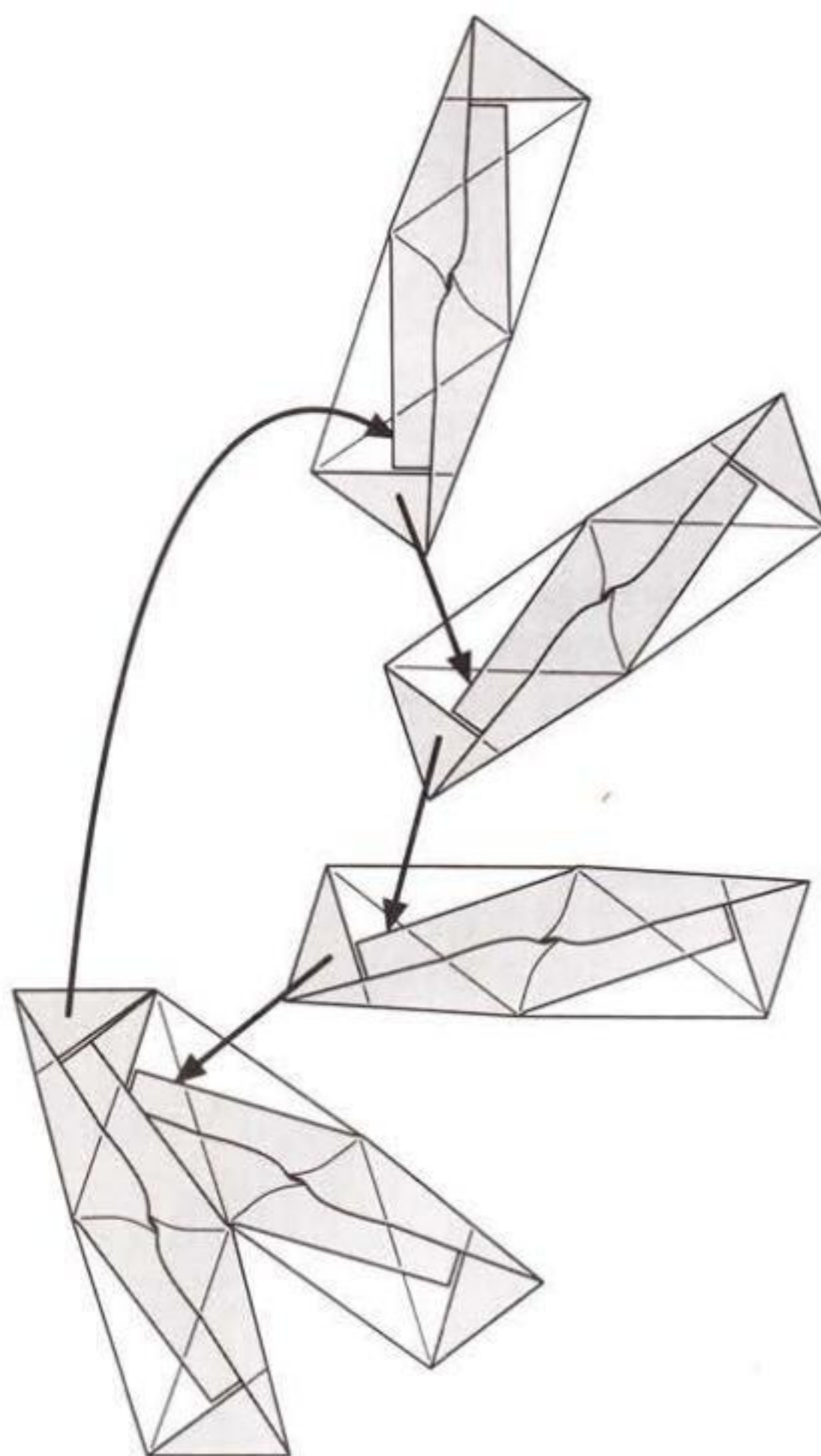


「ミイラスター」のユニット
The MUMMY STAR module
同じものを 30 個作ります
You need 30 modules.

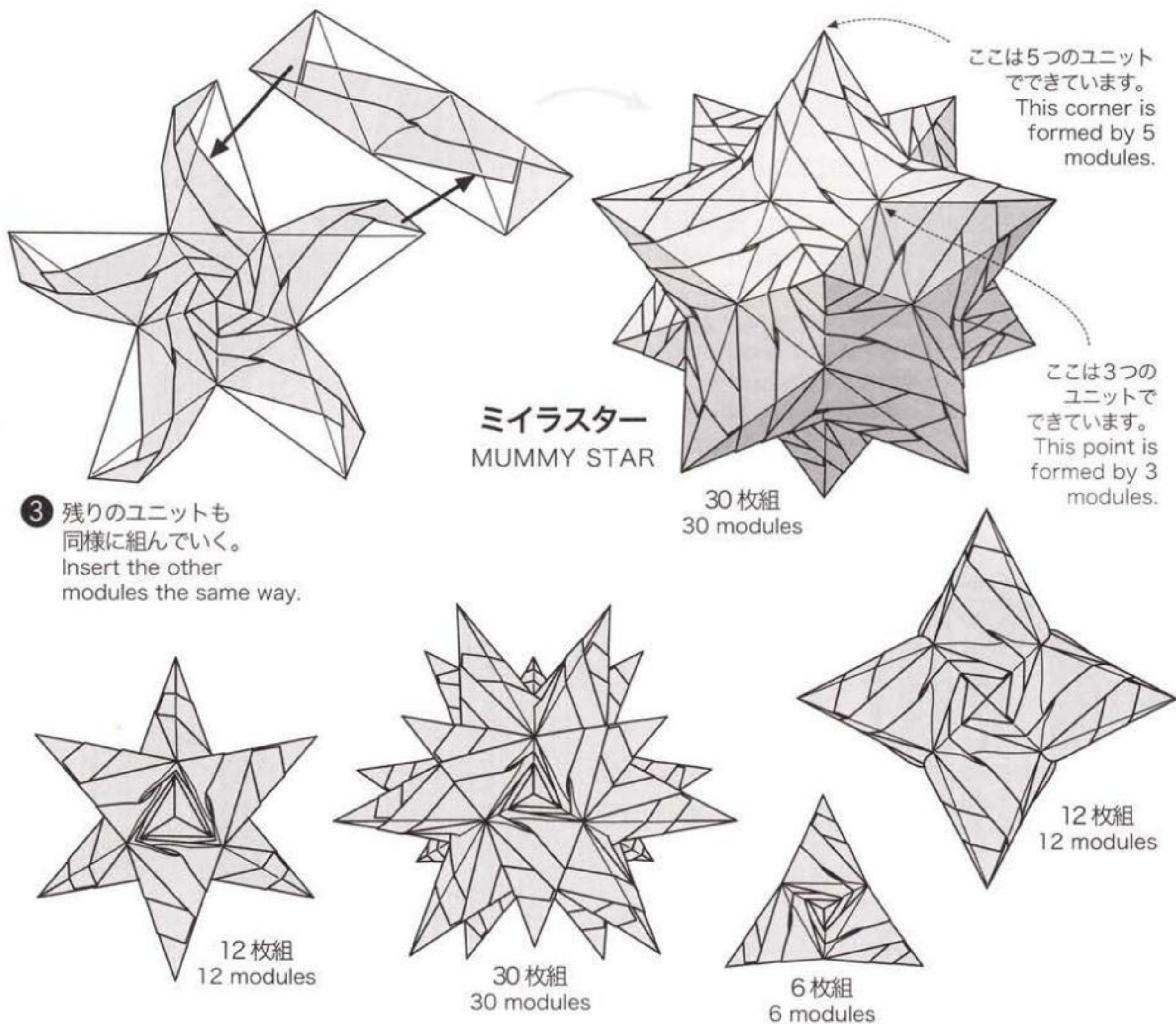
組み方 / Assembly



- ① 差し込む
Insert.

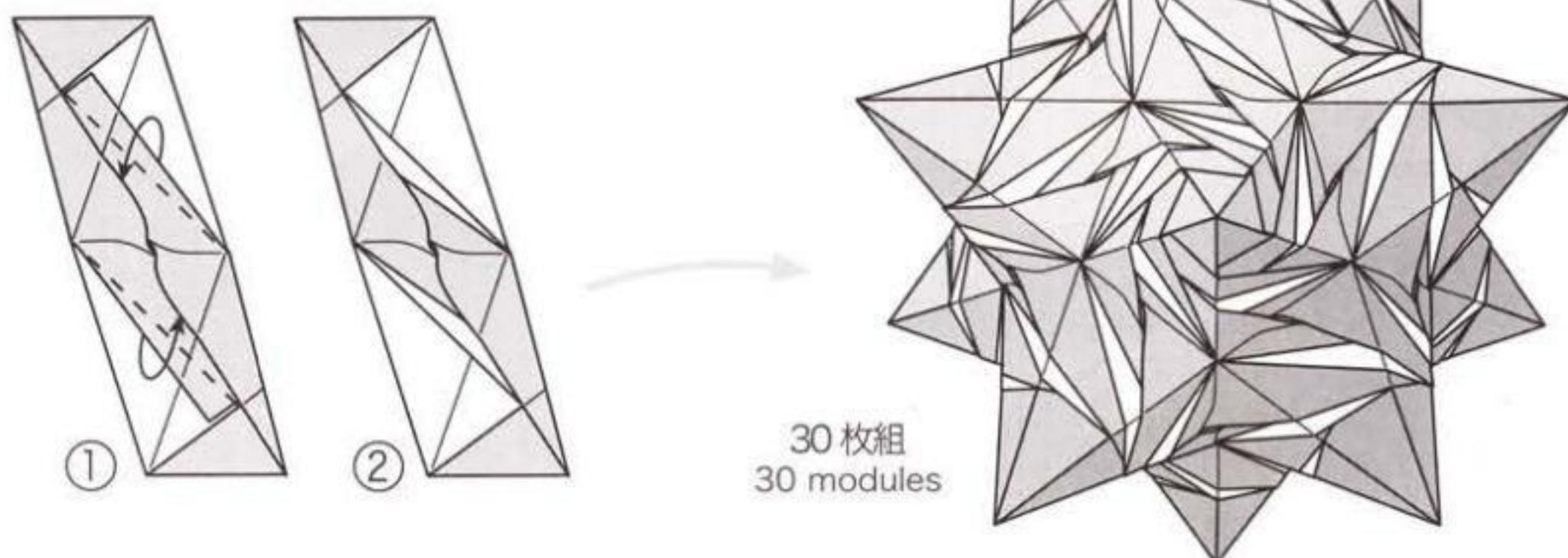


- ② ユニット 5 つで五角錐状に組む。
Assemble and make a pentagonal pyramid.

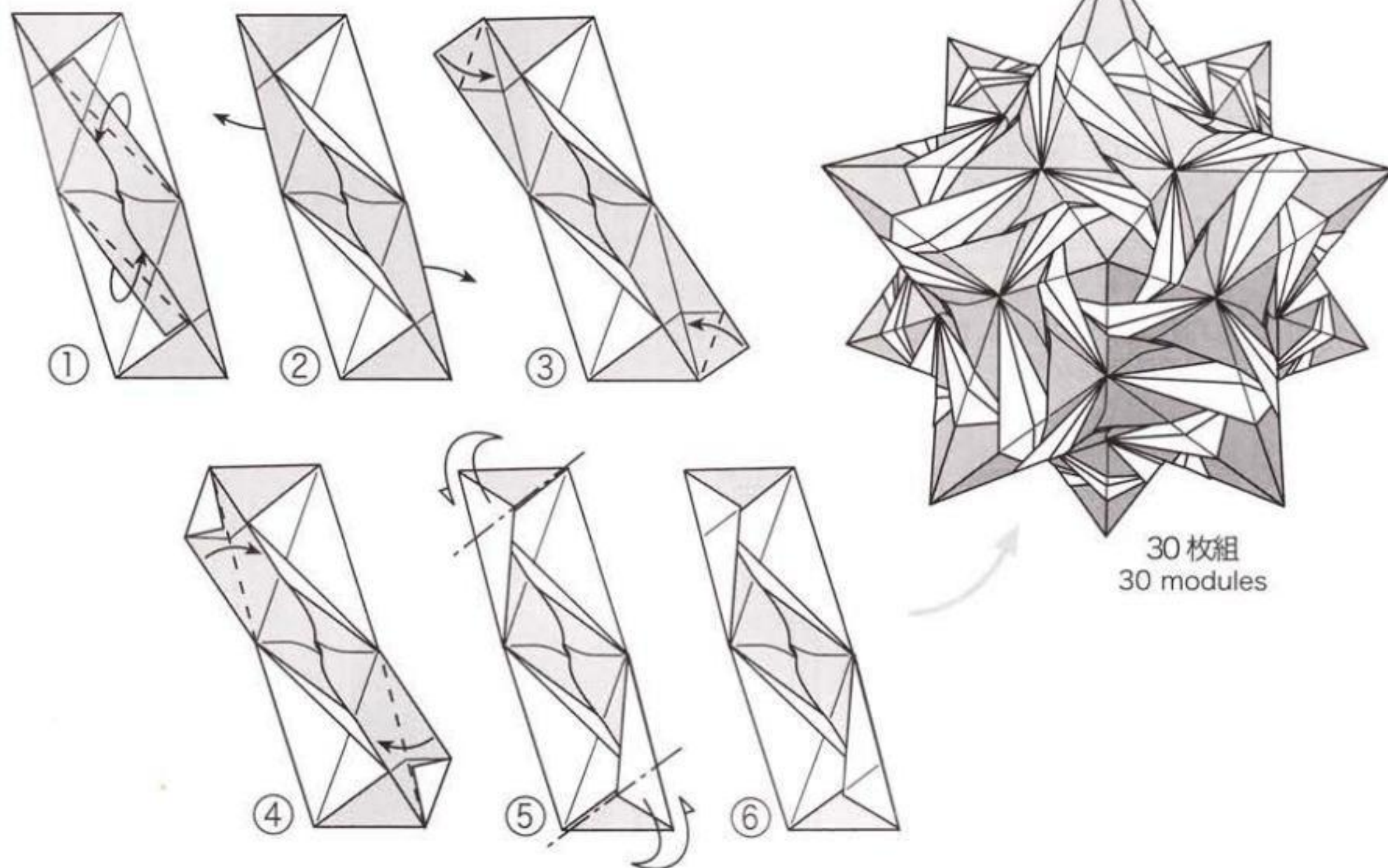


アレンジ1 / Arrangement 1

【雲龍 / UNRYU (Rising Dragon)】



【波頭 / HATO (Wave Crest)】



折り紙の
周辺

第77回

サイン

Autograph?

Origami and
Its Neighbors

布施知子 Fuse Tomoko

著書へのサインは基本的にしないことにしている。

「ごめんなさい。サインはしない主義なので」とお断りする。

20代前半の頃、もう故人になられたが、ある著名な詩人のお宅にうかがって一夜を過ごす機会があった。そのとき、私に下さる詩集にサインをしながら「息子が神田の古本屋でサイン入りの本をみつけたのよ。何だか興ざめね」とおっしゃった。それが現在まで心に引っかかっているのだ。サインは気軽にしたいのだが、待てよ、その本が不必要になって捨てるとき、サインがあっては後ろめ

たいだろう、などと先読みしてしまう。サインをすることでその本が特別な意味を持つなら、そういう跡を残したくない、という気持ちがある。一冊の本はどれも等しく一冊の本。

ところが、である。海外でサインを求められると、もう説明が面倒になって書いてしまうのだ。日本でも場合によりサインに応じている。自分でもいい加減だとあきれる。困ったもんだ。軸がぐらぐらだ。求めに応じてサインする方が簡単だ。断る方がむずかしい。

吉澤章先生は、心を込めて丁寧にサインされ印を押されたと聞く。



6月1日に安曇野豊科近代美術館での展覧会が終わった。

第一の感想は、こういう展覧会は一人ではできない、ということだ。制作から始まって設営撤収まで、大勢の方々に手伝っていただいた。折り友にもたくさん来場していただいた。山口真さんには展示風景のビデオをとっていただき、貴重な資料と

なった。みなさんありがとうございました。

次の感想は、広いスペースで思いを大きく展開できるのは何とうれしかったか、ということだ。今また次のプランを練っている。

他に、使用した紙やその大きさなど、データーを記したパネルなどあった方がいい、という声をたくさん聞いた。本人は制作と展示方法で頭がいっぱいになっているので、細かいデーターを書き出すのになかなか気がまわらない。学芸員やスタッフを含めた美術館の規模も関係してくるが、もっと密に連絡をとり合えばよかったと思っている。



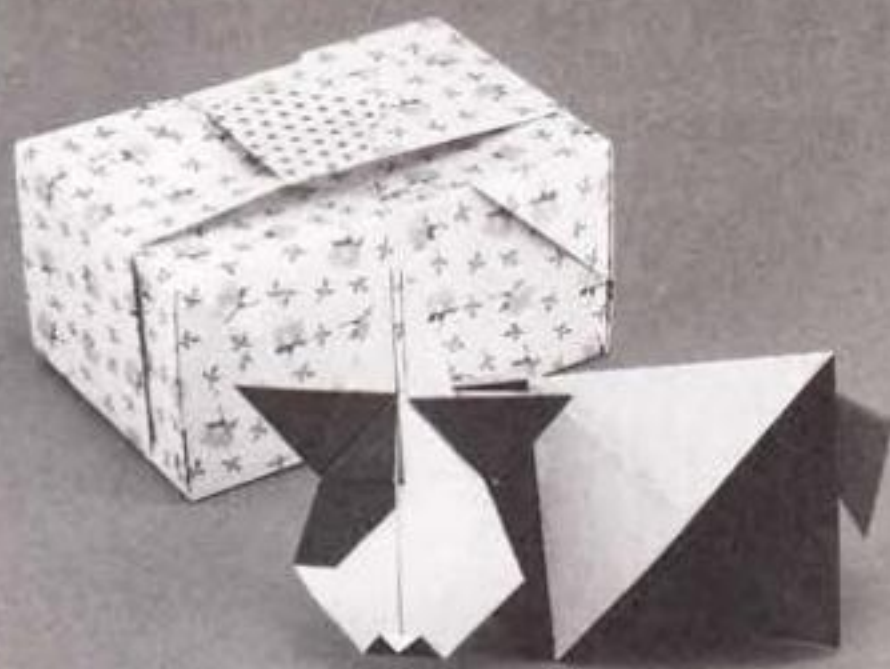
展覧会他、怒濤の5月のあとOrigamiUSAに行き、今ようやく落ち着いて家にいる。マタタビの花が強く香っている。しばらくしてオオムラサキがとんでくれば梅雨明けとなる。季節を濃く感じながら日常のリズムを取り戻して、さあ、また折り紙だ。

第78回 うし 鶴田芳理・作

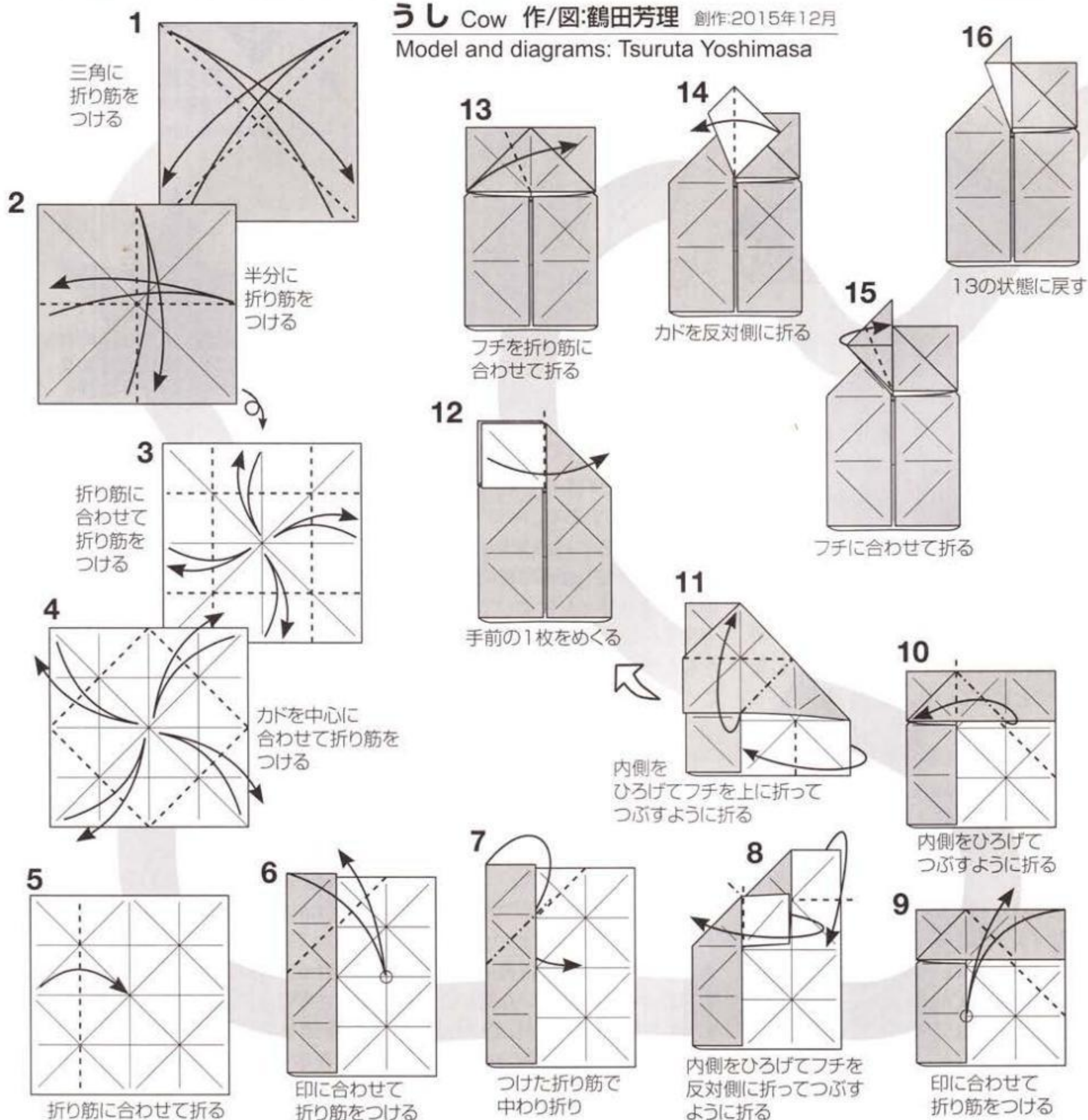
直方体ボックス やまぐち真・作

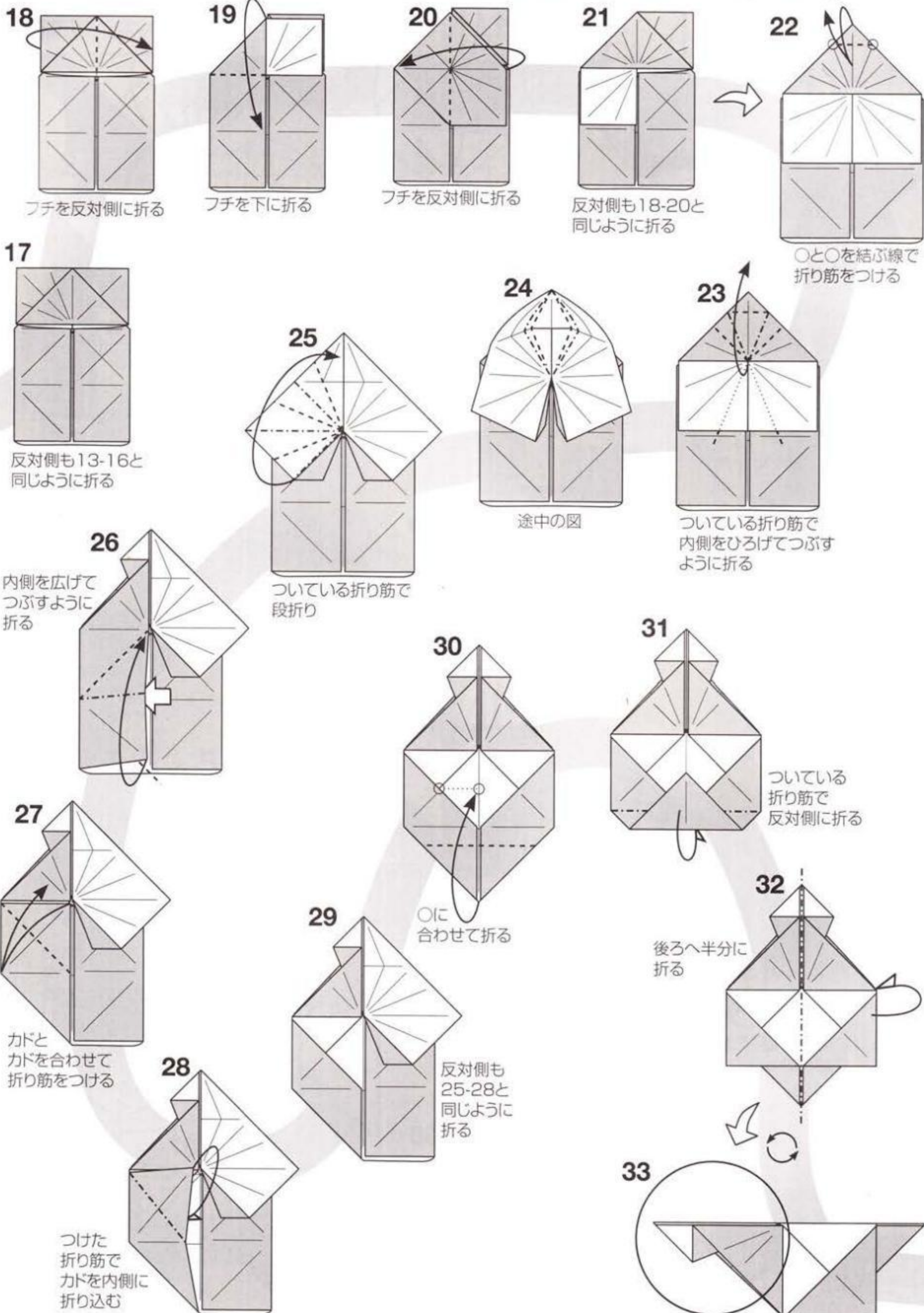
Cow by Tsuruta Yoshimasa Cuboid Box by Yamaguchi Makoto

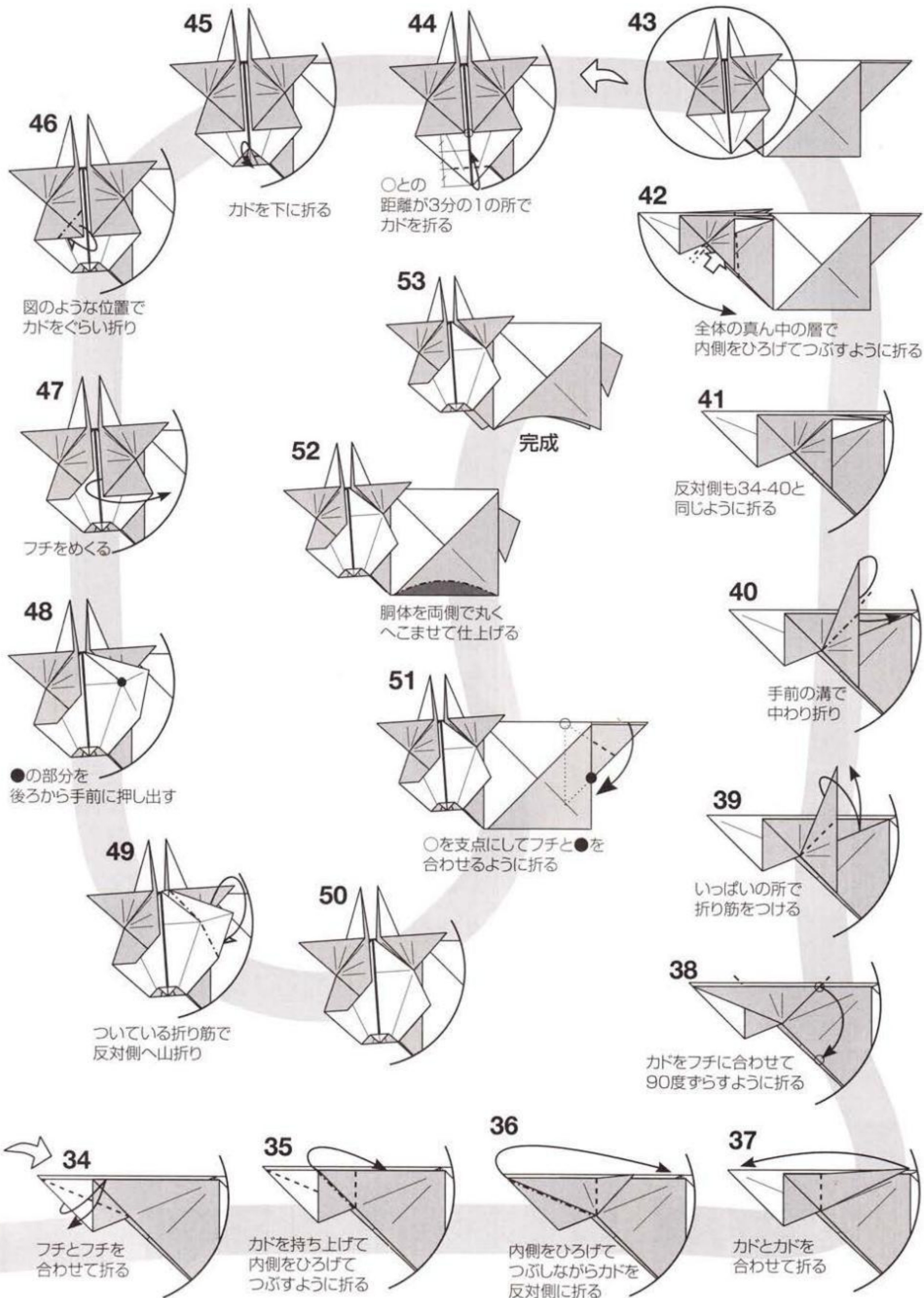
「うし」はシンプルなデフォルメが魅力的。少し大きめの紙で折ることをおすすめします。「直方体ボックス」は、意外とロックがしっかりかかって実用的。少し厚手の紙で折りましょう。



うし Cow 作/図: 鶴田芳理 創作: 2015年12月
Model and diagrams: Tsuruta Yoshimasa

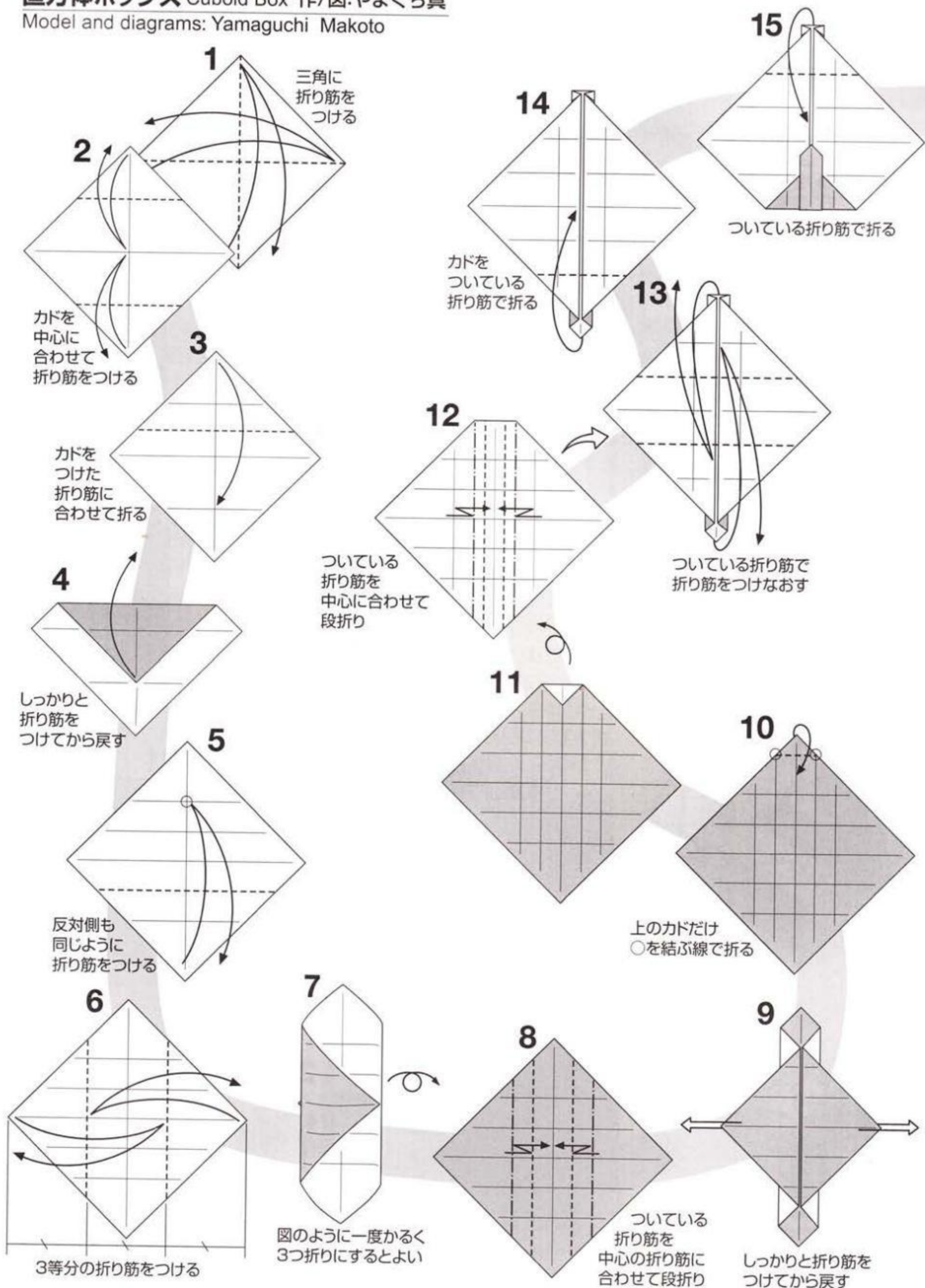


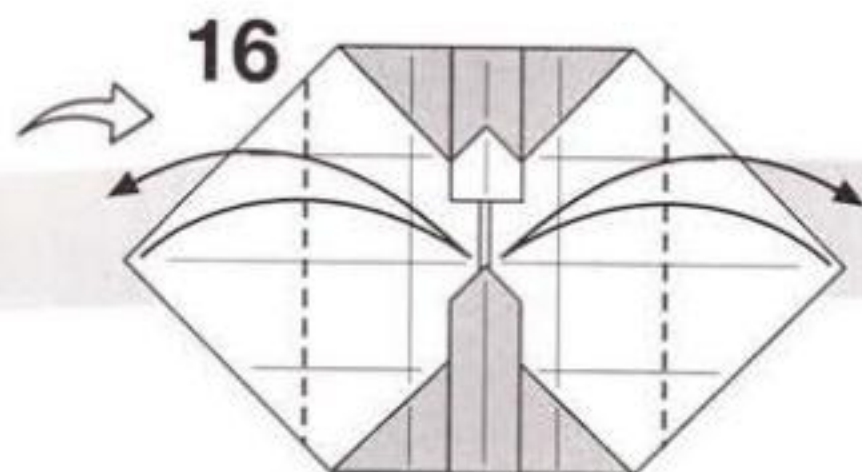




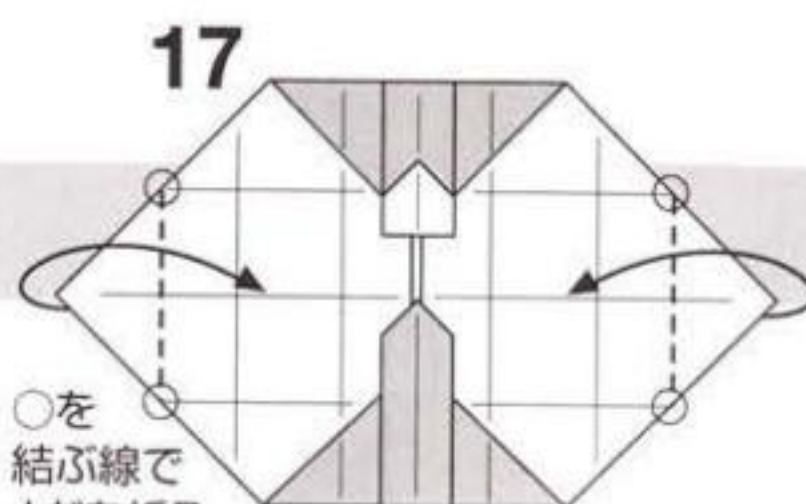
直方体ボックス Cuboid Box 作/図:やまぐち真

Model and diagrams: Yamaguchi Makoto

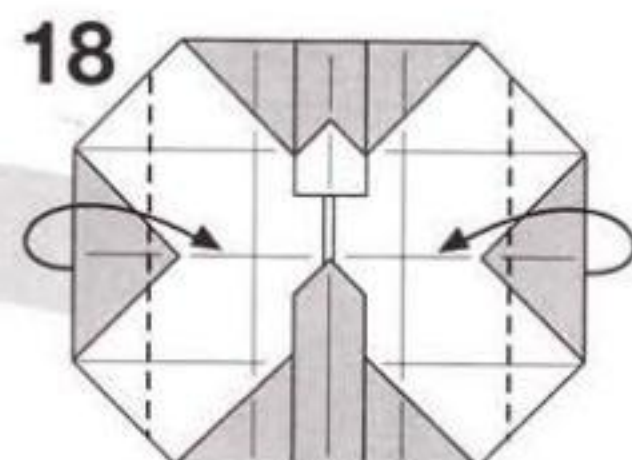




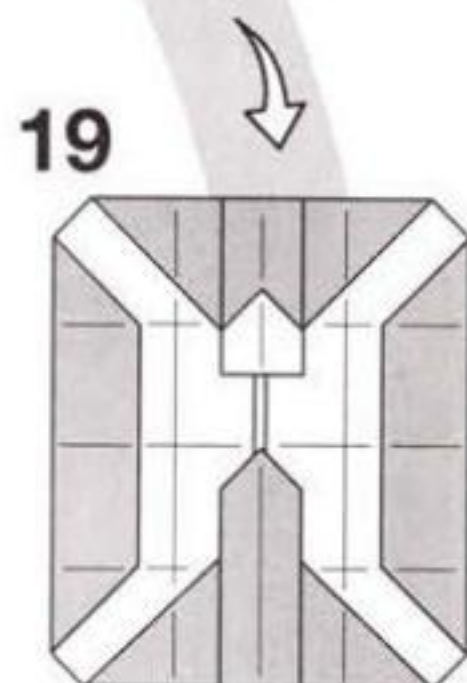
カドを中心に合わせて
折り筋をつける



○を
結ぶ線で
カドを折る



ついている折り筋で折る



19



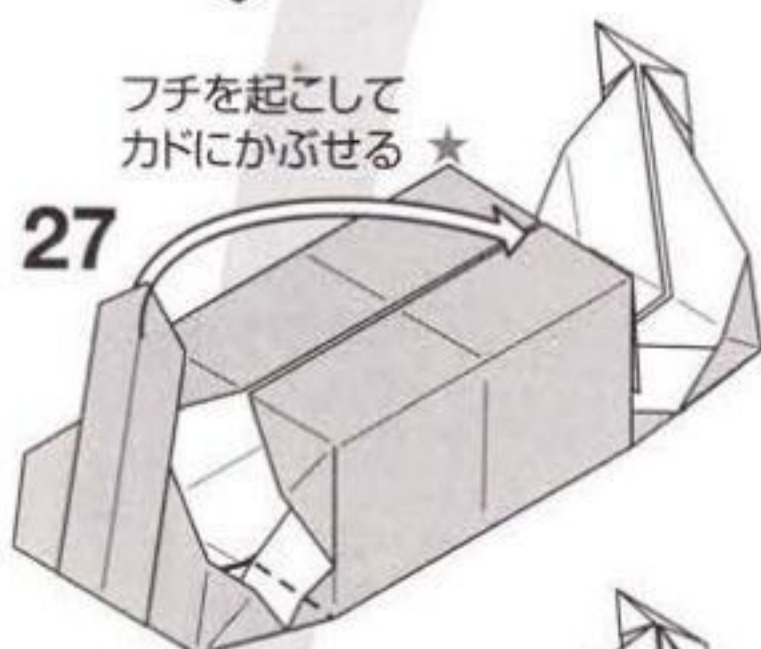
フチを起こして
カドにかぶせる★



両側の
フチを引っ張って
すき間をひろげる

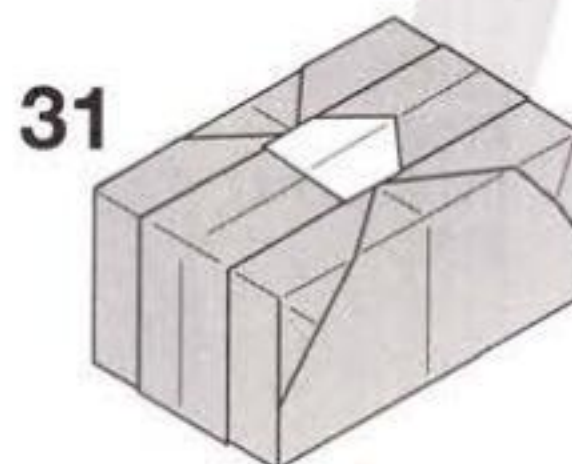


白い部分を
かぶせるようにして
カドをすき間に差し込む



フチを起こして
カドにかぶせる★

27



31

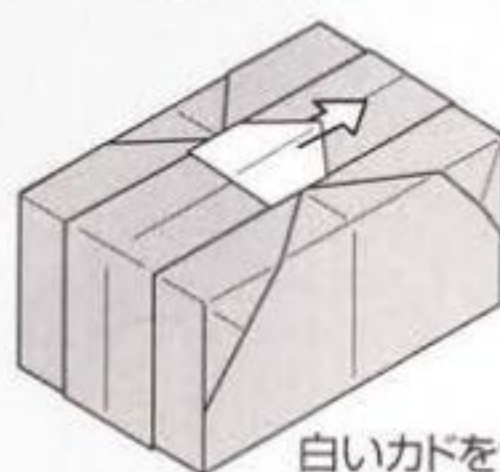
できあがり



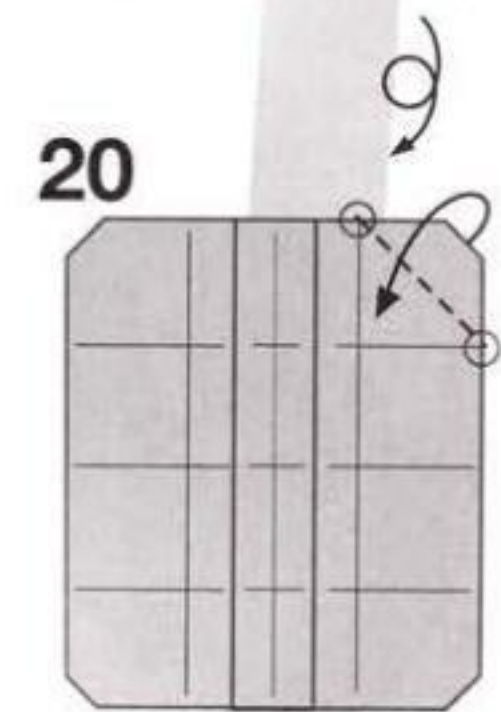
26

途中の図
起こしながら
フチを中心に
合わせる

●あけかた●

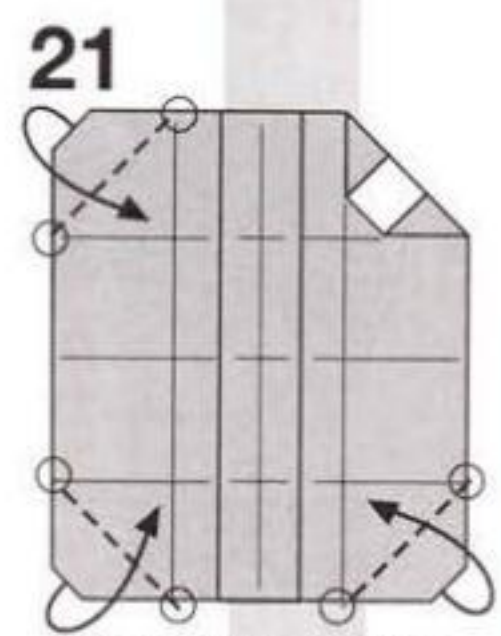


白いカドをつまんで
引っ張る



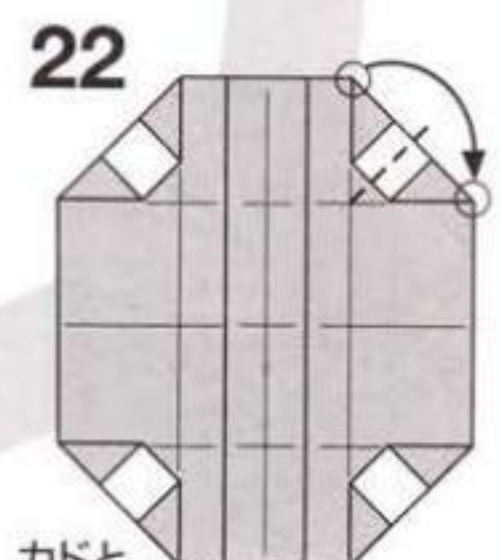
20

○を結ぶ線で折る



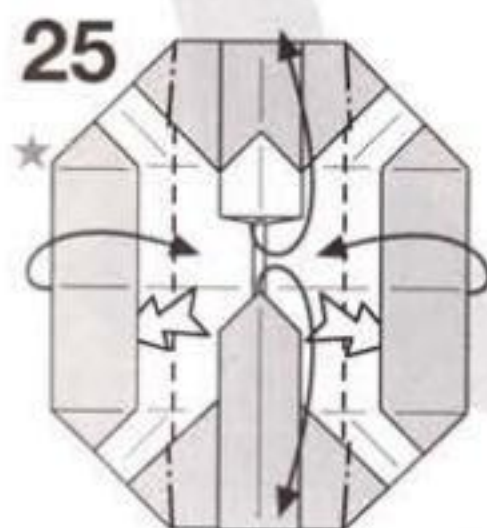
21

残りも同じように折る



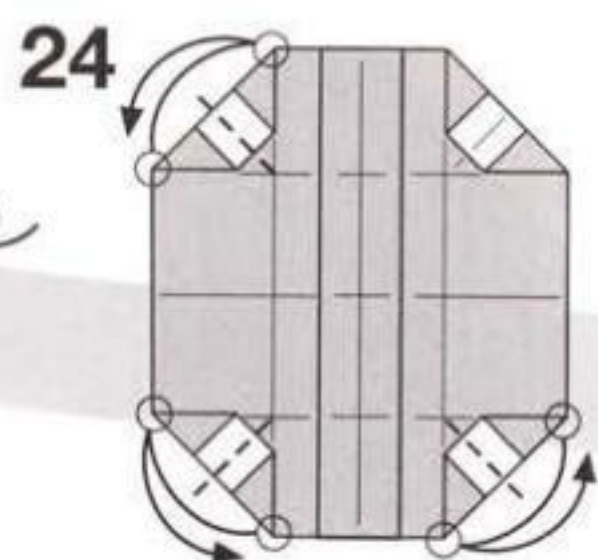
22

カドと
カドを合わせて折る



25

内側をひろげながら
左右のフチを垂直に
起こすように折る



24

残りも同じように
折り筋をつける



23

この部分だけ
折り筋をつける

しっかりと
折り筋をつけてから戻す

「伐折羅大将(2016年版)」制作過程

—詰め込みすぎたはずなのにシンプル?—

Making of Vajra (Basara Taisho) 2016:
Turned Out to Be Simple but with Lots of Ideas

北條高史

Hojyo Takashi

■はじめに

今回の題材である「伐折羅大将」には約10年前にも取り組んだことがあり、本作と同様に「新薬師寺の像と興福寺東金堂の像を混ぜたデザイン」を目指した(図1、『折紙探偵団』96号に展開図掲載)。当時の自分としては新しい方向性・慣れない技法に挑み、その上で、ある程度の完成形に至ったつもりだった。しかし、手が小さい・足のデザインがシンプルすぎるというアンバランスな要素があり、そしてなによりも右手の宝剣を折り出せていないことが不満であった。いつかまた次の機会には、左右非対称な展開図を使って、宝剣も1枚で同時に折り出したいと思っていた。

そのような思いが頭の中でずっと発酵を続けていたのかどうかわから

ないが、今回の作品へと繋がる方針を2015年の年末に突然思いついた。年賀作品として創作した「安底羅大将」は全体的に簡略化した構造だが、「右手に物を持った人物像を折り出すための構造・方針」を確認する目的ではうまくいったと思う(図2)。そのあとは各部を細かく分割して、部品ごとに洗練してから再統合を繰り返す作業が続いた。

■全体構造・方針

マガジン今号の「展開図折りに挑戦!」のページに展開図を掲載しているが、その基本となっている設計思想は図3のようなところである。筆者が人物作品で多用している「人物の基本形」を4つに分割し、大きな正方形の中で、灰色で示す状態に配置する。これにより、左右対称な下半身と左

右非対称の上半身が矛盾なく連結されることになる。

■腹甲・胸甲

今回完成写真と展開図を掲載しているデザインに至る直前段階まで、腹甲と胸甲の部分については、基本となる単純なカドから粘土作品のように細かく仕上げ加工を施してつくっていた。それに対して現時点の最新版では、展開図の通りに折ることでだいたい完成に近いところにまで至るように改修した。非常に長い工程で多くの加工作業を要する作品であるため、「アドリブ的な作業を含んでいて失敗の可能性が高い工程」は極力減らして、完成に至る確率を高めたかったのである。また一方でこの構造により、全身デザインの統一感が高まることにもなった。



図1「伐折羅大将」(2006年創作)



図2「安底羅大将」(2015年創作)

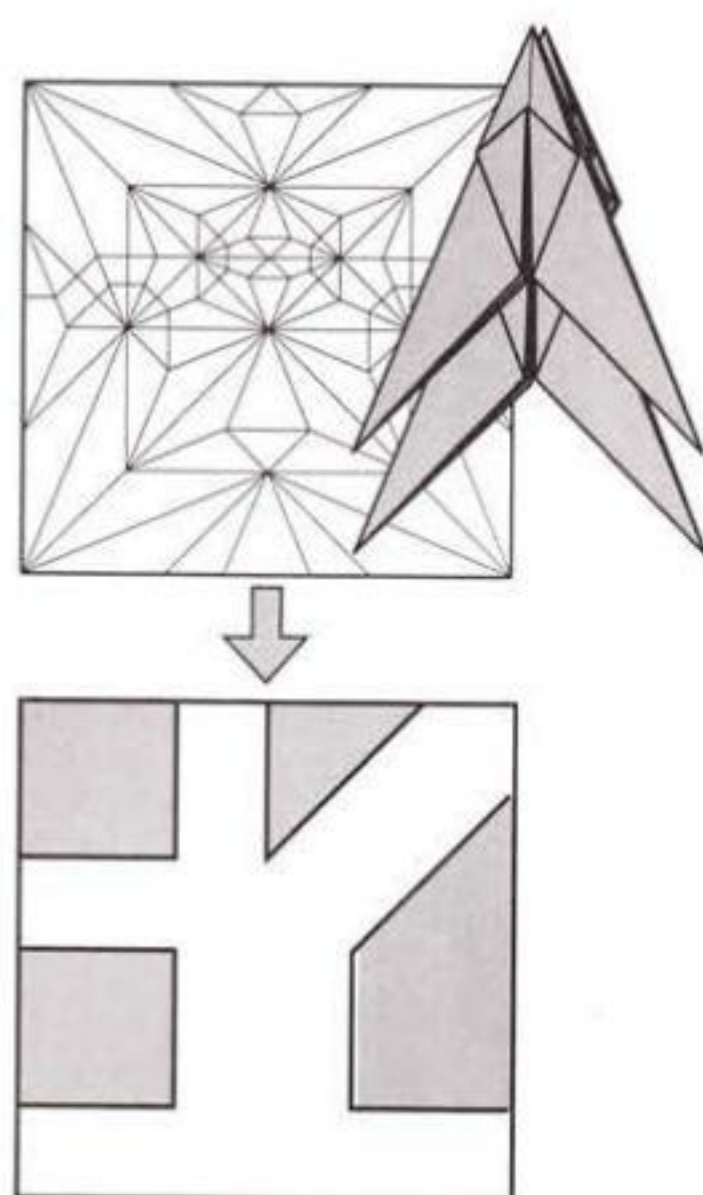


図3「人物の基本形」と「伐折羅大将(2016年版)」の全体構造概略

「伐折羅大将 (2016年版)」制作過程

—詰め込みすぎたはずなのにシンプル?—

Making of Vajra (Basara Taisho) 2016:
Turned Out to Be Simple but with Lots of Ideas

北條高史
Hojyo Takashi

■頭部

本作の題材とした像のひとつである「興福寺東金堂の像」の髪型は、「頭頂部でひとつにまとめて束ねた形」になっている。このようなデザインは、約5年前に創作した蛇腹作品「魔虎羅大将」に盛り込んだこともある(図4、『日本折紙学会第21期会員特別資料』に展開図掲載)。しかし、今回の伐折羅大将では頭部の領域に、目黒俊幸氏の「うに」の構造がきれいに収まってしまった。それがそのまま、新薬師寺の像のようなトゲトゲの「焰髪」になっている。

顔面構造の発想のおおもとは、故・吉野一生氏の「虎」の頭部技法である。「かえるの基本形の頭部」のような「用紙内部から出たカド」がひとつあれば、人物の顔のだいたいの部品・要素をバランス良く折り出せる、とい

う構造を目指した。

しかしここで誤算が生じた。顔面となる部分(「展開図折りに挑戦!」のページの図で灰色になっている正八角形)の大きさは、全身像を79cm角の正方形(全紙から切り出せる最大サイズ)で折った場合でも直径6cmほどになり、小さすぎた。本来使いたかった展開図では口周辺の部分がこれとは異なる折り方になるはずだったが、今回は「現実的にこの大きさで折ることがぎりぎり可能で、かつ、用紙の裏側に手を入れずにつくることができる範囲のデザイン」としている。

■腕部

右手周辺は、「人物の基本形」の腕の構造をふたつに割いて、その間に宝剣のための部品をはさみ込んだ状態となっている。過去数年にわたって「腕の領域の外側に、持物(じもつ)のための領域を付け足す」パターンをいくつか模索したが、全体構造をまとめる段階がうまくいっていなかった。今回の発想に至ったことで創作が一気に進んだのは、冒頭に書いた通りである。

左腕の袖部分については展開図をそのまま折った状態ではなく、ぐらい折りを含む加工を少し追加して、より「鱗袖」らしい形状を目指している。このあたりはさらに改修の余地があるかもしれない。

■脚部

初期段階では、脚部の造形にもアドリブ的・粘土加工的な要素が多く入っていた。しかしこれについても腹甲や胸甲と同様に、なるべく展開図

の明確な折り目だけで鎧や服の雰囲気が出られる構造を目指した。

個人的な感覚では、「顔に目鼻を表現した人物像では、足が裸足の場合には、五本指を表現することがデザインのバランスをとるために重要」という気がしている。しかし現状の足先の構造を使う限りでは、足の指を折り出す際には「ぐらい折り」を多用せざるを得なかった。

■背面造形

前作の制作当時、10年ぐらい前は、仏像の背面形状を調べるのは大変なことだった。市販の写真集や美術館の図録では正面写真しか載っていないことがほとんどで、興福寺東金堂の像では左腕に隠れた腹部の形も把握できなかった。

また、実際に題材の像を見るために奈良・興福寺に行ったものの、奥まった暗いところに安置されている状態を正面から拝観できるのみで、背面は依頼しても見せてもらえなかった。

そういえば、2004年に東京国立博物館で夢違観音が展示された際には、「暗い会場内にペンライトを持ち込んで像の背面を照らして、監視員に注意されているひと」がいるところに遭遇したこともある。

しかし最近は、仏像などの背面造形情報を非常に入手しやすくなった。博物館では彫像を全周すべての方向から見られる展示方法にしていることが多くなり、図録では背面を含めた複数角度の写真が載っている(例: 2009年「国宝阿修羅展」や2013年「国宝興福寺仏頭展」の図録)。情報収集に手間がかからない時代・以前



図4「魔虎羅大将」(2011年創作)

○北條高史(ほうじょう・たかし)=日本折紙学会評議員。記事の中でも書いた通り、現在はすでに伐折羅大將の次回作をどうすべきかと考え始めています。これ以上細かく複雑な構造を盛り込むのは無理があるので、仕上げ技術の向上を目指すことが主体になりそうですが。



には見えなかったところまでも見ることができた時代になった。造形をする者にとってはありがたいことである。

「見えない部分をわからないままにつくってしまった」のと、「知っていたけれどもつくりなかつた・知っていたうえでいろいろと模索して違う形状になった」ということは明確に異なる。

今回の作例では、腰の背面から左右にかけての装甲については展開図の構造からそのまま折り出すことはできなかったで、「ぐらい折り」を施して仕上げています。

■接着・ポーズ付け

作者は現時点では、「作品にポーズを付けるために、作品内部に針金を仕込む(関節部の針金を曲げることでポーズを固める)」ことは、あまりやりたくないと考えている(「作品を立たせるための支え」として針金を使うことには抵抗がないのだが)。「きちんと保管すれば、最低でも20年は保つ作品」をつくりたい、「作品が紙の弾力や自重、素材の化学変化などによって、自発的に壊れてゆく」ことがないようにしたいという観点から、「錆が生じ得る素材」を作品の中に仕込むことには抵抗がある。

そして本作でもこの考えのもと、全身のポーズ付けは「曲げたい部分だけを局所的に湿らせるウェットフォールディング」と「糊による固定」で対応している。今回は、紙の重なりが比較的多い作品を、ある程度厚みのある紙で折ることを前提としていたため、ポーズ付けには非常に気を遣った。

しかしそもそも、「力がみなぎった

ポーズ」というのは、接着と水分で固定・安定化することで実現し得るのか。「針金を使って、紙が持つ弾力を無理矢理ねじ伏せることでしか得られない緊張感」というものもあるのではないかと、という気もしてくる。

樹脂被覆が付いた針金ならば、両端にさえ気をつけていれば錆が紙に移る心配が少ないし、最近では接着・曲げ加工の際の使用感が良い被覆針金製品も存在する。毛嫌いしないで取り組んでみてもいいのではないかと、思うこともある。

だが、やはりまた元の考えに戻って、堂々巡りしたりする。「その形で素材が安定している状態」にすることがまずは基本なのではないか。作品に力感や緊張感を盛り込むことはそもそも、紙の弾力を物理的に押さえ付けるような構造になっていなくても、他分野の彫像・塑像のようにデッサン力と粘土加工的に操作する技術力によって十分対応できなければいけないのではないかと、というふうに。

■まとめ

本作を練り上げてゆく過程で、「十二神将の基本形」とでも言うべきものができたように思える。鎧と持物を表現するための十分な材料・部品。プロポーションバランスとポーズ付けの自由度をそなえていること。それに加えて、現実的に入手可能な大きさの紙(79cm角の「きぬもみ」90kg)でぎりぎり折ることが可能な技術的・構造的密度。さまざまな要素をこれでもかという勢いで詰め込んだはずなのに、表面に出ている形状は予想よりもはるかにシンプルになった気がす

る。変則的な線の大部分が、作品内部に隠れているだけかもしれないが。通常はこのような複雑作品をつくったときには、一体をきちんと仕上げたところで「もう二度とつくりたくない」と思ってしまうことがほとんどだった。しかし本作では、改良すべき点・改良できる構造が、いまだに次々に見つかって終わりが無い。また何度も作り直したくなってくる。このような作品は、自作品の中では非常に珍しい。何ヶ月後かには多分、少なくとも、もうちょっと上手くつくれるようになっていくことだろう。

■「展開図折りに挑戦!」の解説

全体図には、作品の表面に出る側から見た状態を示しています。太い線が山折り、細い線が谷折りです。

「この作品で使う基本的な比率を、折ることによって出す方法」を一応書いておきますが、実際に大きな紙・厚い紙で折るときにはこの方法ではズレが出やすいと思います。また、余計な折り目を大々的に付けてしまうことにもなります。

作者自身が制作する際には、要所要所の点の位置を算出しておき、定規で測って四辺に鉛筆で印をつける形をとっています。

全体図の中で灰色で示している正八角形部分(顔面)と、全体図中央部の灰色円形で囲った部分については、拡大図を載せました。顔面については、全体をたたむ前に拡大図で示す折りすじも付けておき、そのあとでひとまず全体図のとおりたたんでから、拡大図の山谷の通りにたたみ直すといいでしょう。

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

神谷哲史 Kamiya Satoshi

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/> にアクセスしてください。

51冊目 『おりがみ／のりものアルバム』 川村 晟・著

“ORIGAMI VEHICLES IN THE NEW STYLE” by Kawamura Akira

『おりがみ／のりものアルバム』は、『おりがみ／動物アルバム』の続編として1988年に出版されました。蛇腹を使った動物をまとめた『どうぶつアルバム』に対して、『のりものアルバム』では自動車や機関車などの乗り物30種類の折り方が掲載されています。また本書の特徴として、「アルバム」のタイトルどおりカラー写真にかなりのページが割かれています。作品の完成単体だけでなく、ジオラマ用の小道具や背景等と組み合わせたものも多いので、飾り方のヒントにもなるでしょう。

本書に掲載されている作品はどれも蛇腹折りで、最初に指定された升目の折り筋をつけてから折り始めます。そのため、一般的な折り図とは違い、升目単位の長さを図に表記することで折り目の位置を説明しています。また、ほとんどの作品が立体的な仕上がりとなるため、必然的に立体図も多くなります。蛇腹の立体作品という、特殊なジャンルの折り紙の説明のための苦勞や工夫が感じられます。

序文等から読み取れる情報から、著者の川村氏は70年代には蛇腹を使った複雑な蒸気機関車を創作されていたようです。海外では60年代後半～70年代にかけて、エマニュエル・モーザ氏やニール・イライアス氏などによって蛇腹作品が創作されていますが、インターネットが普及した現在とは違い、当時は海外との情報交換の機会が少なかったことを考えると、川村氏は蛇腹黎明期におけるパイオニアの1人といえるでしょう。

掲載されている作品は、大きく分けて蒸気機関車と各種列車車両、自動車、そして船を題材とした作品になります。

列車作品のメインとなる機関車は、3枚のパーツを組み合わせて作るもので、本書に掲載されている作品のなかでは唯一の複合作品になります。川村氏は1枚で折ったものなどいくつかの機関車も創作されていますが、一般向けの書籍に掲載するには難しすぎると思われます。おそらく折りやすさを優先して複合のバージョンを採用したのではないのでしょうか。また、

先頭のパーツを替える事により、弁慶型とノッポ煙突型のバリエーションを楽しめるのは複合ならではの利点になります。機関車以外にも、炭水車・貨物車・客車など、いろいろな車両の折り方も掲載されていますので、鉄道模型のようなジオラマを創る事ができます。たくさん折って並べたくなる作品群です。

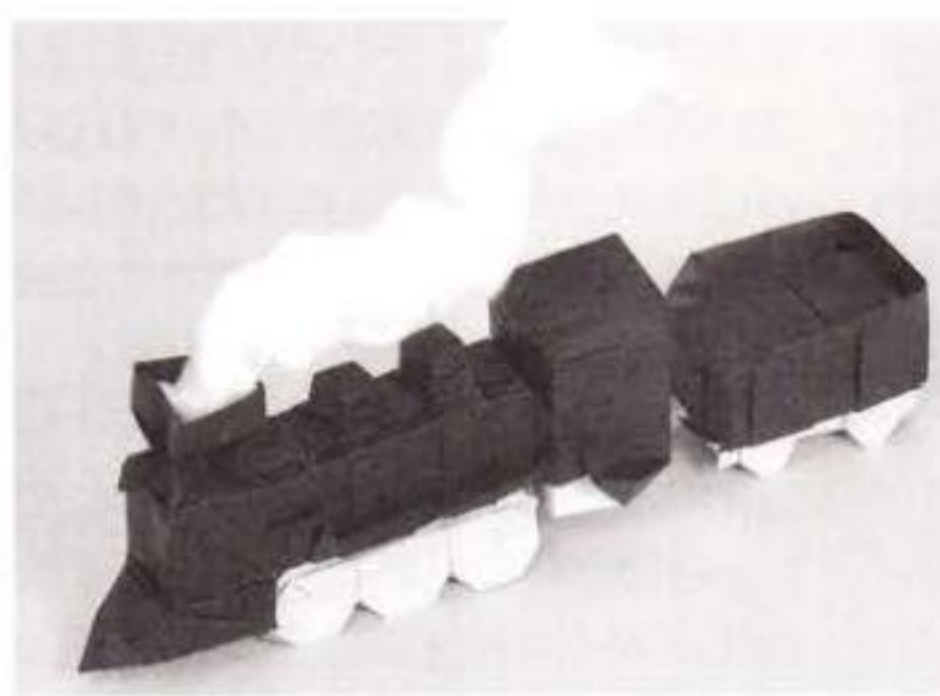
自動車を題材とした作品群としては、オープンカー・スポーツカー・乗用車・ワゴン・パトカー・救急車・トラック2種・オート三輪・クラシックカー2種・レーシングカーの12種類の折り方が掲載されています。なかでも特徴的な泥よけを折り出したクラシックカーは、川村氏の代表作の一つとなっています。これらの作品は、数種類のタイヤの折り方と、立体化の手法を組み合わせることで車種を折り分けています。それぞれ個別のヒダを使って折っているのも、実は簡単に位置をずらすなどの変更が可能です。仕組みを理解すればタイヤの折り出し方や形のバランスを変えたりしてアレンジする事もできるでしょう。

水上の乗り物としては、船・ボート・ヨット・汽船の4作品が紹介されています。本書の中では比較的簡単な作品になりますが、船では裏側の形まで作り込まれています。また汽船は2本の高さの違う煙突が折り出しされています。

巻末では、よく使われている折り方として特徴的な2種類の



画像1:表紙



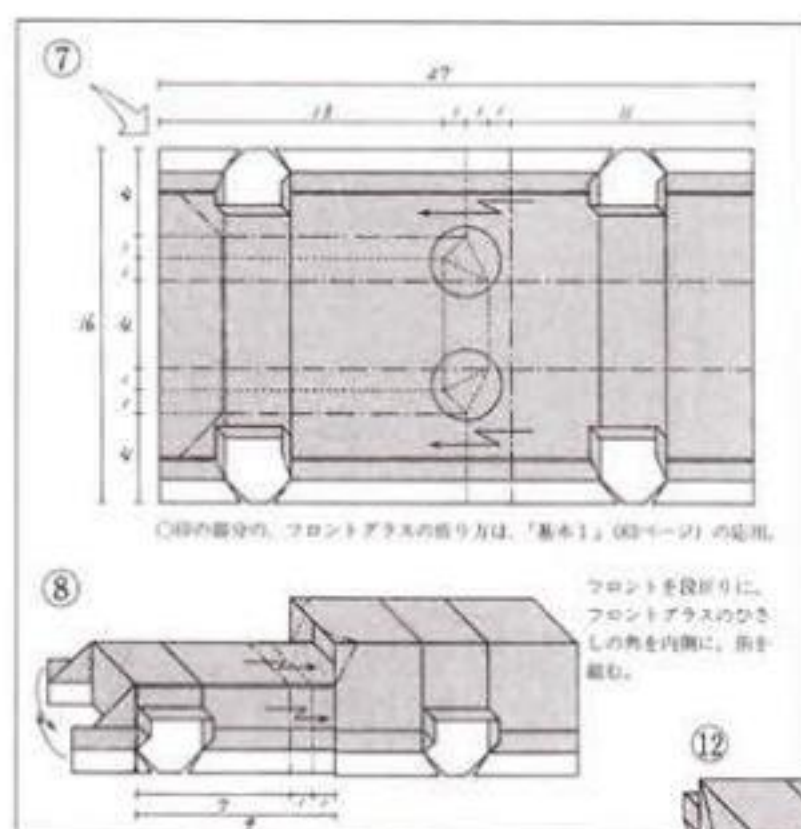
画像2:機関車口絵

○神谷哲史(かみや・さとし)=1981
年名古屋市生まれ。折り紙以外の趣味は自転車とビデオゲーム。



技法を取り上げて詳しく解説されています。一つは1マスの出っ張りを折り出す技法で、機関車の上面の細かい出っ張りや、パトカーのランプ、また2回連続して使う事で、汽船の煙突などの表現に使われています。ただ出っ張りを作るだけでなく、ブルートレインでは逆に凹んだ側を利用して車窓を表現に利用したり、自動車のフロントガラス部分の立体化の際にも活用されています。立体的な形を折る際に重宝するとともに汎用性の高い技法といえるでしょう。もう一つは自動車の泥よけで、フチを起こすように折って立体的な形の泥よけを作る事ができます。また同時にタイヤの形も折り出すためのヒダも用意されるので、タイヤ周りの形をまとめて折り出す事ができます。使い方としては各種車両はもちろんですが、オート三輪では左右をぴったり合わせて車両の中心にあるタイヤが折り出されています。

本書の作品を見直していて気がついたのですが、ほとんどの作品

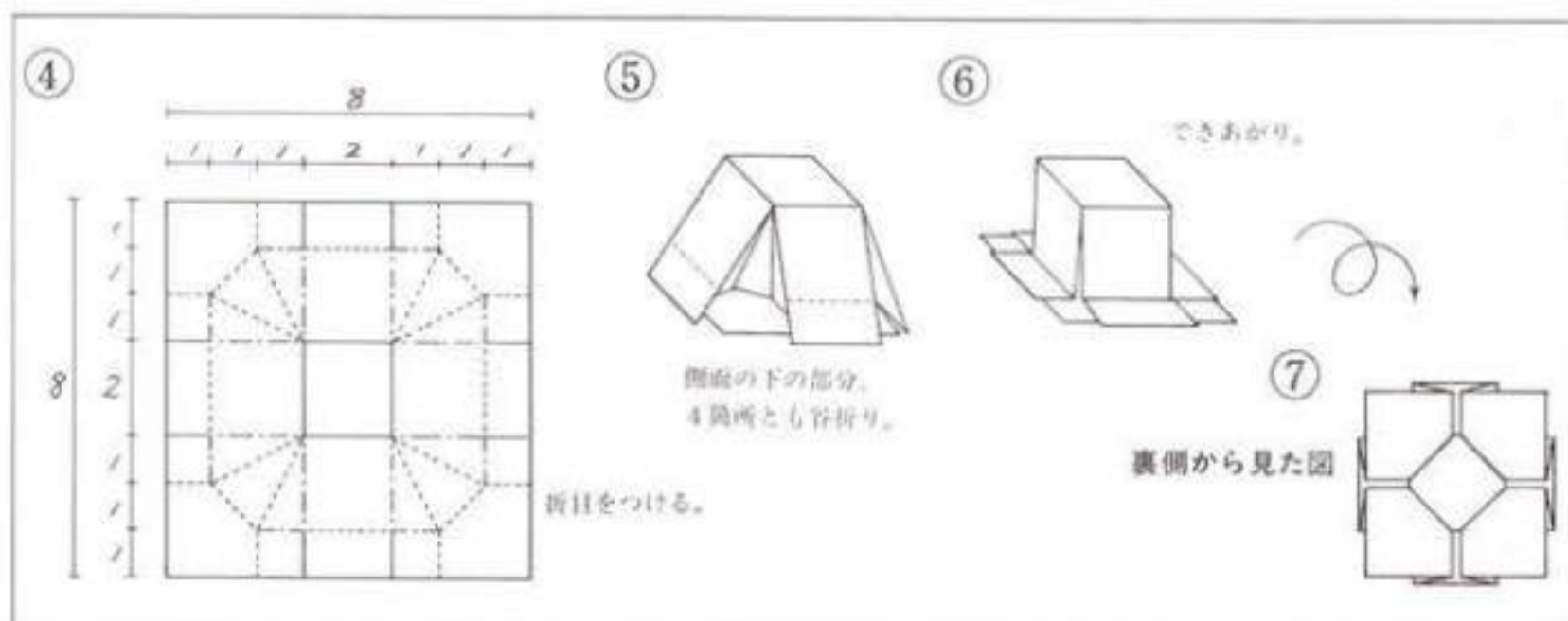


画像3:折り図では、折り筋の位置を示す数字が書き込まれている。

は、細かい凹凸やタイヤといったパーツを先に模様として折り出してから、それを立体化するというような手順で作られています。そのため装飾を除いた基礎となる形は、いくつかの直方体を組み合わせた案外シンプルな形をしています。

また使う用紙は正方形や1:2など単純な比率ではなく、2ケタかつ奇数も含む比率の長方形からつくられています。おそらく完成した形から幅や高さ、そしてタイヤなどの装飾パーツを折り出す蛇腹のマスの数を逆算して、使用する用紙の比率を決めているのではないのでしょうか。折り手側から見ると紙の用意に少々手間がかかるなどのデメリットが気になりますが、創作者側にとっては用紙の不要部分などを気にせず自由に形を作れるという大きなメリットがあります。また折る段階でも余計な部分がないので分かりやすく、用紙の無駄もありません。正方形原理主義者にとっては邪道なのかもしれませんが……。

余談ですが、本書の作品のように決まったグリッドを基準にしてパーツを配置して形を作り上げていくのは、



画像4:出っ張りの折り方

まるでブロック玩具を組み立てているような感覚があります。思い返してみると、レゴ少年でもあった当時の筆者が機関車製造工場になったの当然の結果だったのでしょうか。

川村氏は自身のウェブサイトを運営しており、作品の写真や折り図などを公開されています。本書に関連する作品としては、クラシックカーや、蒸気機関車(本書に掲載されているものではなく、『月刊おりがみ』93号~95号に掲載された形のもののようです)の折り図が閲覧可能です。本書に興味を持った方は訪ねてみてはいかがでしょうか(URL=<http://www.geocities.jp/rivervillagekyo/>)。

最後に、個人的に特に印象的だった一文を引用します。創作活動を行う人間であれば、きっと共感出来るのではないのでしょうか。

「乗用車」なんかは果たして何百台折ったことでしょう。それはもう愛着があるんですよ。自分でも傑作だと自負しています。「オート三輪」も、「レーシングカー」も、「ボート」も……。何しろ産みの親なんですから。

ぼくらは 折紙探偵団

Here We Are, THE ORRIGAMI TANTEIDAN

第24回 『連鶴史料集—魯縞庵義道と桑名の千羽鶴—』 発刊に寄せて——講読会レポート

"Archives of Historical Documents on Rokoan-Gido and Senbadzuru
Cranes in Kuwana": A Report from a Reading Circle

このコーナーでは、折り紙に関連した幅広いトピックを探索して、ちょっと面白い雑学的な豆知識をご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽にwebman@origami.gr.jpまで電子メールでお寄せください。

中村智晴

Nakamura Tomoharu

本誌150号で報告した通り、2014年11月、『秘伝千羽鶴折形』の作品を考案した長円寺住職・義道(号:魯縞庵)の遺した史料が発見されました。ですが、それらの史料は浸水により、発見直後はまだその全容を公開できる状態ではありませんでした。

そして今年3月、修復された史料の一部が影印版にまとめられ、『連鶴史料集—魯縞庵義道と桑名の千羽鶴—』として桑名市博物館より発行されました。探偵団ではこの書籍を囲んで、岡村昌夫氏、前川淳氏、西川誠司氏、羽鳥公士郎氏、堀口直人氏、中村智晴による講読会が行われました。本稿では、講読会の内容をお伝えするとともに、新史料のポイントをいくつか紹介していきます。

○史料の概要

『連鶴史料集』は新出史料の各々を、全部または一部抜粋という形で収録しています。また、新史料の他に既存の関連史料も収録しています。新史料と思われるものは、次の通りです。

まずは『松響集』の一部。これは義道自筆の文集の一つで、掲載されているのは「素雲鶴跋」なる部分です。ここには、「毎図傍題於誹句成一小冊子名素雲鶴矣」とあり、「素雲鶴」は各作品の図に題と句(ここでの意味は俳諧の発句)を添えた冊子だったと読めます。ここには推敲の跡があり、最

終的に題を「半千素雲鶴」、即ち合計

★トリビア1★

文化3(1806)年に、不切の連鶴を義道が
折り始めたとの記述が見つかった。

500羽の折鶴が載る冊子にしようとした形跡があります。跋文末尾の余白にも「新撰百品 続百品 拾遺百品 増補百品 附録百品 合五百羽焉」とあり、足すと最終的に500羽(つまり半千)になるため、注目される記述です。

次に『折鶴三十品』と書かれた美濃紙。150号で既報の通り、この史料には連鶴の切り方図の他、「寛政癸丑

年春二月」即ち寛政5年(1793)との記載があり、『秘伝』よりも4年早い、現状最古の遊戯折紙の史料であることが窺えます。

本史料集で最も紙幅をとるのが次の『魯縞庵新撰素雲鶴』です。修復を経て切り方図や細かい書き込み、修正の跡などがはっきり確認できます。切り方図は「百雀品目」といった作品群ごとに書かれており、古いものでは寛政6年(1794)、そこから寛政8年(1796)、文化7年(1810)、文政3年(1820)と断続的に作品群が書かれるのですが、ほかにも文政元年(1818)、文政7年(1824)の書き込みが処々に加えられており、史料全体では記述の年次が入り組んでいます。作品群の編成・修正過程の整理が俟たれます。

そのほか、長円寺の系譜である『大悲山歴代本系譜』、義道が伊勢神宮へ参詣した際の記録である『日南集』の一部も掲載されています。また同時に発見された、義道蔵と思われる『秘伝千羽鶴折形』も掲載されています。

○「魯縞庵」と「露紅」
それでは史料の見どころを紹介してまいりましょう。

まず、義道の名乗りについてです。美濃紙『折鶴三十品』では末尾に「魯縞庵主露紅記之」とあります。義道の号は「魯縞庵」ですが、敢えて「露紅」としているのです。

実はこの名前、既存資



図1: 桑名市博物館より刊行された『連鶴史料集』



図2: 『松響集』中の「素雲鶴跋」。義道の自筆で、処々に義道の推敲の跡が見られる。

○中村智晴(なかむら・ともはる)
＝東大大学院で近世文学を勉強中。講読会では岡村昌夫氏をはじめ皆様から大いに刺激を受けました。また本稿執筆には堀口直人氏の多大な協力を仰ぎました。ここに感謝申し上げます。



料にも登場します。大坂の博物学者、木村兼葭堂(きむらけんかどう)が記した来訪者記録『兼葭堂日記』の寛政2年(1790)11月の記事です。この「露紅」の字を義道本人が名乗ったのかはこれまで不明だったのですが、今回の記述から、果たしてそうであったと推測できます。

岡村氏によれば、これは韜晦(とうかい)の一つではないかということです。韜晦とは自らの素性を隠すこと、特に男性が女性に成りすまして著作することです。「庵主露紅」という文字列の特に「庵主」などは、尼さんを思わせる字の並びです。美濃紙『折鶴三十品』にも同じ名があることから、義道は折鶴作品をまとめる際、男性として書くのを避けたのかもしれませんが。彼のためらいから、当時の折紙に対する認識が垣間見えます。

なお、『秘伝』では「露菊」なる女房が書いたという演出がなされるので

すが、この「露菊」の名は「露紅」と関連があるのかもしれませんが。

このように、既出史料と合致する点も見られ、そこから義道の活動の実態にさらに迫ることができると期待されます。

○掲載作品と鶴の羽数

『松響集』の「素雲鶴跋」の説明でも触れましたが、義道の100羽に関するこだわりは『新撰素雲鶴』でも強く窥えます。どの作品群でも羽数がちょ

載作との関連についても、幾つか推測は立てども裏付けは得られません。しかし、断片的な情報から想像を膨らませるのは楽しいものです。講読会では、史料研究的な立場とは別に、愛好家が本史料を元に様々な連鶴を折る流れを促していこうという意見が交わされました。

○最後に

「素雲鶴跋」には、次のような文があります。

「今折鶴雖似児戯亦何可棄者乎」

試みに訓読・書き下しをしますと「今折鶴児戯に似たると

雖も亦何ぞ棄つべき者ならんや」つまり「今の世では折鶴は子供の遊びに似ているというが、どうして棄てるべきものであろうか、いや棄てたものではない」となるのでしょうか。まるで200年前の義道が現代に語りかけているようです。義道が女性の名を騙ったことと併せ、折紙に対する世間の目と愛好家の思い、今と変わらぬものを感じさせます。

「素雲鶴跋」には「竟得成」(竟《つ》ひに成し得たり)という書き込みや、幼少期から折紙を嗜んでいたことなど、義道の声が直に感じられるかのような記述が処々に見受けられます。こうした声に耳を傾けるためには、さらに新史料を読み込んで考察を重ねなければなりません。今回発行された『連鶴史料集』は、様々な問いや想像を喚起してくれる一方、断片的にしか掲載されていない新史料もあり、義道の全貌を知るためには今後さらなる調査が必要となるでしょう。

★トリビア2★

「折鶴は子供の遊びと言われるが捨てたものじゃないぞ(意識)」と義道が書いていた。

うど100羽になるよう努めています。作品群の構成を推敲している痕跡が『新撰』にはありまして、そこでも合計の羽数が崩れないよう調整に腐心しているのです。これは、義道の折紙観に迫る一端と言えるでしょう。

また、「足ノアル雀[鶴]」や「切込ナシニ折コトハジム」との記述が新たに確

認され、義道が様々な工夫を行っていたことが分かりました。

掲載されている切り方図についても、講読会で吟味が行われました。切り方図には羽数と題(一部除く)が併記されているものの、手描きで記述も不十分なため、正確な再現は不可能と思われる『秘伝』掲

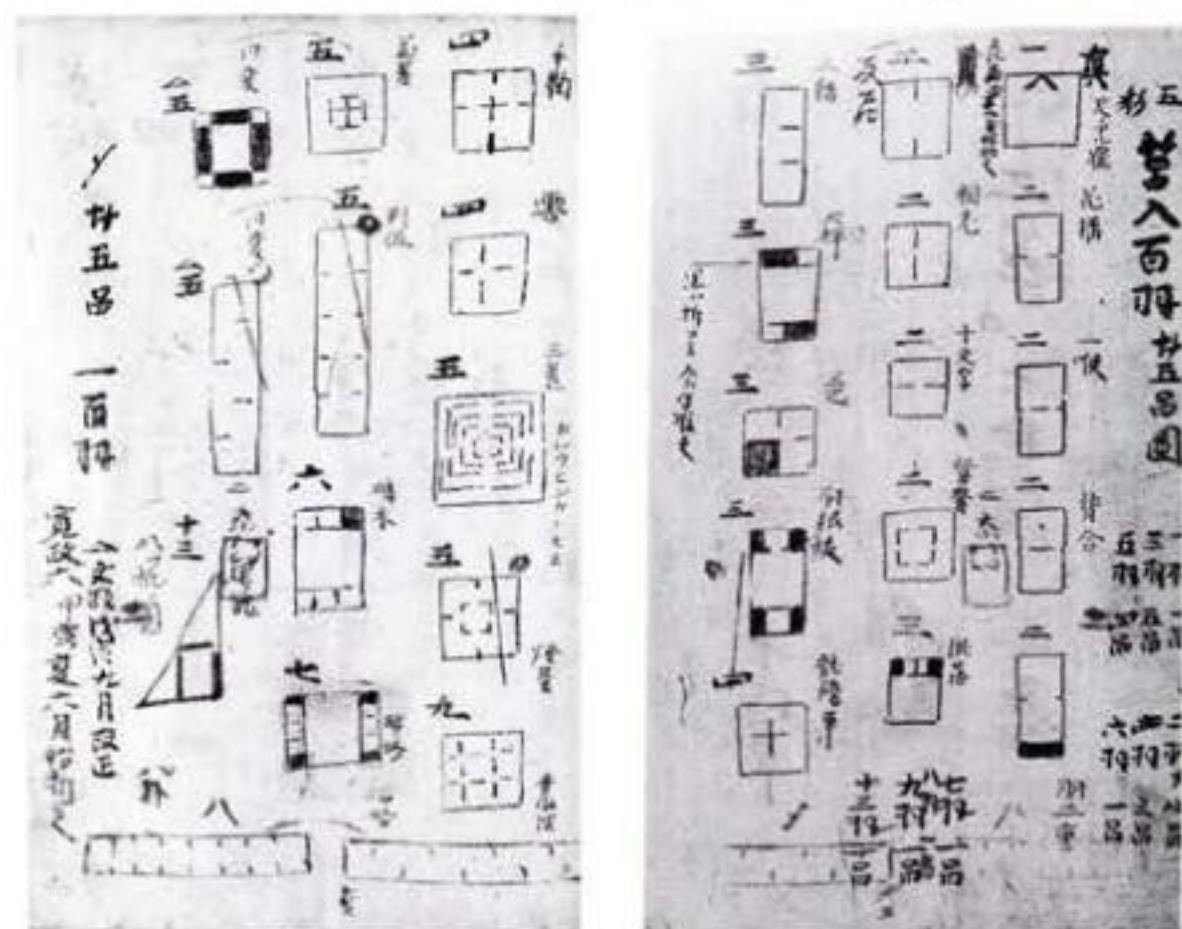


図3:『魯縞庵新撰素雲鶴』の一部。こうした記録が二十数ページにわたり掲載されている。

今号の折り図・展開図掲載作品より

解説：北條高史 (P.20-21)

Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Hojyo Takashi (P.20-21)



「雲竜」「ミイラスター」「波頭」
作：川村みゆき(P.4)

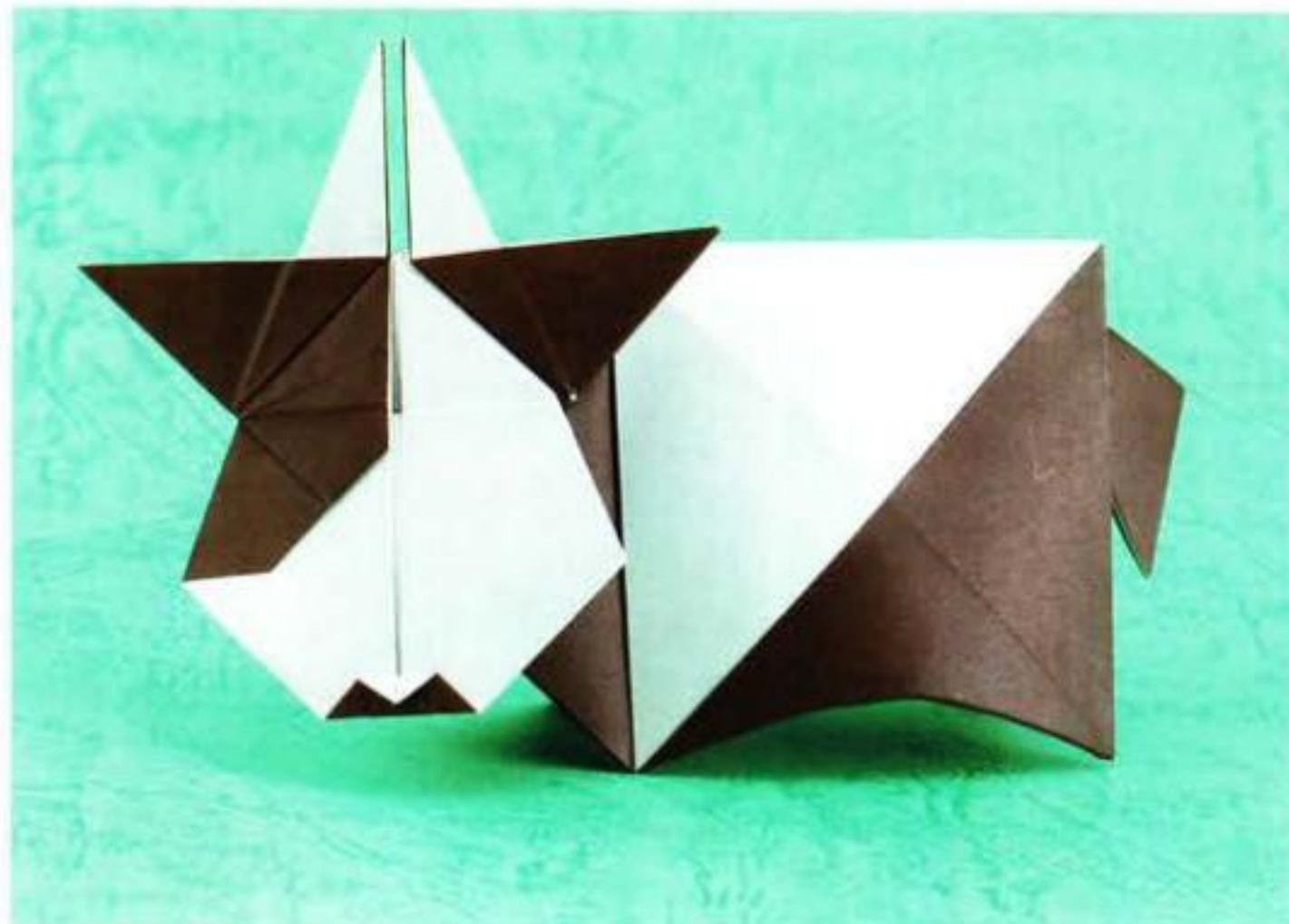
UNRYU (Rising Dragon),
MUMMY STAR, HATO (Wave Crest):
Kawamura Miyuki (P.4)

■ 細い紙テープを作品全体にびっしりと巻き付けたような「ミイラスター」。さらに部品をアレンジすることにより、多様なうす巻き模様が出現します。用紙の色調によって和風の染物のように見えたり、植物の種子が芽を出す直前ではち切れそうな印象になったり。紙を変えて折るたびに、新たな見立てと出会える作品です。

「うし」作：鶴田芳理、「直方体ボックス」やまぐち真(P.8)

Cow: Tsuruta Yoshimasa, Cuboid Box: Yamaguchi Makoto (P.8)

■ 少ない要素・部品だけを使って、簡単な折り操作だけで対象を的確に表現したり、実用作品として必要な機能を網羅したり。このような創作は、複雑作品をつくるのとはまた異なる方向性で、非常に困難でセンスを要求される作業です。その結果として至った今号掲載作品は折りやすいだけでなく、初心者がステップアップするための教材としても非常に有用なものとなっています。





「伐折羅大将」 作：北條高史(P.13, 38)

Vajra (Basara Taisho) 2016 : Hojyo Takashi (P.13, 38)

■初回の挑戦では薄い紙を使うのが安全策ですが、完成形に力強さを盛り込むためには、やはり厚めの紙を使いたい。各部に必要な量の糊を仕込んだり、場所によっては部分的に湿らせてウェット・フォールディングにしてみたり。紙の厚み・重なりのコントロール方法を実験し、データを蓄積してゆくことを、今後も模索・継続してゆきたいと思います。



「ダルメシアン」 作：川畑文昭(P.26)

Dalmatian: Kawahata Fumiaki (P.26)

■全身に散らばるブチ模様が印象的な題材。「シマウマ」で「インサイドアウト技法による模様の折り出し」を実現して以降、この分野を力強く牽引してきた川畑氏による新作です。折り図の中にも書かれている通り、作例の模様以外にもさまざまな配置・大きさの「ブチ」を折り出すことが可能です。一度完成形を得ることができたら、次はオリジナルの模様も工夫してみてください。

OrigamiUSAコンベンション2016より(P.39)

From the 2016 OrigamiUSA Convention (P.39)

Origami Class



◀西川誠司氏の「バラ3」の講習は定員で一杯だった。中心部の「糊付け」に驚く人や、「沈め折り」に戸惑う人もいたが、残り時間で「バラ1」の講習もできて好評のうちに終了した

▶山口 真氏は「妹背山」の講習を行った。「秘伝千羽鶴折形」の説明もして、参加者は興味をもって耳を傾けていた



▲緑豊かなキャンパスにはリスが出現



▲ゴルフカートの送迎サービス。食堂と学生寮のあるエリアから会場まで徒歩10分ほど。ゆるやかな上り坂だったので、非常に好評であった

From Model Menu



Evan Zodi



Kade Chan

Pins PLUS Exchange



▲今年のピン交換は、ピンだけでなく、折り紙の封筒にチョコやキャンディーが入っていたり、ピンが手帳についていたり、とスモールギフトになっていた。交換のために設けられた教室には熱気が溢れかえっていた

Artist Trading Card Swap



今年で11回目となったOrigamiATC交換会。18人の募集に対して、11人が集まった。作品展示室では、世話人であるTalo Kawasaki氏によって、1まいずつ丁寧な展示がなされていた。同展示室には、日本から持って行ったATCのファイルといくつかの作品を展示したが、愛好家にはなかなか好評だったようだ



Oversize Origami

毎年恒例の、日曜夜のイベント。今年はエントリーチームの数が少なめで、ちょっぴり寂しかった



▲巨大折り紙では、簡単な作業も難しくなる



▲折り終わったチームから専用スペースで記念撮影



▲審査員に選ばれて、真剣な面持ちで話を聞く布施知子氏(左)、西川誠司氏(中央)、山口 真氏(右)

Exhibition



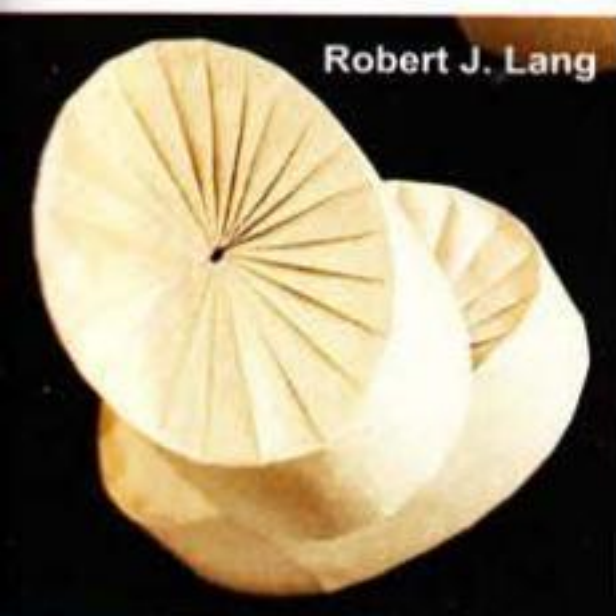
今年の展示会場は明るく広々として作品が見やすく、好評であった



Philip Chapman Bell



Cy Chen



Robert J. Lang



Denver Lawson



Chad Killeen



Winston Lee



Fuse Tomoko



Lisa Nguyen Quang Do



Paul Frasco



Fernando Becerra Ramirez



Beth Johnson



Paul Frasco

Hidden Senbazuru Orikata



▲今年の展示では、山口氏の発案で『秘伝千羽鶴折形』に掲載されている連鶴49種類すべてが原寸大の本文ページと共に展示された。日本国内でもなかなか見られない展示であり、海外でこれほど大々的に全種類が展示されたのは初めて。貴重な展示となった

第6回折紙探偵団九州コンベンションより(P40)

From the 6th Origami Tanteidan Kyushu Convention (P.40)

写真協力:折紙探偵団九州友の会



▶中村和也氏は、12,000枚を使用した20面体のジオスフィア(川村みゆき・作)の地球儀を披露した。休日を利用して1面600枚を20面作成するのに1年、南半球と北半球をそれぞれ10面ずつつなぎ合わせ、台座を作って赤道でつなぐのに1ヶ月かかったとのこと



◀▲カードを開くとパノラマになる切通氏のカードは大人気だった。タイトル=青、作者=切通泰子、折り紙作品

=いるか:土戸英二・作、マンボウ:山口 真・作、太陽:朝日 勇・作、ウミガメ:松野幸彦・作

▲九州友の会では、ATC(アーティスト・トレーディング・カード)の交換が盛んだ。今大会でも2つの交換会が企画され、多くの人が参加した



▲作品が完成すると、みんな笑顔!



Kariyazono Kango



Ishii Seichi



▲飛び入りで講習をするアメリカからの参加者、スーザンドゥーガン親子



▲招待者のセス・フリードマン氏とパートナーのマーゴ・スナイダー氏



Photo by Yamakita Katsuhiko



Seth Friedman

京都折紙倶楽部作品展「楽しい折り紙の世界展 II」より(P.41)

From the Kyoto Origami Club Exhibition: Fun with Origami II (P.41)



▲とっておきの「ファンタジーの島」。お城は川村みゆき氏の著書からのブロック。一つ一つの作品は、星ふたつの難易度以下のものが大半で、ストーリー性に助けられての展示



◀折ってみよう!のコーナーも、常に誰かが折り紙している状態



▲会場右奥壁面を使い、山と森、川、海、里そして町をメインテーマとして、講習した作品以外も含め、会員が手分けして折った草花、鳥、動物などを配しピクトブ風に



折紙探偵団東京友の会例会より

From the Regular Meeting of Origami Tanteidan Tokyo Group

Mineo Shotaro



Nakamura Kaede



Inoue Takaya



Mizuno Yo (age 9)



Itagaki Yuichi



Itagaki Yuichi



Hagiwara Gen



Imai Kota



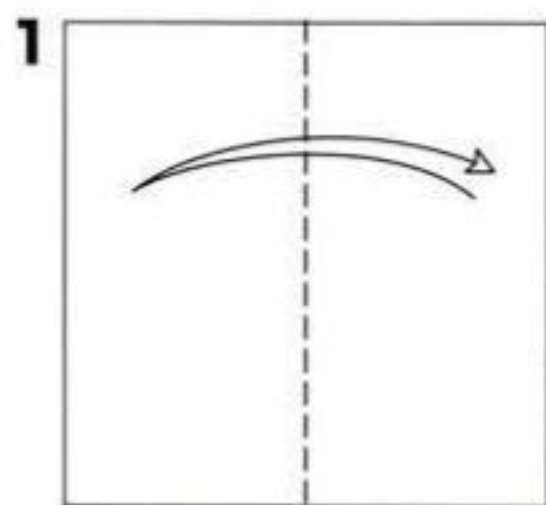
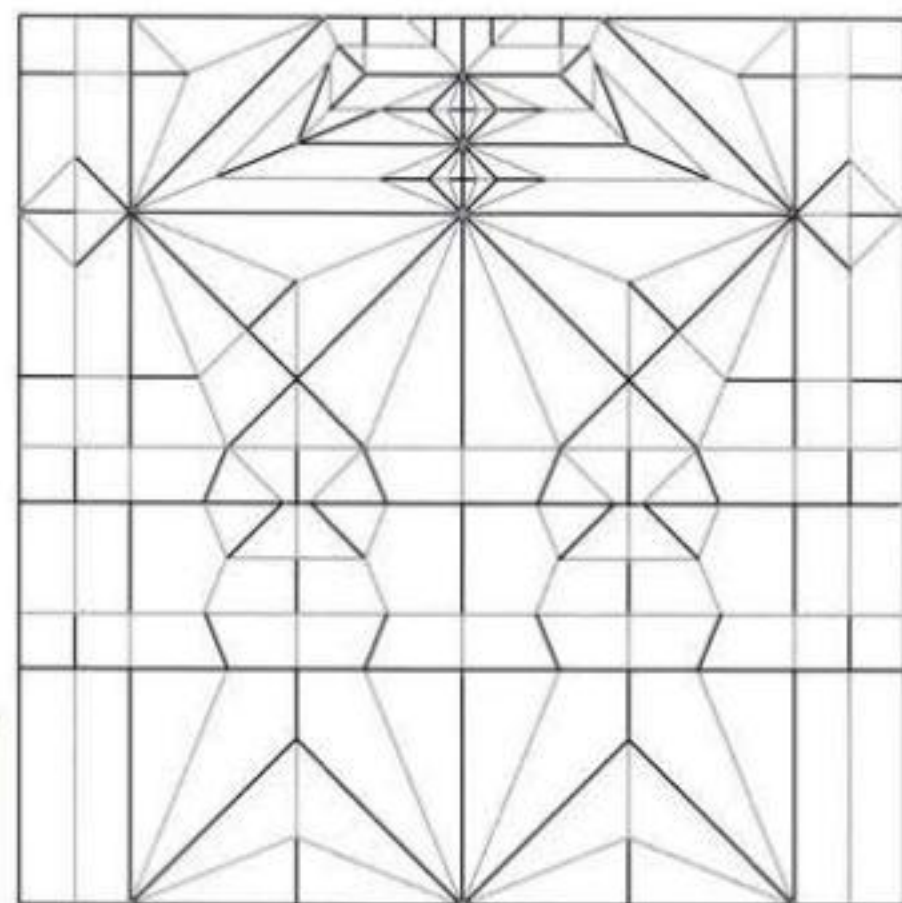
ダルメシアン Dalmatian

川畑文昭 Kawahata Fumiaki

2015 Creation

2016 Drawing

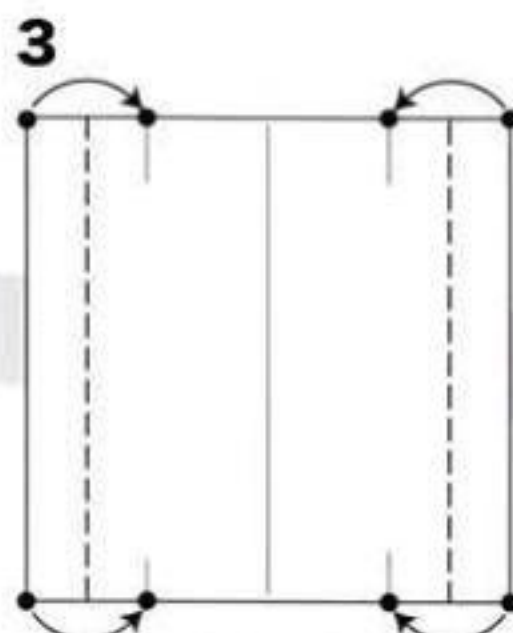
かなり厚ぼったくなるので
ホイル紙とか薄い紙が望ましい
推奨用紙 35cm以上



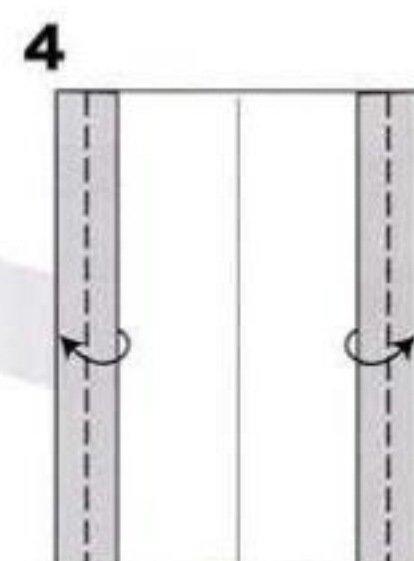
折すじをつける



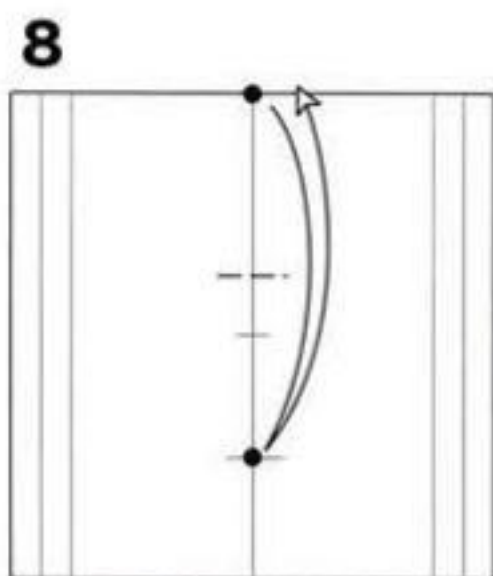
印をつける



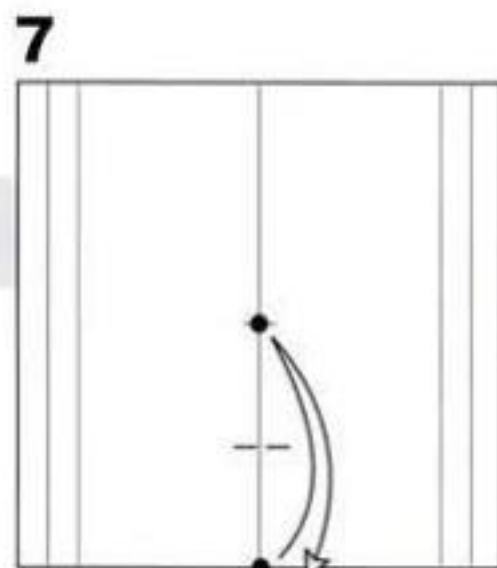
印にあわせて折る



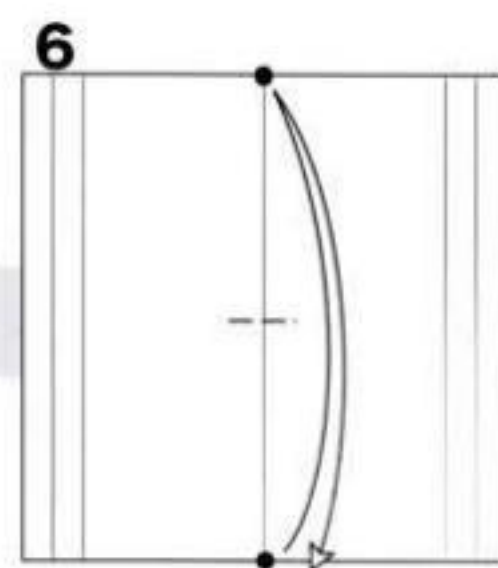
半分に折り返す



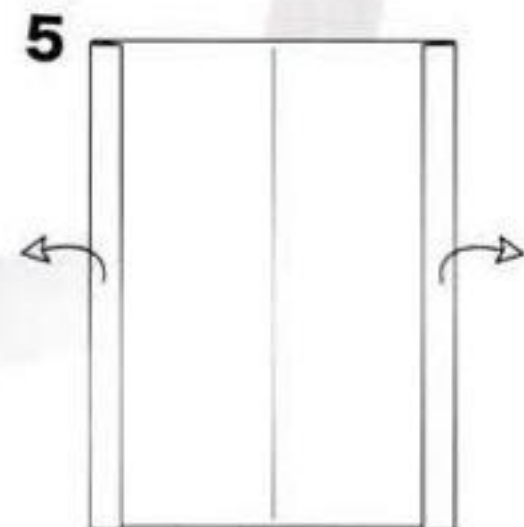
印をつける



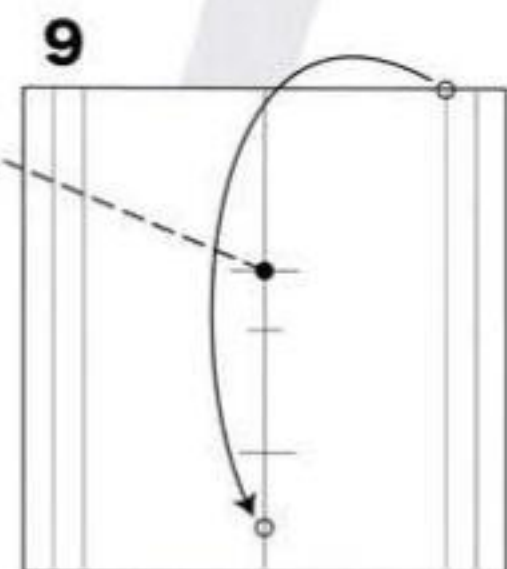
印をつける



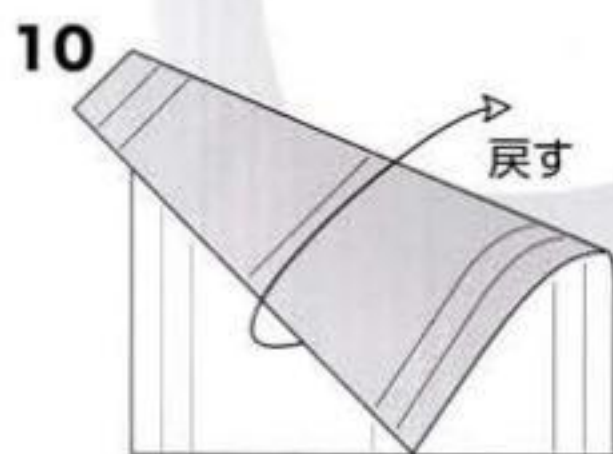
印をつける



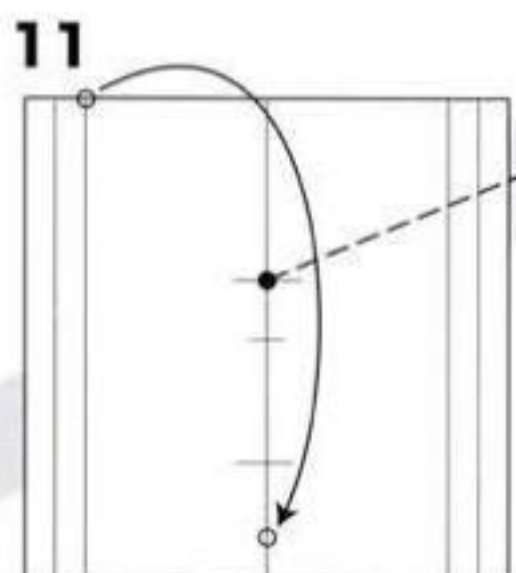
広げて戻す



●を基準に○同士を
あわせるように折る



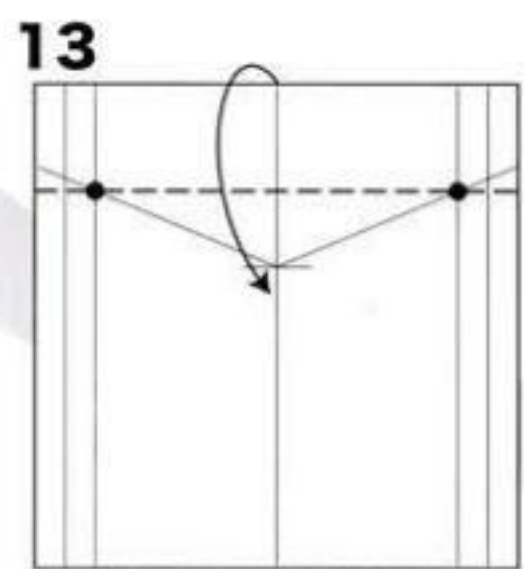
戻す



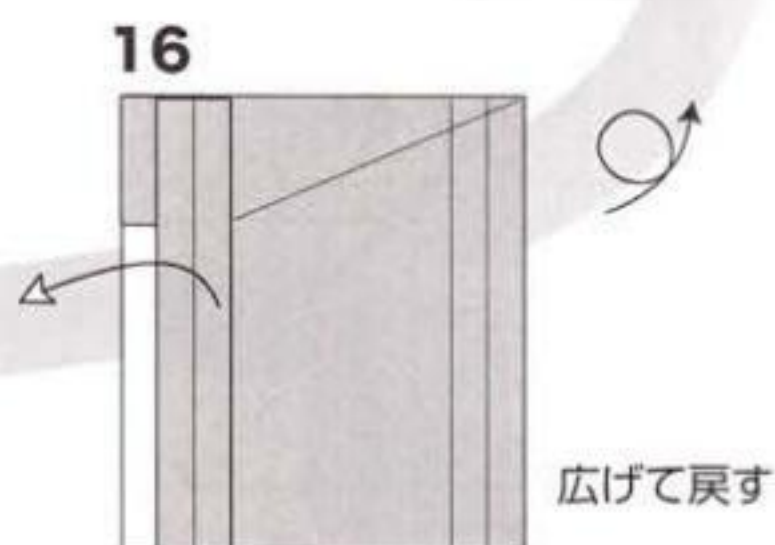
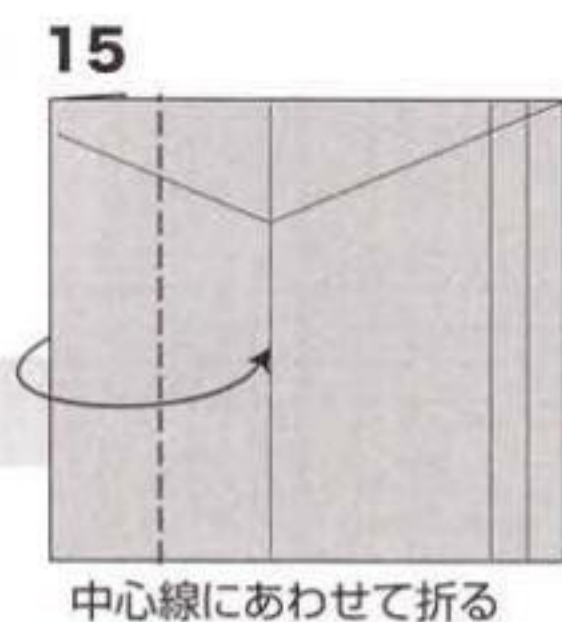
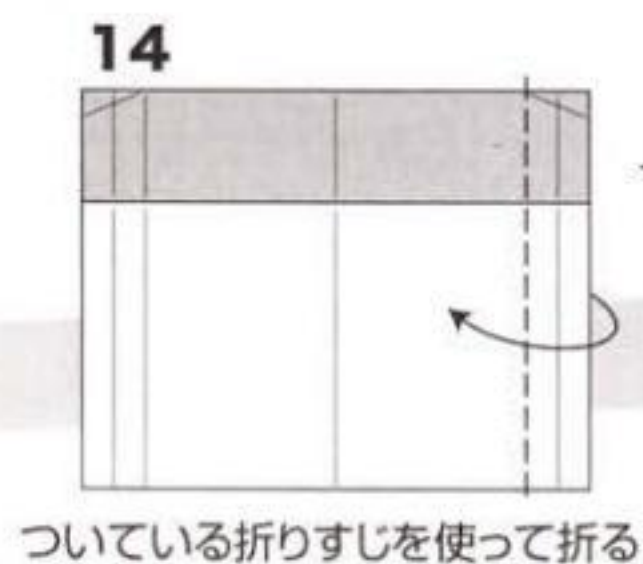
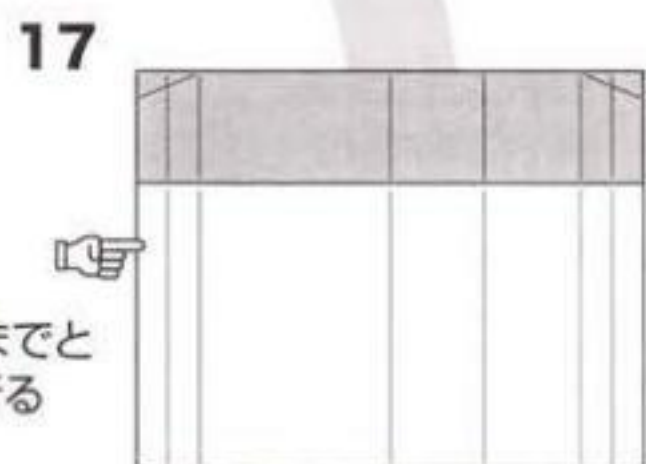
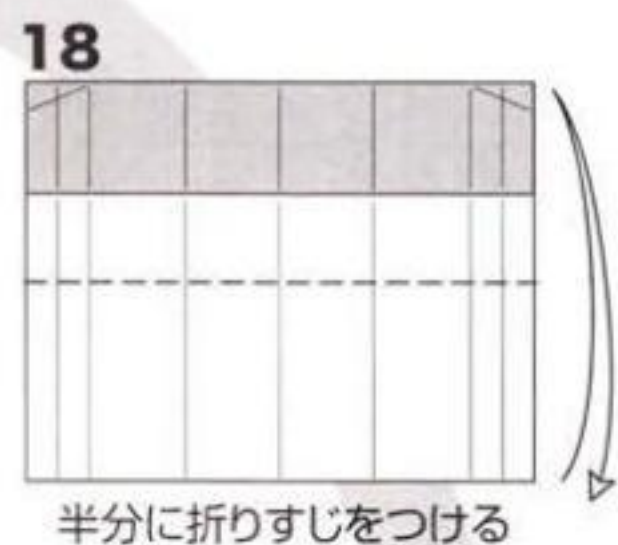
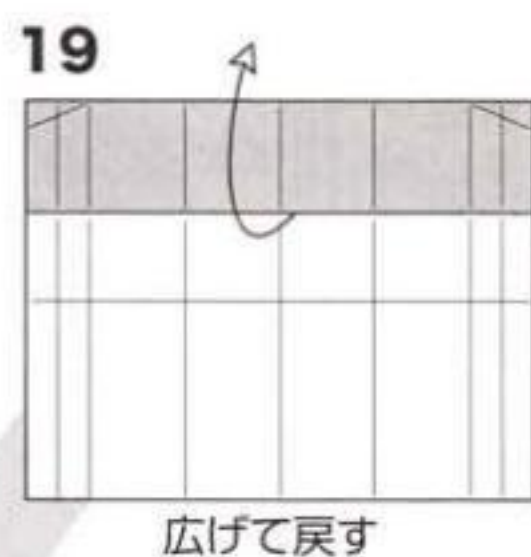
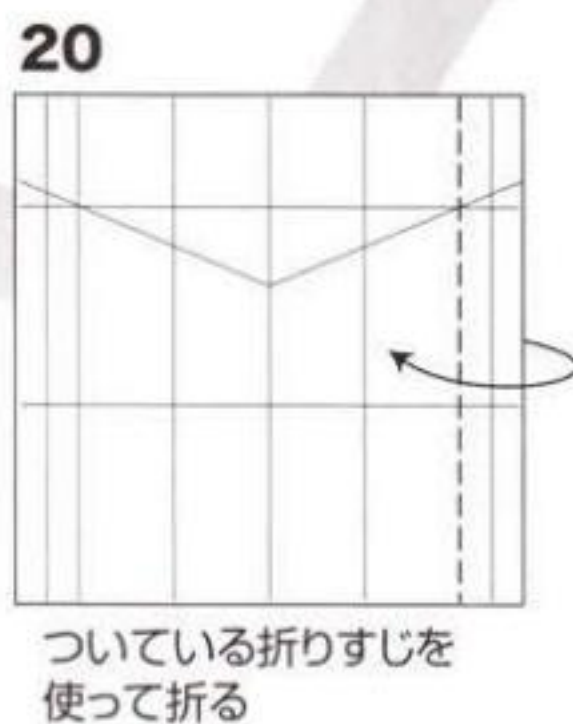
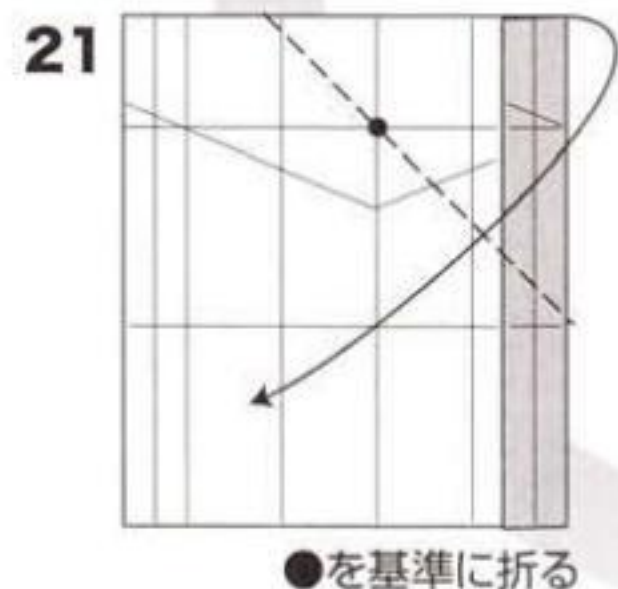
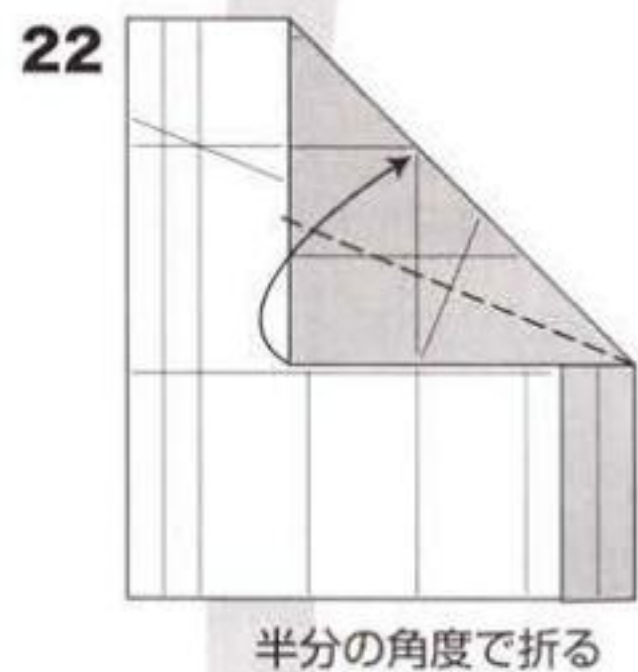
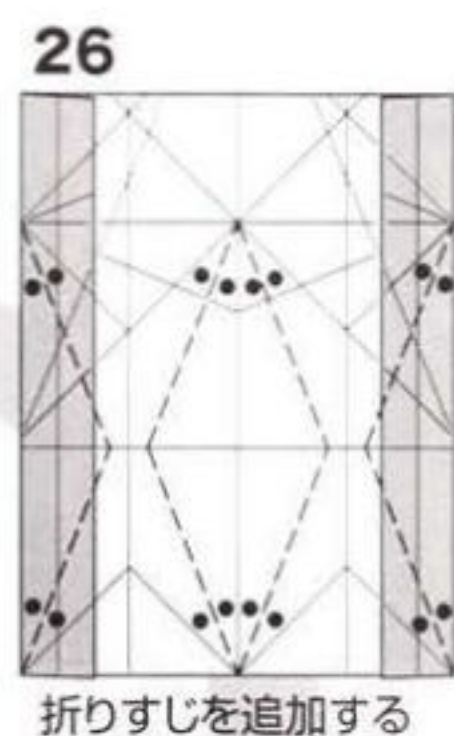
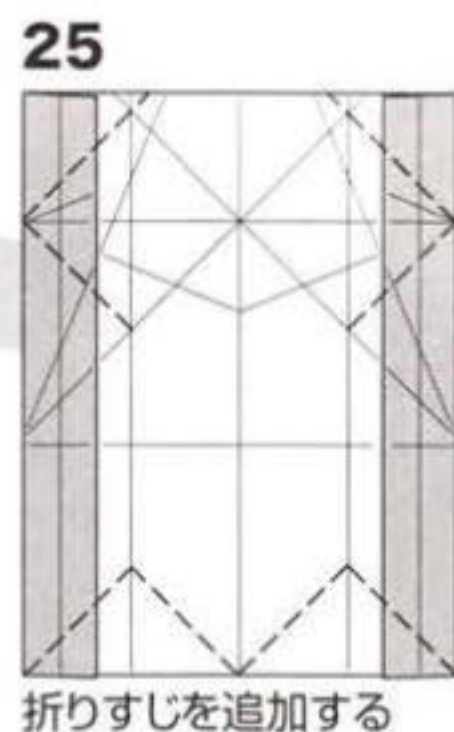
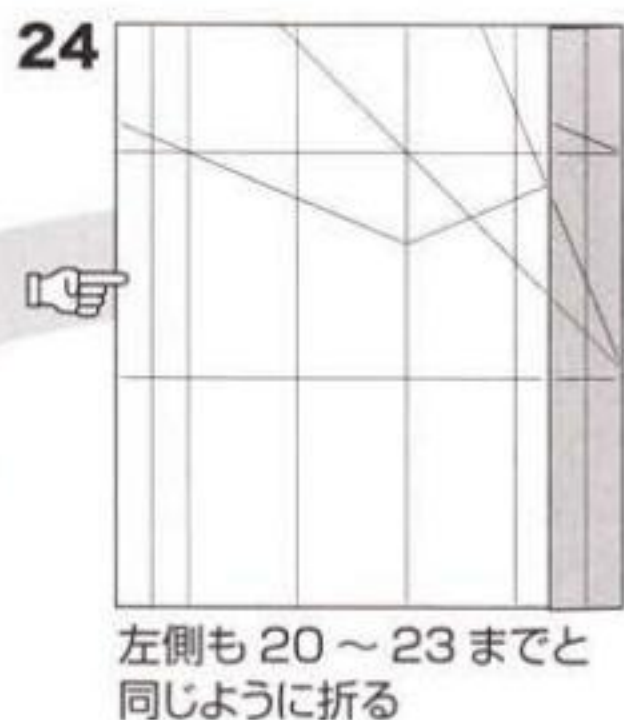
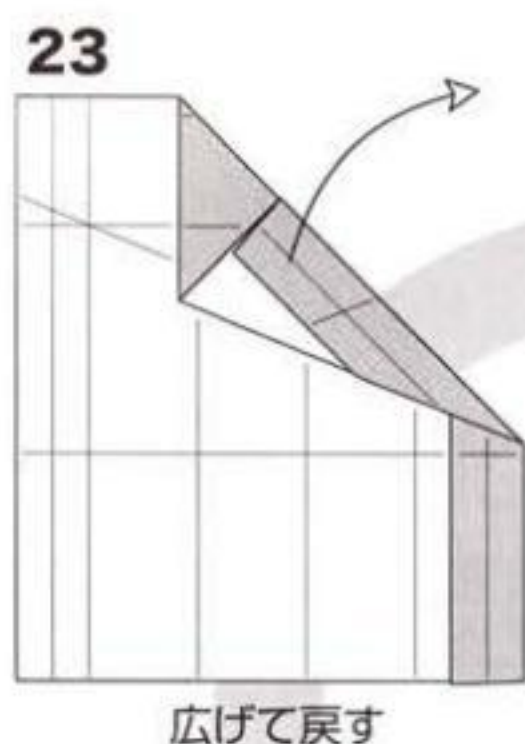
●を基準に○同士を
あわせるように折る



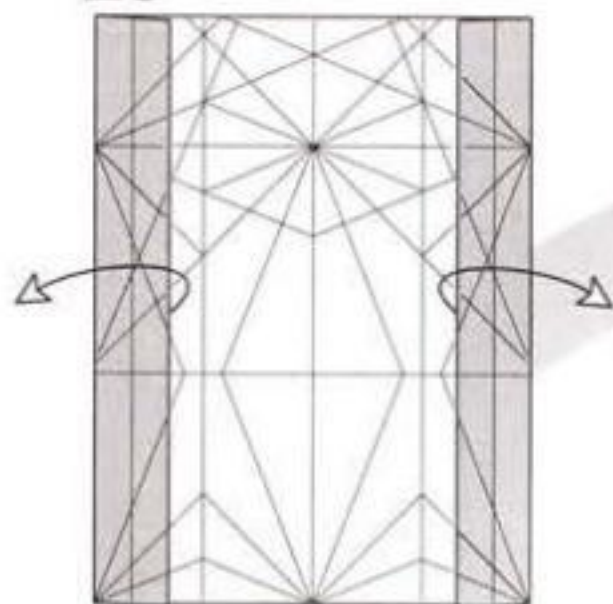
戻す



●を結ぶ線で折る

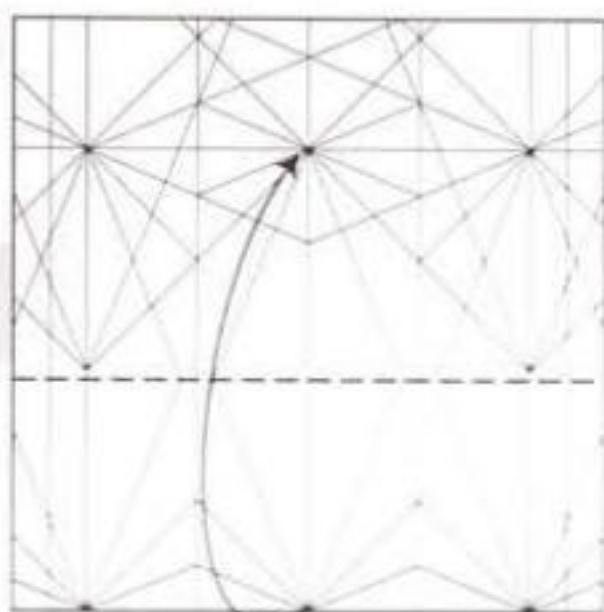


29



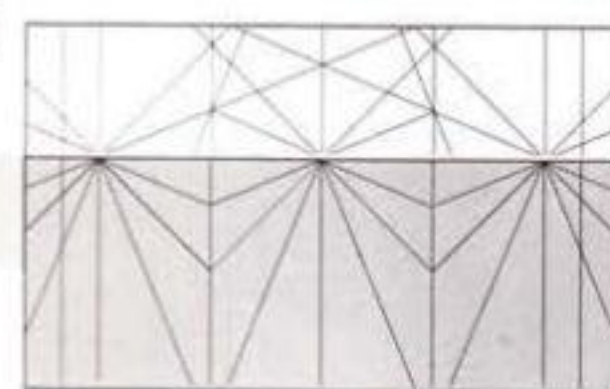
広げて戻す

30



ついている折りすじを使って折る

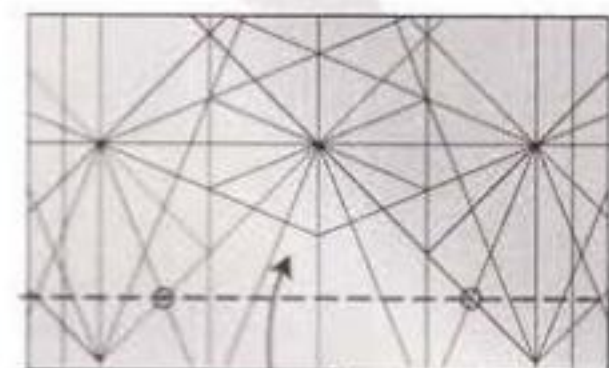
31



30を折った状態

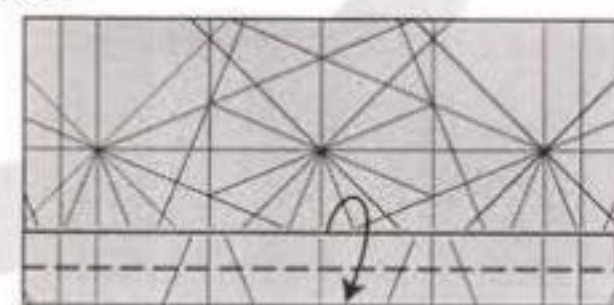


32



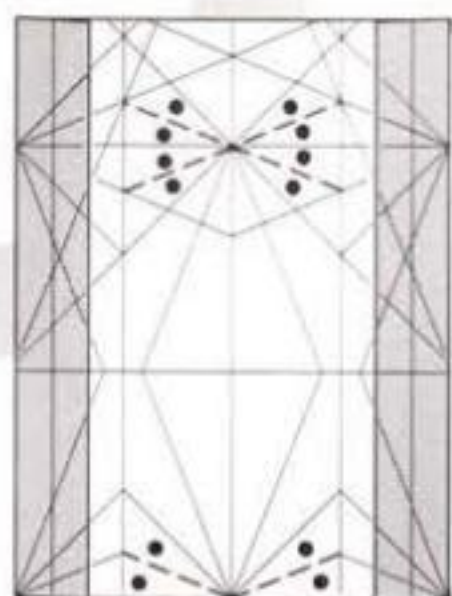
○を結ぶ線で2枚重ねたまま折る

33



半分に折り返す

28



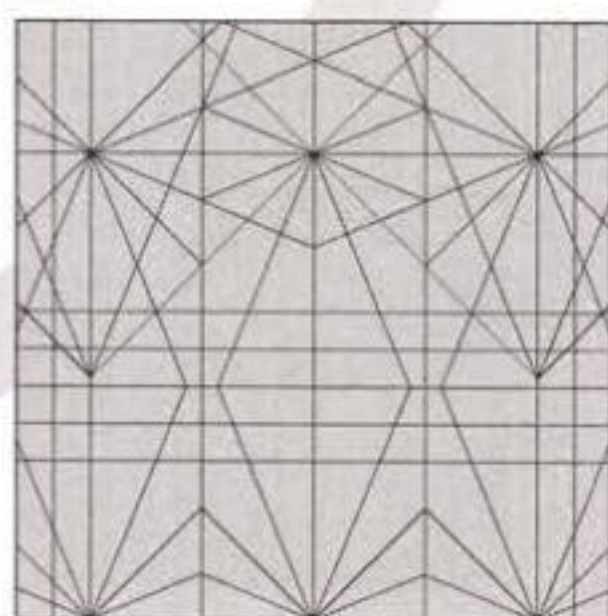
折りすじを追加する

34



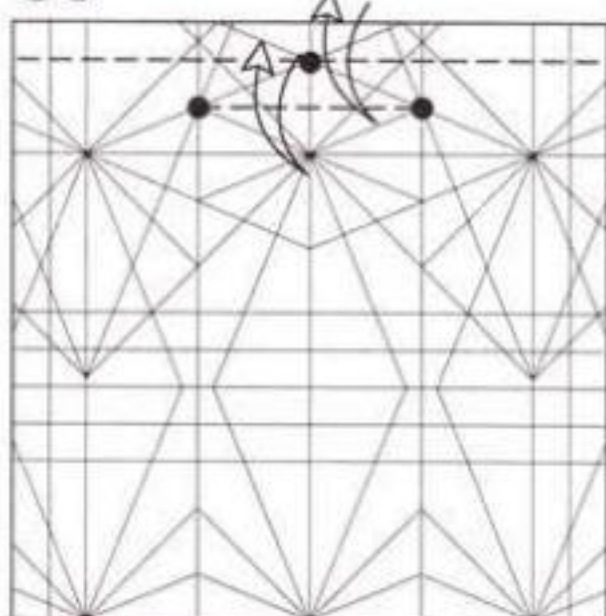
広げる

35



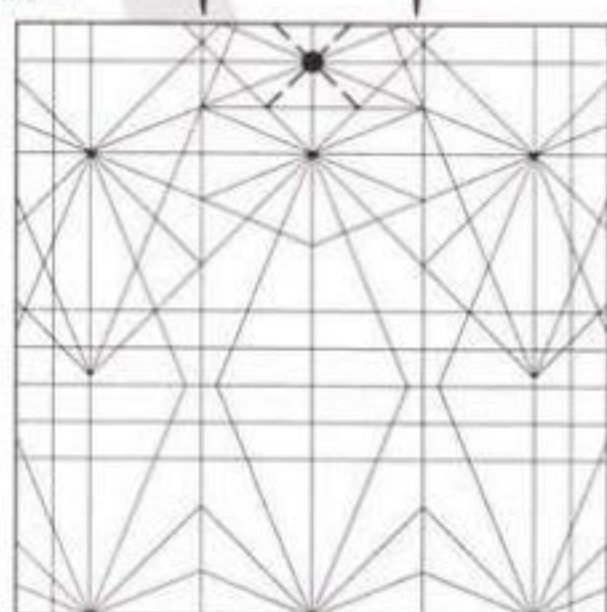
34を折った状態

36



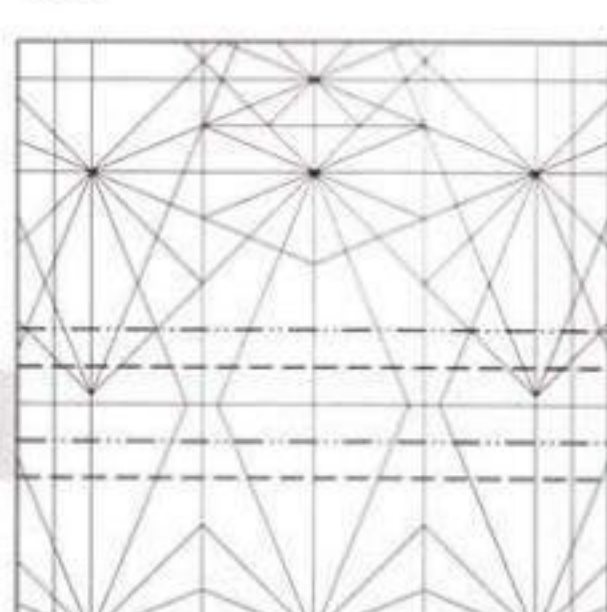
●を基準に折りすじをつける

37



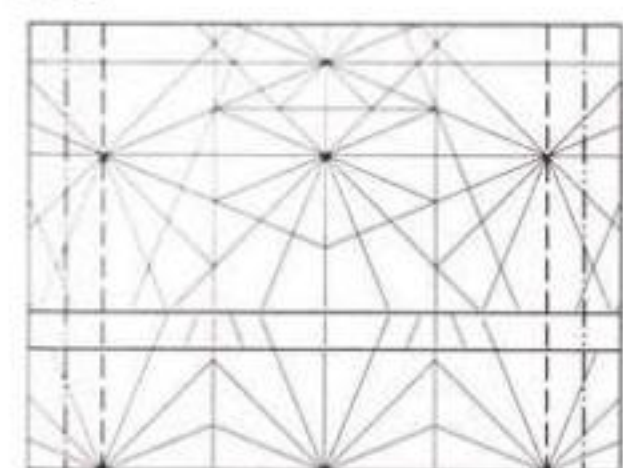
●を基準に折りすじをつける

38



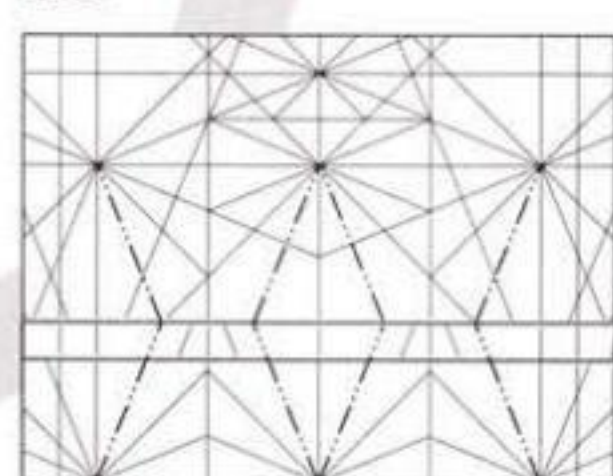
ついている折りすじで段折り

40

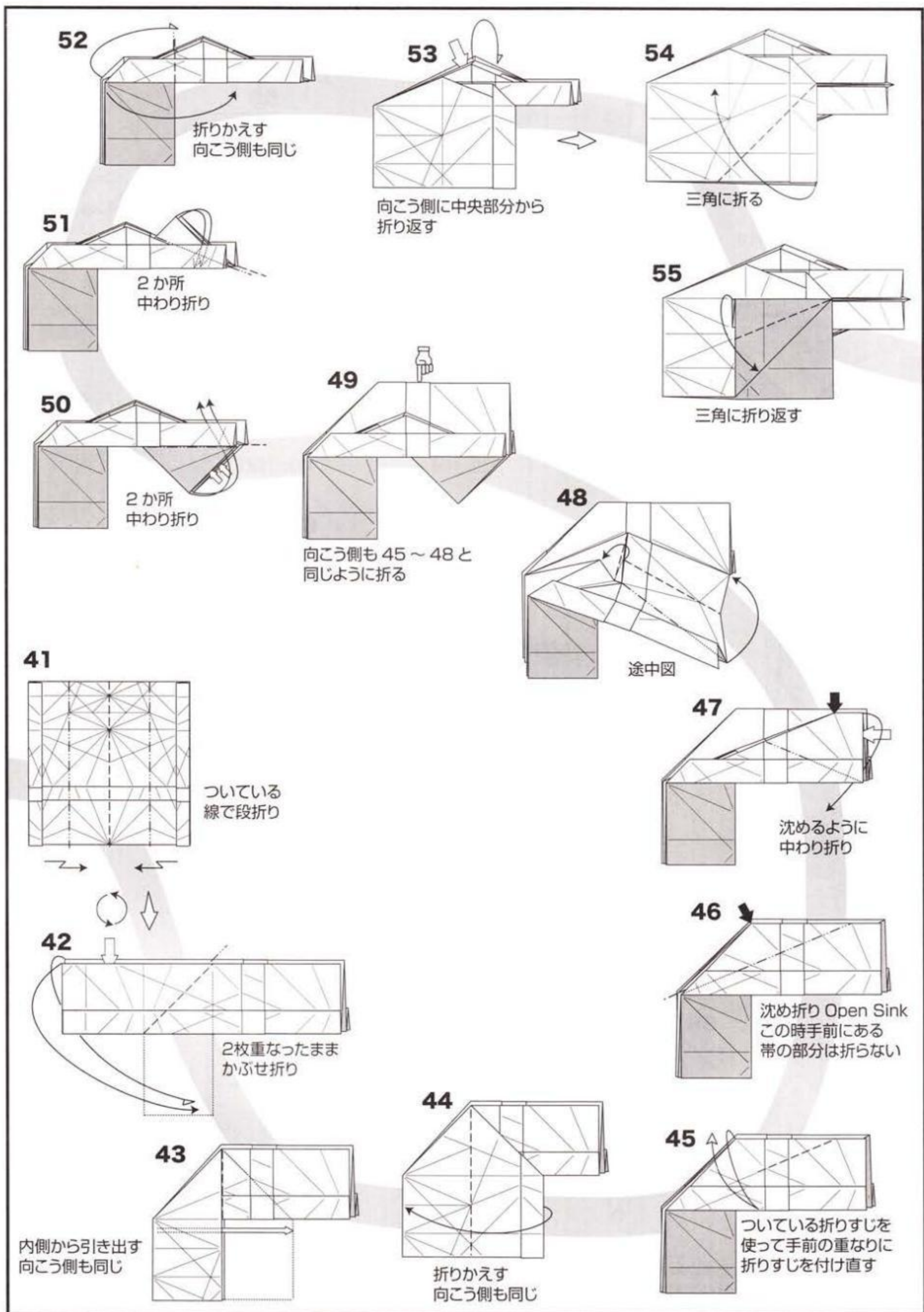


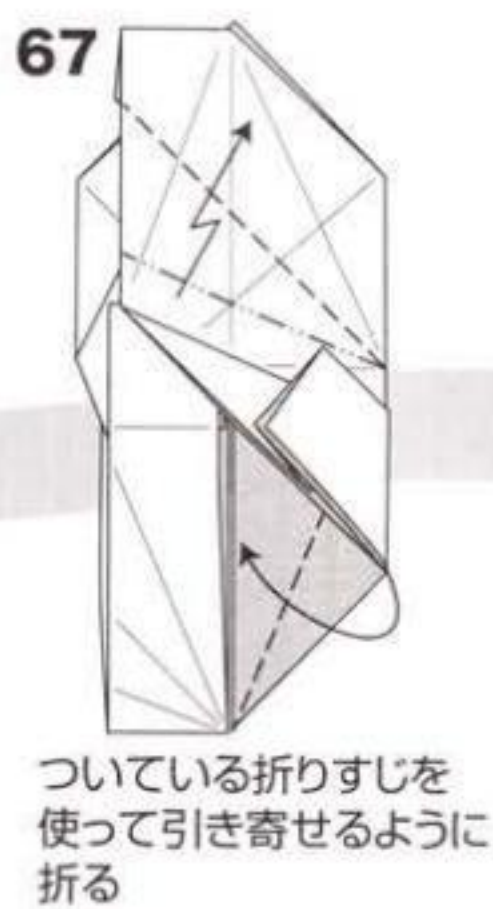
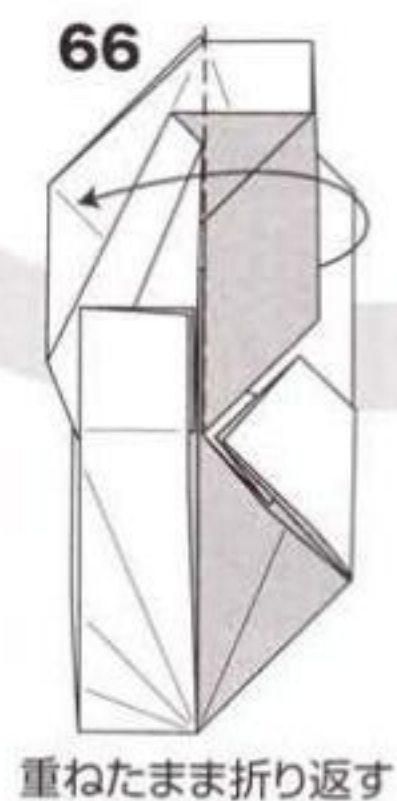
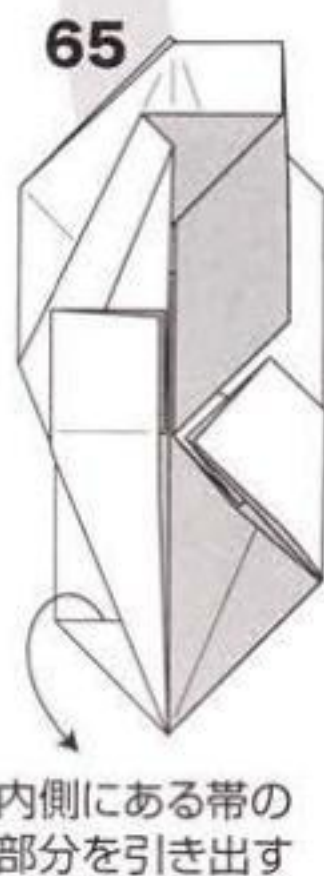
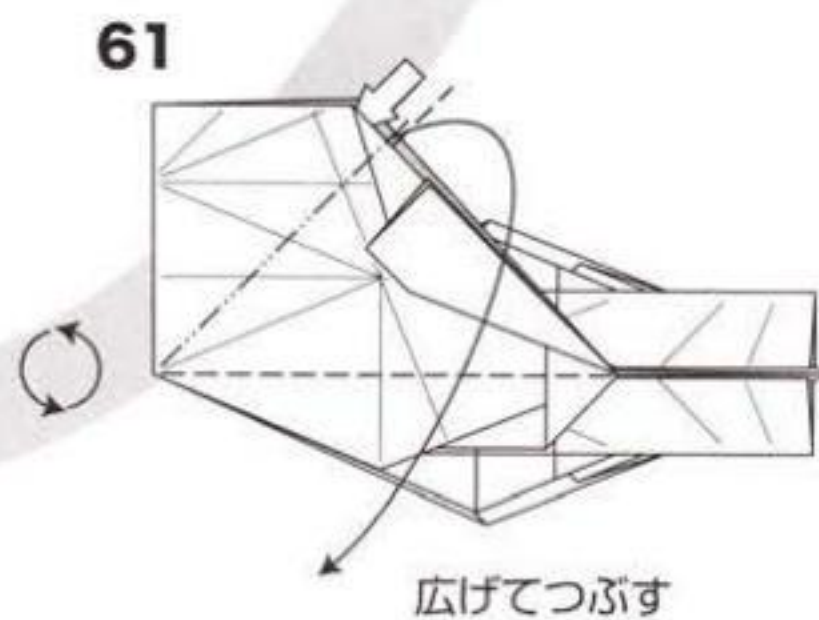
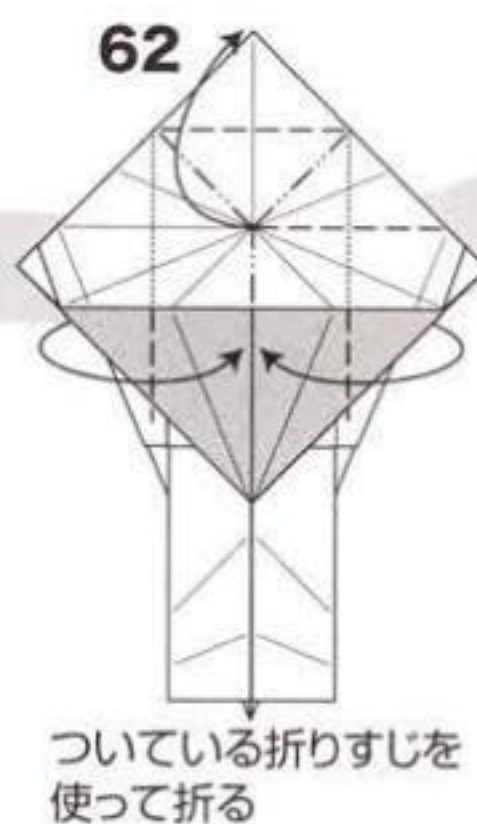
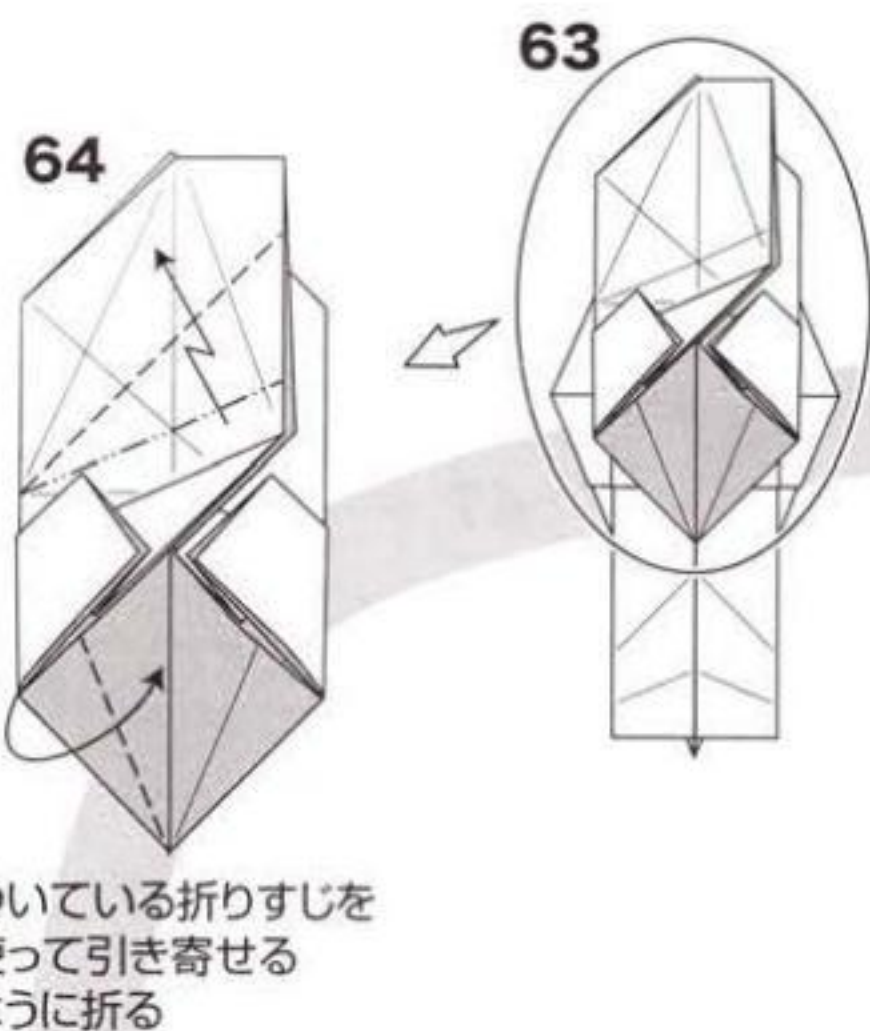
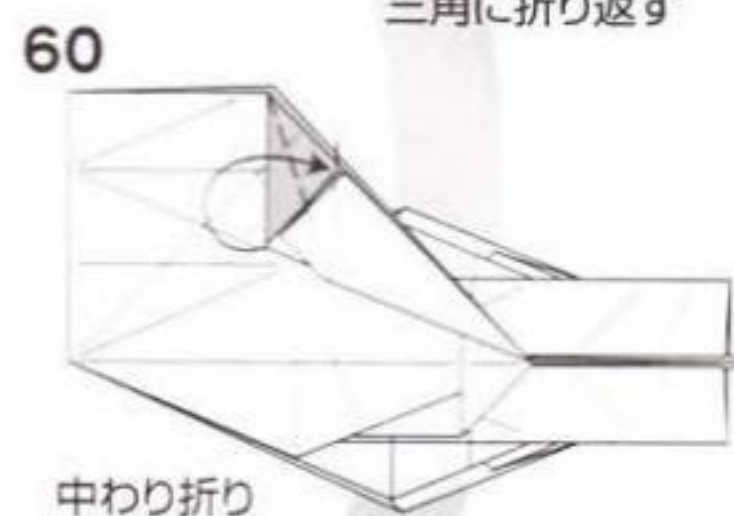
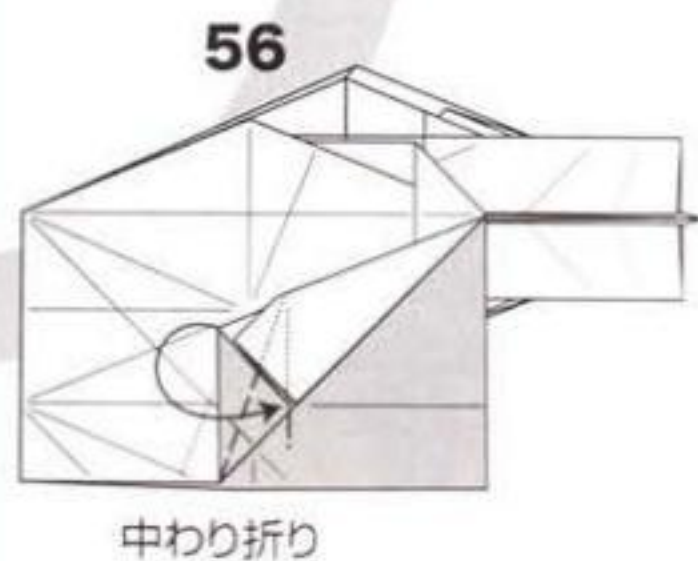
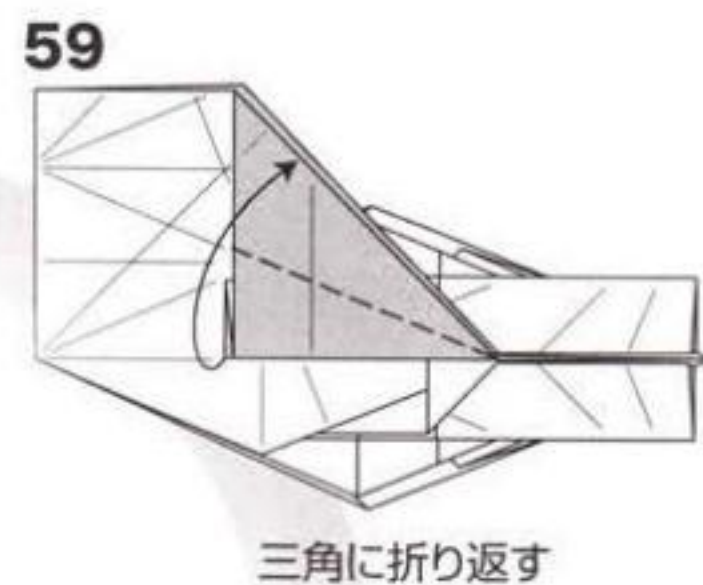
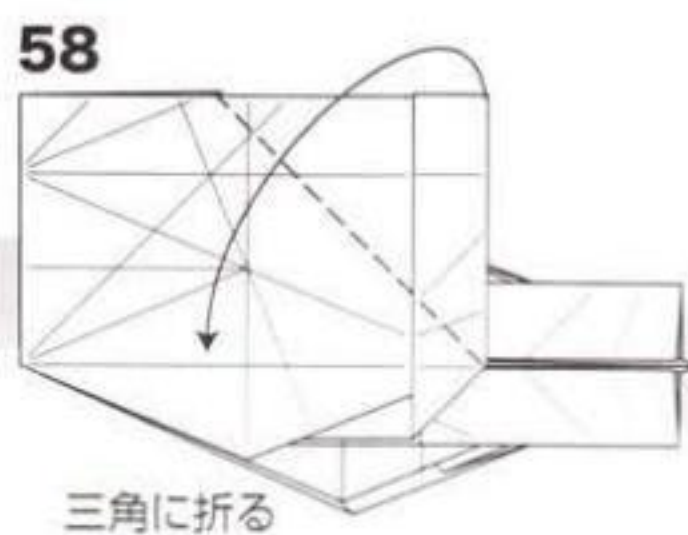
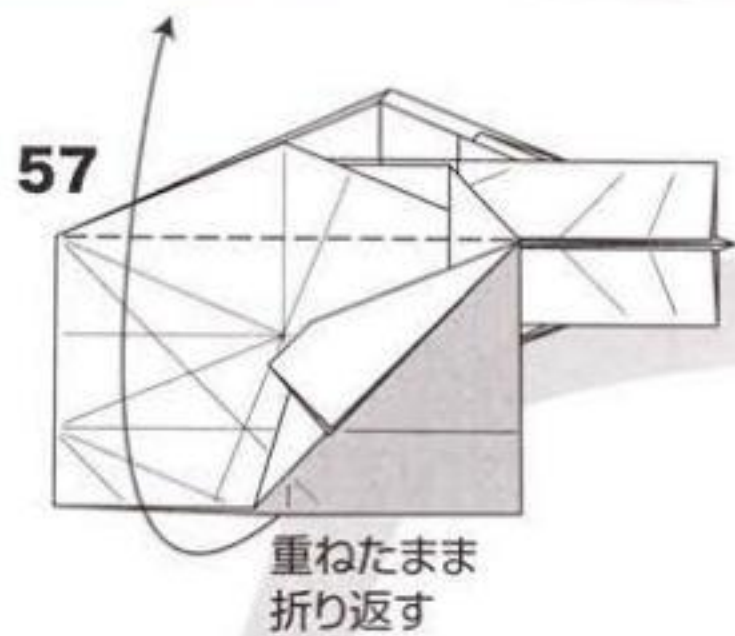
ついている折りすじで段折り

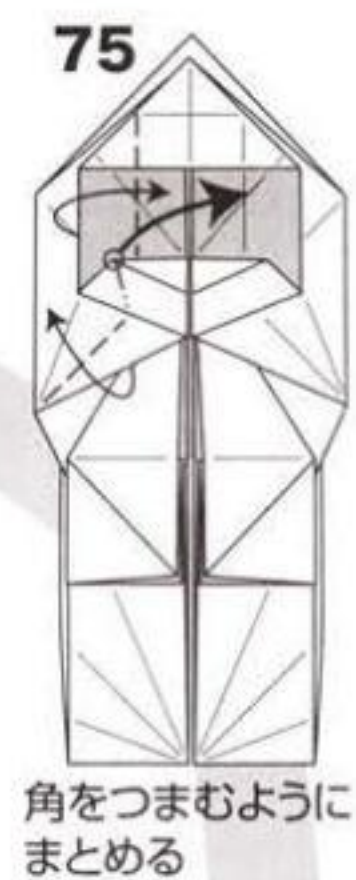
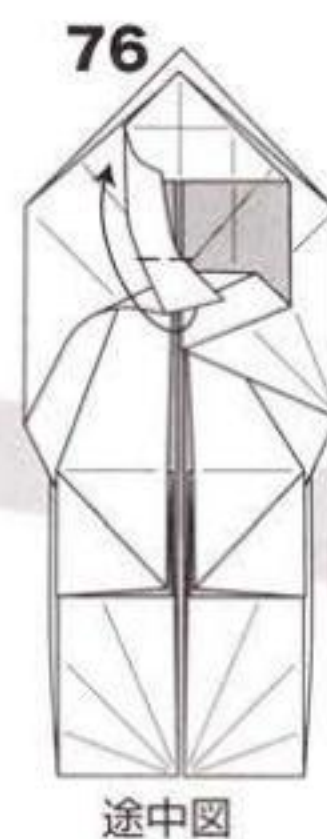
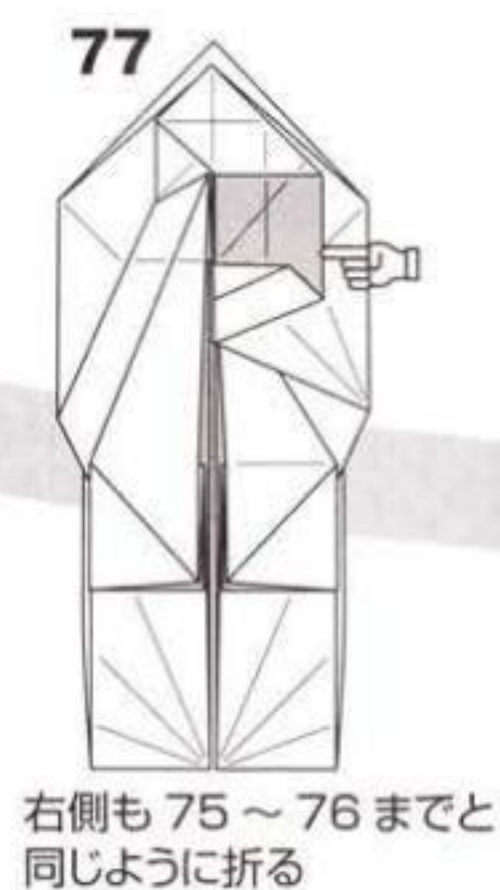
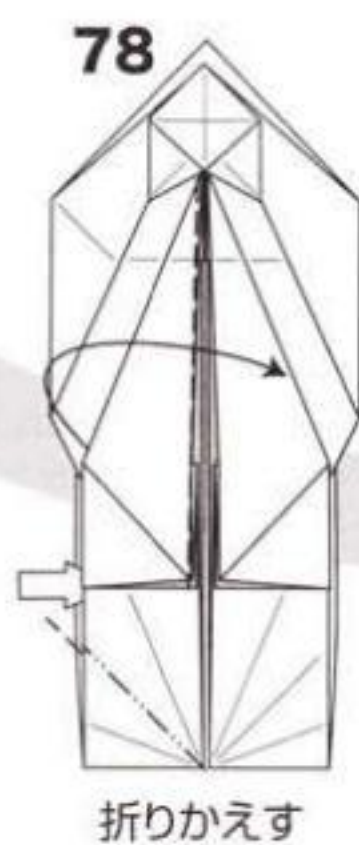
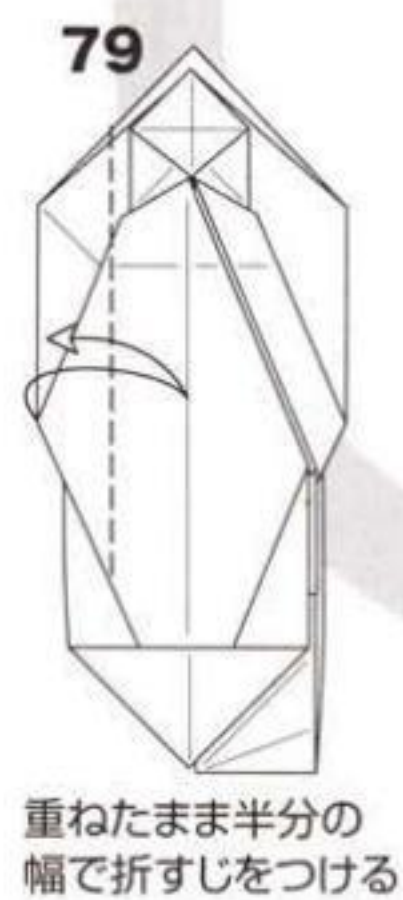
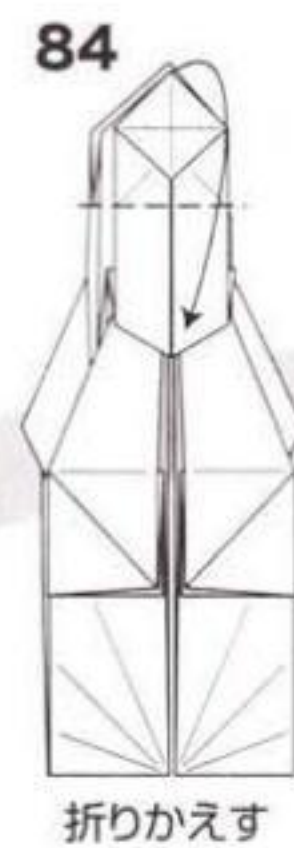
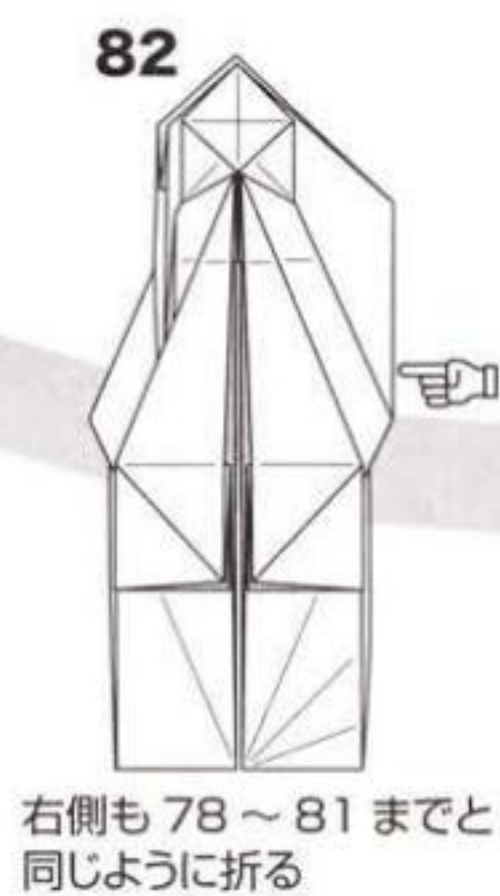
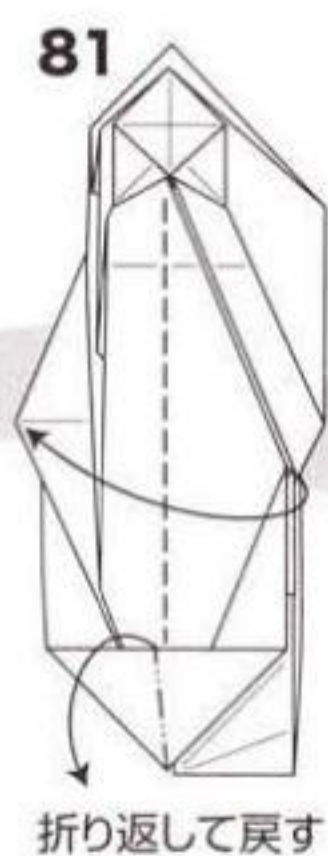
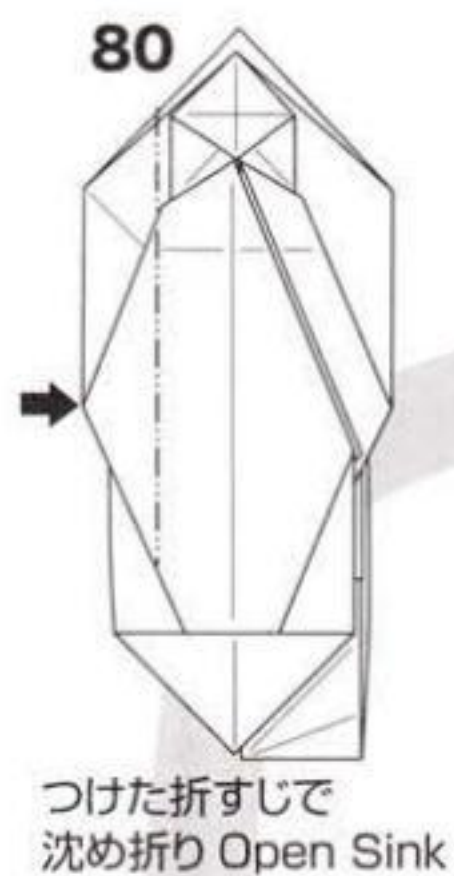
39

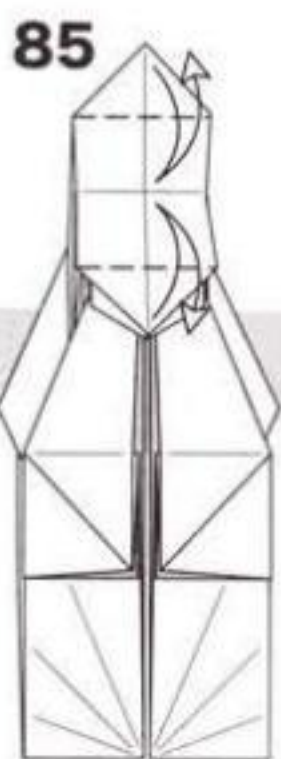


段折りした状態で折りすじを付け直す

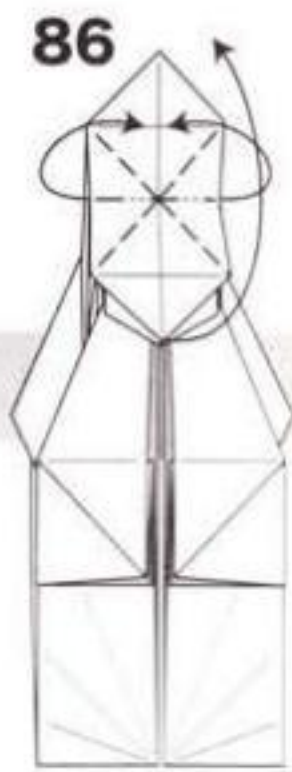








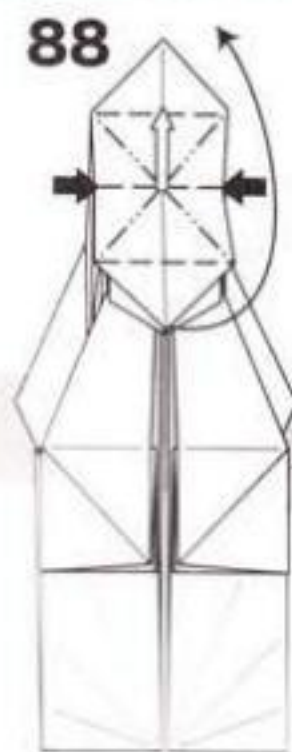
折すじをつける



ひだを寄せるように
折りながらいったん
戻す



再び折りかえす



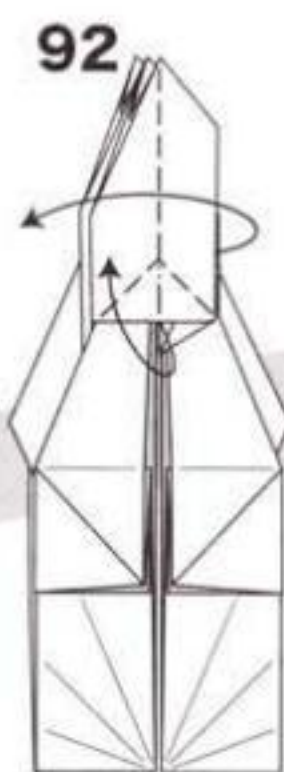
中央の部分を
引き出すように
しながら閉じる



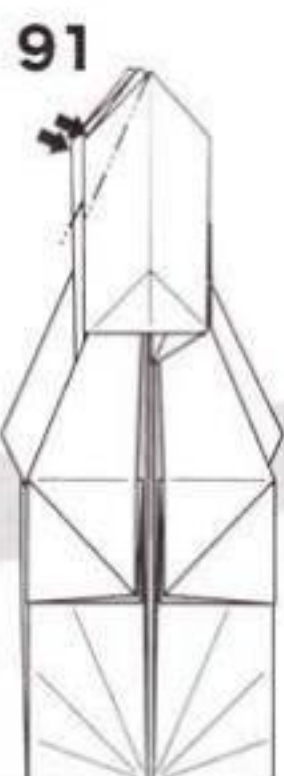
1枚折りかえす



右側も
89 ~ 92 までと
同じように折る



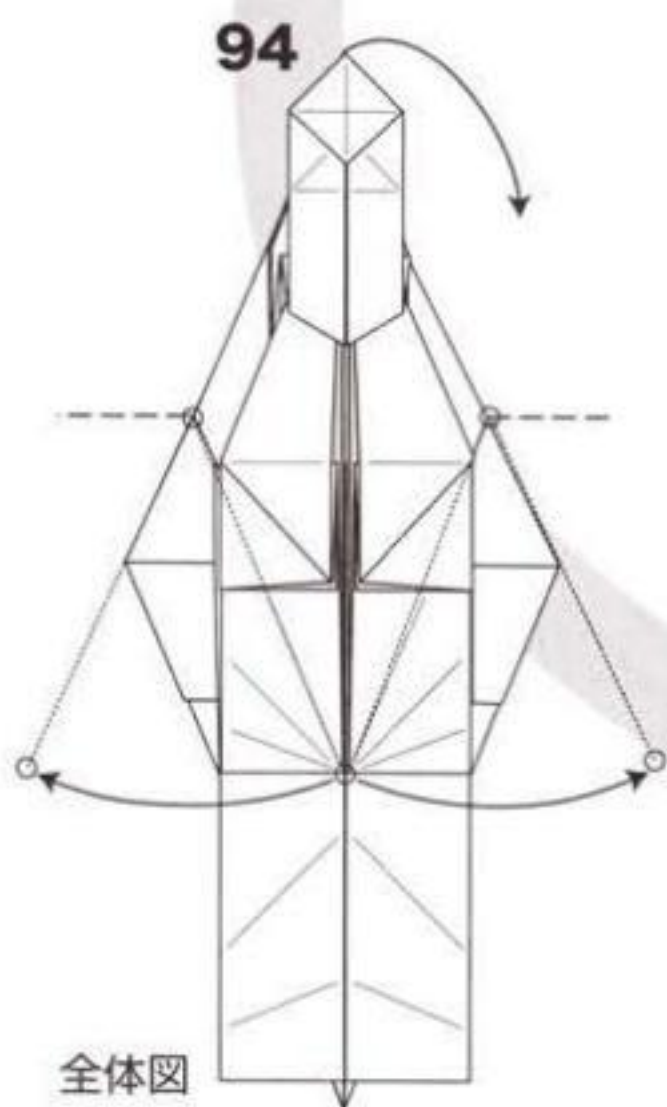
折りかえす



沈め折り Open Sink

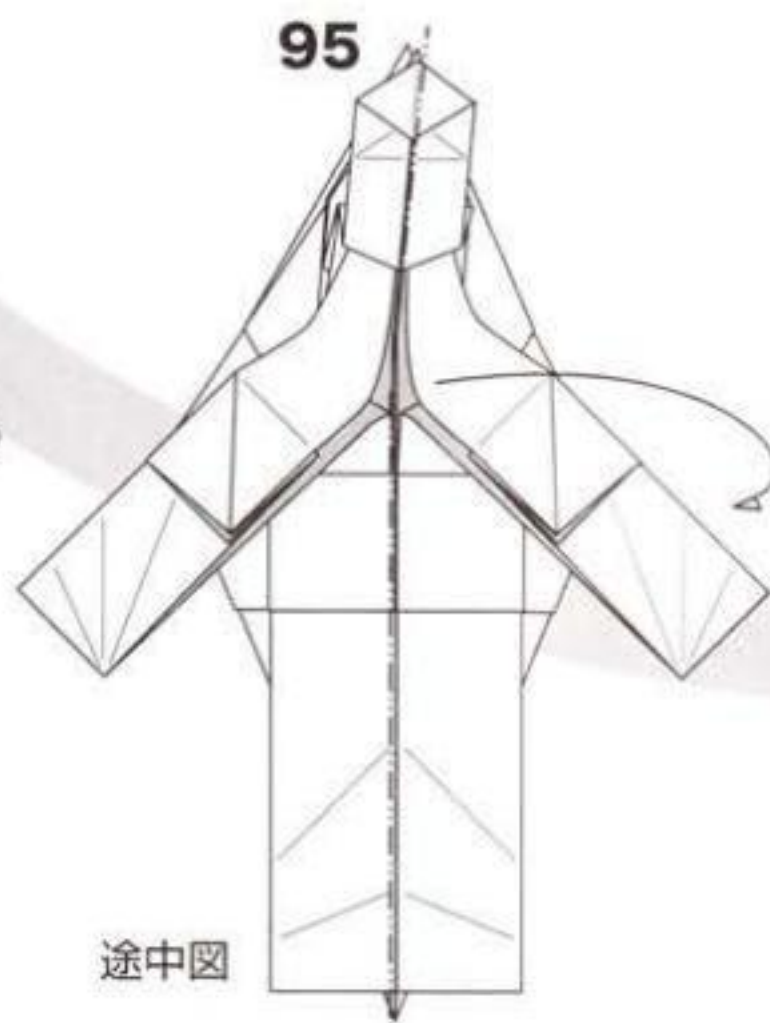


2枚とも半分の
角度で折りすじを
つける



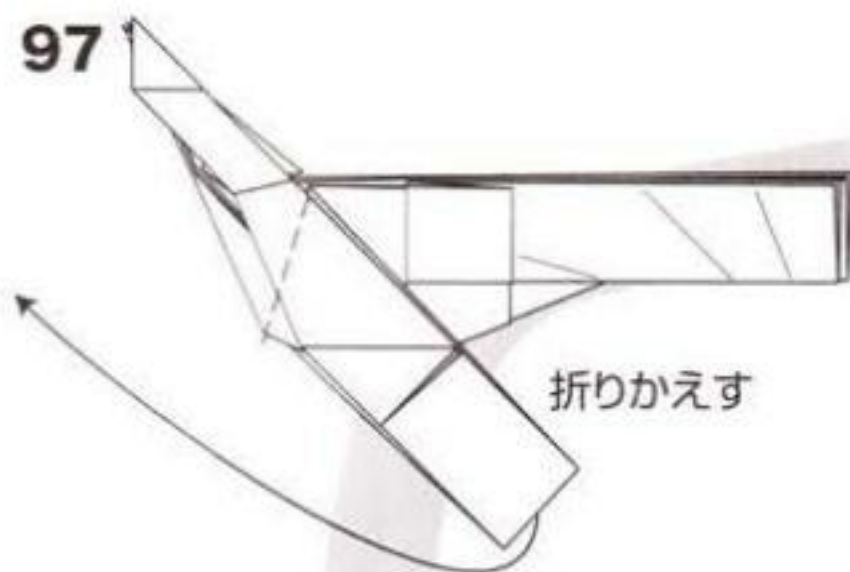
全体図

前足になる部分を辺を
あわせるように左右に
広げる
この時胸から首の部分が
手前に立体的に起き
あがってくる

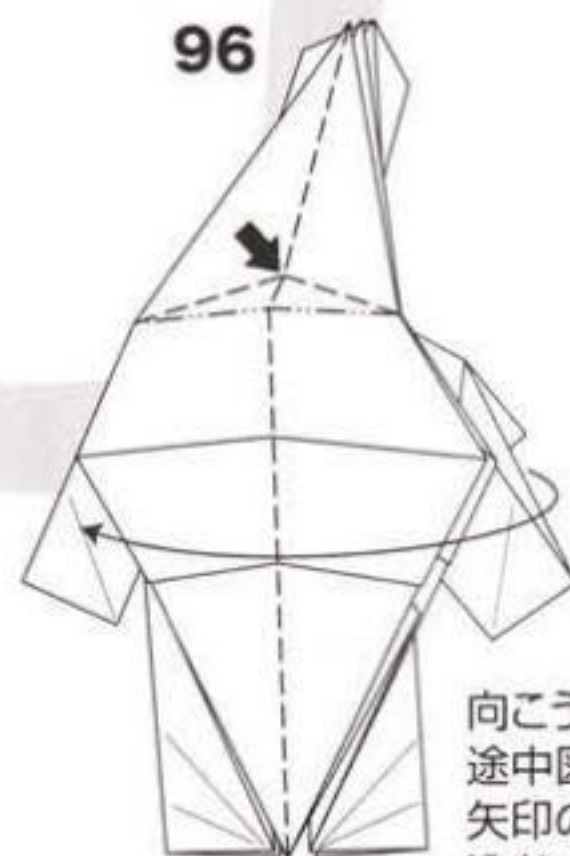


途中図

同時に全体を縦半分に折る



折りかえす



向こう側からみた
途中図
矢印の部分を押し
込む

107

向こう側も 99 ~ 106
までと同じように折る

108

109

手前の1枚の
重なりを1枚外に
折り返しながら折る

中わり折り

110

折りかえす

106

戻す

105

折りあげた形
本物のダルメシアン
の斑点模様は
当然1匹一匹違います
この工程で示す折り方は1例です
ぜひ別の模様も折ってみてください

104

斑点模様に
丸みを持たせる
ように折る

98

103

広げて
つぶし
斑点模様を
折る

99

内側のヒダを
中わり折り

100

少し隙間を
あける

折り返す

101

広げてつぶし
斑点模様を折る

102

段折り

112

折りかえす

113

広げてつぶし斑点模様を折る

114

中わり折り

111

折りかえす

115

足を半分の幅に折る
向こう側も同じ

116

下のヒダを上に出す
向こう側も 108 ~ 116
までと同じように折る

117

1枚折り返す

122

中わり折り

118

1枚引き出す

121

折りすじをつける

119

折りかえす

120

折りかえす

132

折りかえす
向こう側も
同じ

133

すらすように折る
向こう側も同じ

134

すらす
量の目安

135

沈め折り Open Sink
向こう側も同じ

131

130

広げてつぶし
斑点模様を折る

129

内側に折りこむ
向こう側も同じ

123

1枚折り返す

124

向こう側も
117～123までと
同じように折る

128

内側の突起を半分に
沈め折り

125

足を根元から段に折る
向こう側も同じ

126

かぶせ折り

127

内側の1枚を
外に引き出す
向こう側も同じ

136



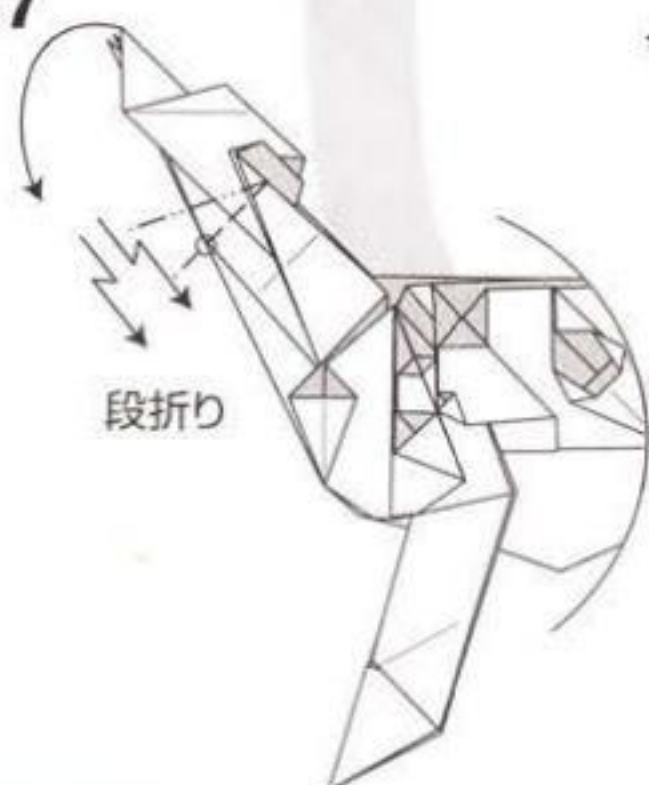
139



140



137



138



141



Orisuzi ("Fold-Creases")

2つの出来事

What Makes a Model Perfect: Cases on Mitate

川井千世

Kawai Chiyo

私は折紙作家ではないので、折り図を見ながら作品を折るのを喜びとする、イチ折紙愛好家だ。折った作品を眺めるのももちろん好きなのだが、制作中の方が俄然楽しい。線と線、点と線、それらがピシッと決まった時の快感は何物にも代え難い。故に、作品には忠実に向かい合いたい、正確に折りたい、それが私の折紙に対する敬意と信条だ。

幼稚園児をもつ友達に、うさぎの折り方を紹介した事がある。子供も簡単に折れる易しい作品だ。家に帰り、彼女は早速お嬢さんとそのうさぎを折ったとメールをくれた。そしてこう続いていた。「おもしろい事に顔を描いちゃうの」その作品は顔を

描くのを前提とした作品ではない。私は驚いた。更に続いて、「片面に両目を描いちゃうからまるでピカソ」こうなると園児には敵わない。正しさなんて軽く吹き飛ばされてしまう。むしろ私は微笑ましいと思った。

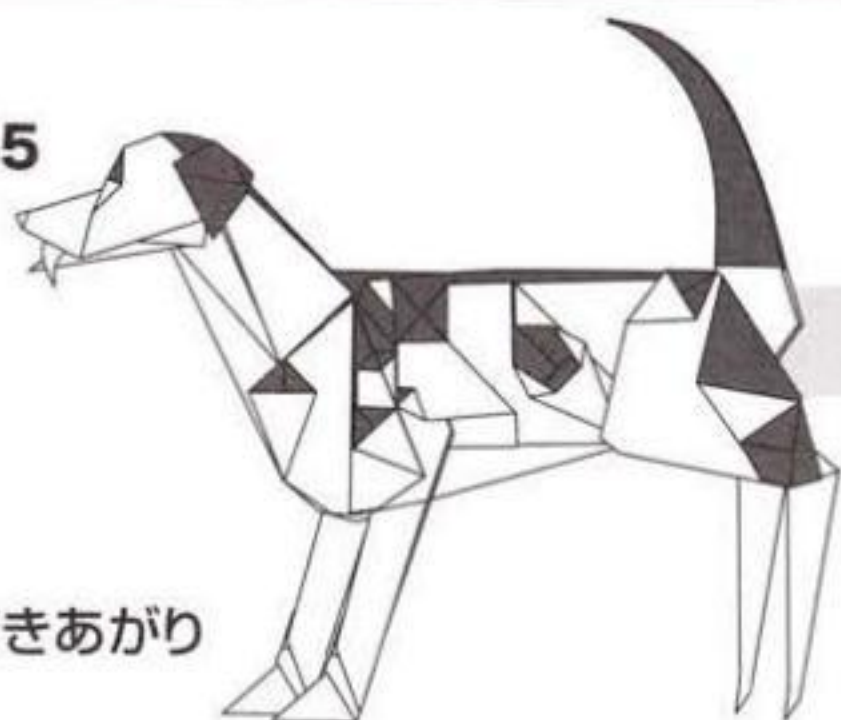
何年か前のMFPPのコンベンションで、Viviane Bertyさんが食事中に「鳥」を折った。もちろん彼女のオリジナル。その時、彼女の隣に座っていた参加者の一人がその鳥に少し手を加え、目を折り出し彼女に渡した。彼女は「ノーン！ これは完成されているのだから目は要らない」とその鳥を元の鳥に戻した。彼は彼で「目が折り出せるのだから（目が）あってもいいのではないか」と議論になった。白熱のやり取りは、正面に座っていた私にも「チ

ヨはどう思う？」と火の粉が飛んできた。これはもはや哲学、どちらかが正しいという着地点は見出せない。拙い仏語で「折り紙は見立ての美しさがあると思う」とVivianeさんに加勢した。

この2つのエピソードは、本質は全く違うものだが、原作に手を加えるという部分は同じだ。前者は目や口がないと不完全とみなし、後者は目があつた方が完成度が高いという。私の信条に反する2つのこの出来事、なぜか時々ひょっこりと脳裏に浮かぶ。「見立て」と「不完全」の違いは何だろう、という疑問と共に。でも結論は出ない。そして思う。こういう「思考の楽しみ」も提供してくれる折り紙って、奥が深いなあ、と。

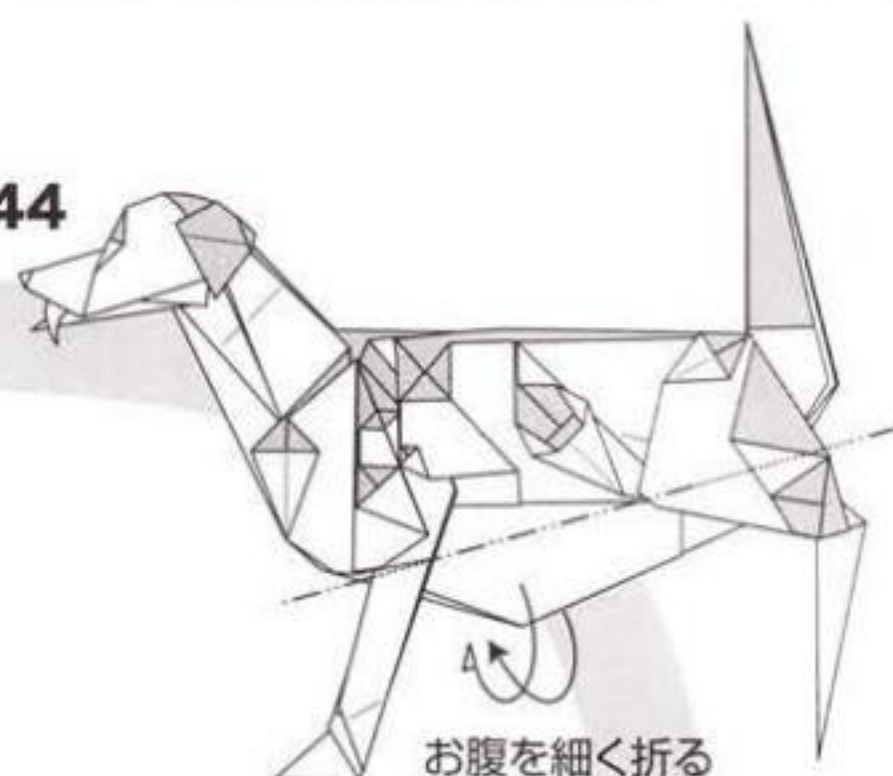
145

できあがり

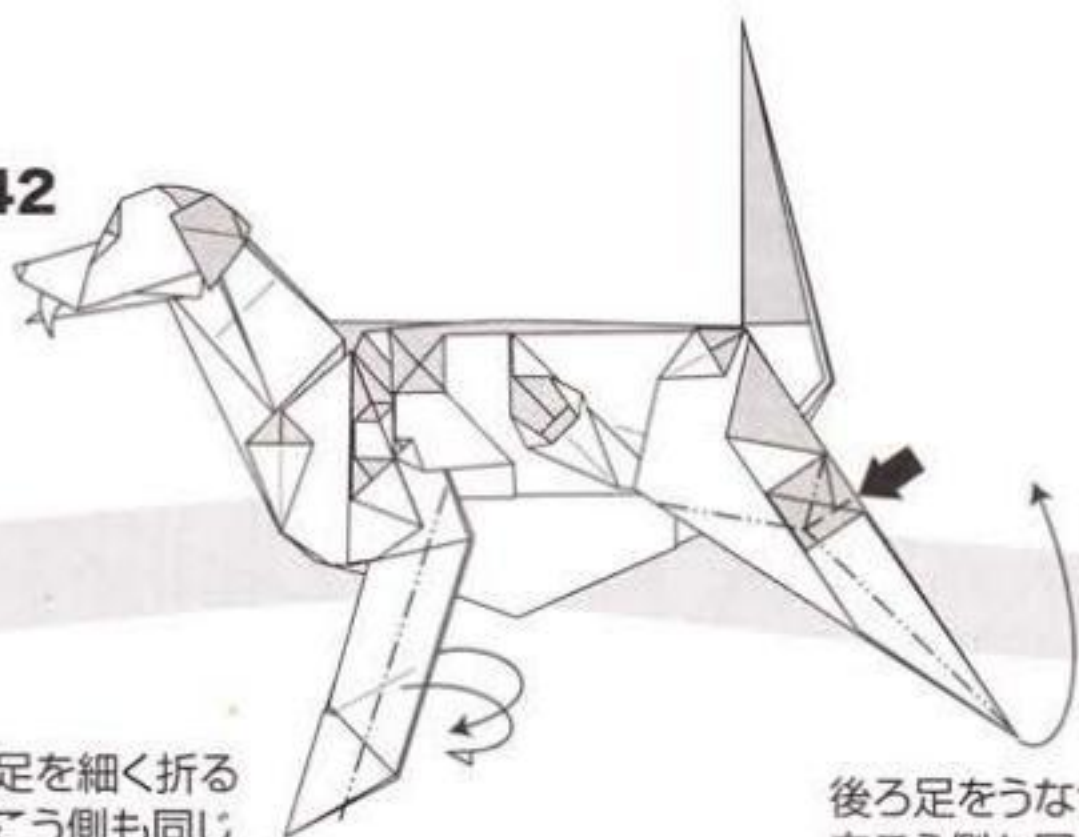


144

お腹を細く折る



142

前足を細く折る
向こう側も同じ
紙が厚いのであまり無理しないように・・・

143

後ろ足をうなづき折り
向こう側も同じ後ろ足を中わり折り
向こう側も同じ前足先端をうなづき折り
向こう側も同じ

折紙三昧

81

Origami-Zanmai (This Origami and That)

研究集會中継の試み

Workshop on Air

折り紙の研究は、歴史、数学、工学、計算機科学、教育などの分野と結びついて、学際的な(学問の分野を越えた)広がりを持っています。日本折紙学会が広く各分野の研究者と連携して定期的(基本的に6月、12月)に開催している「折り紙の科学・数学・教育研究集會」が、2016年6月25日に20回目の節目を迎えました。研究集會は折り紙の研究を促進したいという当会の理念に根ざした重要な活動となっています。ここで育まれたネットワークが、2014年の第6回折り紙の科学・数学・教育国際會議を日本で開催する素地を与えたのは間違いないことだと思います。

この研究集會では、冒頭にも述べ

たように様々な分野の発表があります。今回も、数学的な研究から新しく発見された桑名の千羽鶴に関する資料についてなど本当に多種多様です。最近では、中高生の発表希望もあります。参加者からは子供扱いしないコメントや質問があるのもこの研究集會の特徴でもあります。研究集會の講演内容は探偵団webサイトに要旨をアップしていますので是非ご覧ください。また、発表されたものの中には今後の「折紙探偵団マガジン」や「折紙の科学」で記事や論文が掲載されることもありますのでお楽しみに。

さて、第20回の研究集會では九州友の会と連携して講演のSkype中継を試みました。研究集會は

JOASホールで行われ、特に地方の方が参加することがままならないのご意見はかねてからありました。JOASホールには40名弱の参加者がありますが、今回の九州会場には11名の方が集まってくださいました。カメラのコントラスト調整や音声など改善する点はいくつもありますが、最初の試みとしてはまずまずで、雰囲気は伝わったのではないかと思います。今回は、JOASホールでの講演の様子を中継しただけでしたが、将来は地方会場の演者の講演もできればと思います。これからもこの試みは継続して中継ノウハウを蓄積していきたいと思います。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに **挑戦**

Crease Pattern
Challenge!

第102回

伐折羅大将

Vajra (Basara Taisho) 2016

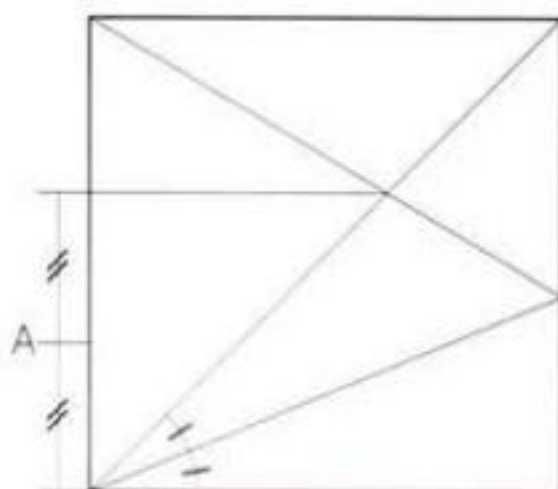
北條高史

Hojyo Takashi

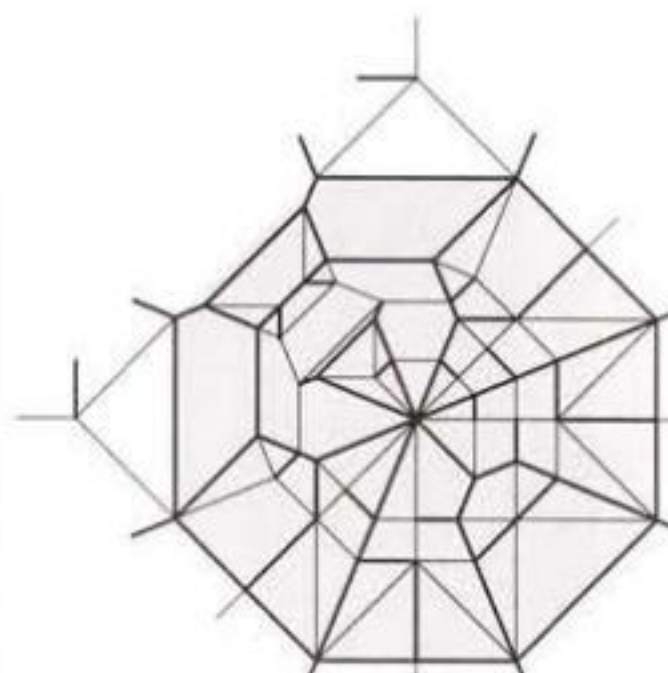
Created: 2016/06/12

Paper Size: 79cm×79cm

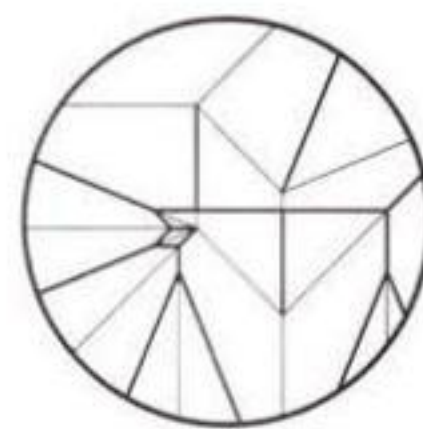
Hight: 27cm



基準点Aの折り出し

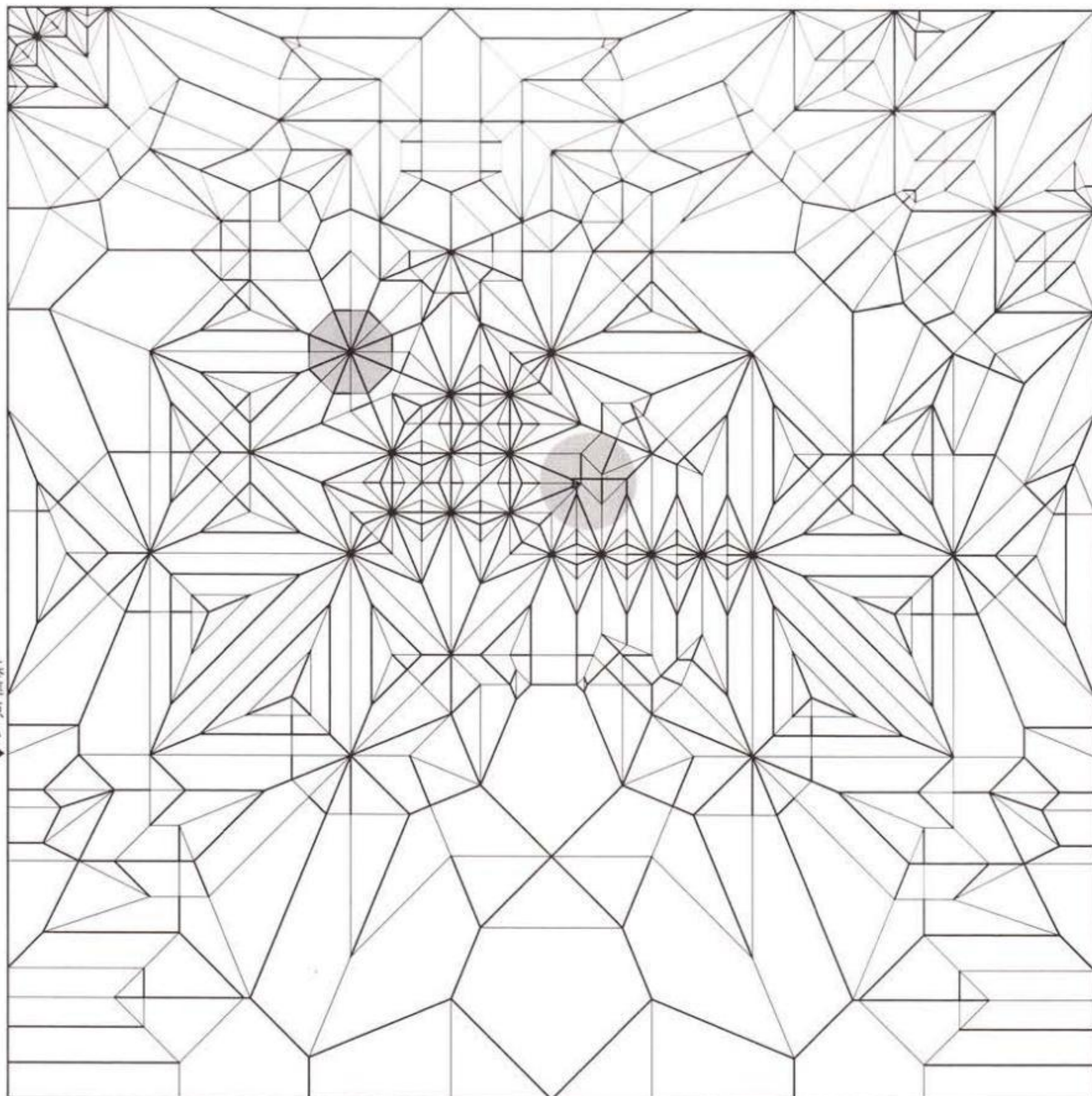


顔面(全体図の中で灰色の正八角形で示した部分)とその周辺の拡大・詳細展開図



全体図の中央部で灰色の円形で示した部分の拡大図

展開図の説明については、「クローズアップ」P.15～17をご覧ください。



Rabbit Ear つまみおり Information



▲OrigamiUSAの会長、Wendy Zeichnerさん(左)と、今年のスペシャルゲスト、布施知子さん(中央)、Kade Chanさん(右)

◆OrigamiUSAコンベンション2016レポート 西川誠司

6月17-20日にニューヨーク(NY)で開催されたOrigamiUSAのコンベンションに参加してきた。私にとっては実に18年ぶりの参加となった。NYコンベンションは2014年まで長きにわたり会場となっていたFITからところを変え、昨年からは郊外に会場を求めるようになっている。今年は、JFK空港に近いクィーズ地区のSt. John's大学が会場となった。

St. John's大学は芝生が綺麗に整備された環境の良いところであった。会場が郊外に移ったこともあって例年より少し少ない450名程度の参加者とのことだ。宿泊場所となっている学生寮とコンベンション会場の間の移動には、大学が用意したゴルフカートのサービスが非常に便利であった。16日(木)にSusanさんの案内でOrigamiUSAのオフィスのある自然史博物館を訪ね、マンハッタンを駆け足で観光した後は、会場の大学にこもってコンベンションを満喫した。

今年の招待作家は布施知子さんと香港からKade Chanさん。布施さんご夫婦

と山口さん親子、今年からOrigamiUSAの評議員代表となったMarcio Noguchiさんと私がキッチンとバスルームを共有する同室で、連夜の業界談義になった。

17日(金)に参加受付、教室受付コーナー、作品展示会場がそれぞれの責任者のもと手際よく用意され、翌18日(土)から3日間のコンベンションがいよいよ始まる。コンベンション期間中、OrigamiUSAの事業分野であるThe Origami Sourceをはじめとする物販コーナーが大きな会場に設けられており賑わっていた。物販会場の隣の広い廊下が作品展示のコーナー。NYコンベンションでは初めてとなる山口さんが企画した「秘伝千羽鶴折形」の展示も非常に好評だった。展示に際して、直径3mm程度の発泡スチロールの緩衝材の中から連鶴を取り出し、まわりつづ緩衝材をピンセットで黙々と取り除く。山口さん、布施さん、松浦さん、私の4人での展示作業は妙なハイテンションと充実感を伴いなんとか2時間ほどで完遂した。

18日(土)からの折り紙教室の幾つかでは講習のネット中継も試みられていた。隣接する別の教室にも講習が中継されており、首尾をモニターすることも兼ねられていて、なるほど感心した。また、この日にOrigamiUSAの総会で事業報告があり、会の事業バランスなど参考になった。

19日(日)の恒例の巨大折り紙コンペティションではBOSのMark Bolithoさんのノリに引っ張られて山口氏、布施氏と私も審査員に加わった。

20日(月)は主に講義形式の教室が行われる。私はここで、JOASで現在検討中の展示作品の登録システムに関して説明した。Jason Kuさんからいい質問を幾つかいただいて、急ごしらえの発表もなんとか形になった。最後はレセプションの会場から綺麗な夕日を眺めながら、5日間のNYを振り返った。

(編注: P.23に関連写真を掲載しています。合わせてご覧ください)



▲展示作品の箱のふたを開けると、鶴が緩衝材まみれになっていた。静電気のせいで、手や作品にまわりついて取れない状態に



▲黙々と作業を続ける山口さん



▲布施さんに手伝ってもらいつつ、一つずつ丁寧に緩衝材を取り除いていった

◆第6回折紙探偵団九州コンベンションレポート 切通泰子

第6回目となる九州コンベンションが今年もまた新緑の美しい佐賀大学で5月28・29日の両日開催されました。アメリカや韓国からの参加者を始め117名の方々が参加して下さいました。特別ゲストはアメリカからセス・フリードマン氏。初日の講演では独学で学んだという流暢な日本語を駆使して、一つの折り紙作品をどのようにしてより複雑によりリアルにしていけるかをパソコンを使いながら説明して下さいました。講習ではご自身の飼育猫がモデルの「ネコ」と、「アオカケス」がいずれも2コマずつ★4つということで、中には手こずった方もいらっしゃったようです。

今年は今までと違って1コマ60分、休憩20分というゆったりとした時間割でした。講習で時間が余った場合はおまけの作品講習があったりとラッキーなクラスもありました。韓国の方々も8コマ分の講習を受け持たれて多くの方が韓国作品を楽しみました。

会場では今年4月の熊本・大分地震に対しての募金も行われました。韓国の皆

様から計2万円をご寄付頂いたほか、多くの方から2日間で総計85,660円が集まりました。これは日本赤十字へ全額寄付致します。たくさんのご賛同ありがとうございました。

恒例となったOrigamiATC交換会、『青』がテーマのスワップ部門では前日にスタッフ手作りの紙バッグに集まったカードを分け入れ、当日は24名の参加者一人一人が自分の作品についての想いを1分程度語りました。トレード部門では名札にATCマークを付けた人同士があちこちで交換している場面が見られました。20枚しか作らなかった私は2日目の午後には持ちカードが無くなり、来年はもっと沢山のカードを作っておかなければと反省。

懇親会は会場を四季彩ホテル千代田館の宴会場に移して、いつものように山口真氏の軽妙な司会で始まり、途中あっと驚くマジックが披露されたり、韓国の方が描かれた山口氏の肖像画の贈呈があったりして、美味しい食事を頂きながらにぎやかにお喋りに花が咲いていま

した。その後ホテルの大部屋では九州ならではの折り紙教室が夜遅くまで繰り広げられました。

今年もJOAS評議員や事務局の皆様のご協力を得て、九州スタッフ全員の努力により有意義なコンベンションを開催する事が出来ました。また、佐賀大学の庄田敏宏准教授には毎年会場を手配頂き本当にありがとうございます。

来年も多くの方々のご参加をお待ちしております。(編注: P.24に関連写真を掲載しています。合わせてご覧ください)



▲熊本・大分地震に対して韓国折紙協会から、2万円をご寄付頂きました。左から伊藤晴美氏、オ・ギョンヘ氏(韓国折紙協会会長)、山口 真氏

◆MFPP2016コンベンションレポート 川井千世

今年2月に他界したMFPPの創設者 Jean-Claude Correia氏の追悼色が際立ったRencontres de mai 2016。今回は、新企画である自由参加のお楽しみ会について報告しようと思う。

会場には、70cm四方の違う色の紙が置かれたテーブルの島が7つ用意されていた。各島の周りに7~8人分のイスが配置され、どこに座ってもいい。私は赤い紙の島を選んだ。夜の8時半、ほろ酔いの参加者が次々と会場に集まってくる。何が始まるかは誰にも知らされていない。

最初のゲームは早折り。その70cm四

方の紙(この色がチームカラーとなる)でパハリータを折る。知ってる作品にホッとして1工程参加。次はCorreia氏の「メビウスの輪」。大量のパリメトロの切符が各島に撒かれる。これも時間を競う。切符を観音折りにして紐状につなげ、一回転させて輪にする易しいユニット作品。人海戦術がものをいうゲームなのだが、チーム間の人数のばらつきは問題視されない。いいのか?こんなゆるゆるで。

特筆すべきは最後のゲーム。一人ひとつ何かを折るよう指示される。全員が折り終わったところで、「これら全部を使っ

てチームで物語を作る」というお題。苦手のグループワーク。困り顔の私とは裏腹に皆とても楽しそう。花や動物の作品を手にも、こんなのは?いやこういうのは?とアイデアの途切れる事がない。ふむふむと聞いていると「チヨは?」と意見を求められる。「他人の意見を否定する=人格批判」ではない、という認識が全員に共有されている風通しの良さ。日本人同士でのこのゲームは難しそうだなあなどと思っている内に物語は完成。そして発表者は皆、俳優顔負けの演技力で物語を披露。点数は、全チームの発表を聞いた後、参加者全員の挙手で決まる。自分のチーム以外なら1人何回挙手してもいいらしい。何なんだ?このいい加減さは。

折り紙は、キッチリ折ると紙の厚さが邪魔をする。「アソビ」が必要だ。そうか!この「ゆるさ」は「アソビ」に通じるのか。最後はちゃんと盛り上がり終る絶妙のこの「アソビ」こそが、MFPPのコンベンションの魅力なのね。今年も存分に堪能した。



▲完成したパハリータ



▲3つ目のゲームで、グループ発表をする Michel Grandさん

◆第19回国際スペインコンベンションレポート 萩原 元

4月28日～5月1日の4日間、スペインのバレンシアにて開催された「XIX Convención Internacional de Papiroflexia de la AEP」に特別ゲストとして参加させていただきました。私以外のゲストはFernando Castellanos氏、Riccardo Foschi氏、Beata Kupczak氏、そしてCarmen Sprung氏の4名。複雑系、マスク作品、ユニット等バラエティに富んだ作品を創る作家が集いました。コンベンション前日には一緒に観光や食事をして親交を深めました。

会場となったIllusion Hotelには欧州各地からの約140人の参加者の多くが宿泊し、夜遅くまでホテルのラウンジや近くのバルにて折り紙談義で盛り上がっていました。講習は2つの大部屋を使って同時に4つ行われ、各部屋の壁沿いには参加者達による渾身の作品が並びました。驚くことに開会式等のセレモニーは無く、受付を済ませた参加者たちがすすると各教室に入っていき、時間にな

るとそのまま講習が始まってしまいました。また講習受付は教室前に置かれた名簿に事前に記名するという方式でしたが、枠が埋まっても用紙の空白部分に書き込み続けたり、そもそも書いていない人が参加していたりと、大らかというか臨機応変というか、とても大雑把に進行していました。ドイツからの参加者が「うちのコンベンションでは有り得ない」と笑っていたのを憶えています。

期間中最も印象的だったのは3日目の夜でした。この日の夕食は所謂懇親会と閉会式を兼ねたような盛大な会だったのですが、特筆すべき点として参加者は必ず折り紙で着飾るという決まりがありました。ブローチやイヤリング等のアクセサリーで済ませる人もいれば、デッセレーションを施した帽子や古代ローマ風の兜などかなり手の込んだ作品を身に纏った人々もいました。会が終盤に差し掛かるとゲストや講師、スタッフへの感謝状や記念品の贈呈が行われ、最後

には全員揃ってAEP(スペイン折り紙協会)の会歌を合唱しました。その際に初参加の人は全員前に出て歌唱する事になっていて、ちょっとした洗礼としての意味もあるようでした。

最後に、現地のスタッフの皆さんと素敵な時間を共有した参加者の皆さんに感謝申し上げます。



折り紙で着飾ってレストラン前に集合する参加者達

◆京都折紙倶楽部作品展レポート

『楽しい折り紙の世界展II』と題し、京都折紙倶楽部として京都文化博物館(中京区高倉三条下ル)にて2度目の折り紙展を開きました。2016年5月12日～15日の、3日半の期間中に1,000人近い方々が見てくださいました。

2005年4月以来12年目を歩んでいますが、終始一貫(?)家庭で楽しめる伝承文化としての「おりがみ」を柱にしています。

今回の折り紙展も、これまで講習してきた作品を中心に、グループごとのテーマや設定情景に合わせてイメージをふくらませ、制作しました。森、川や海そして里があるさまざまな生き物がいる、そんな空気を会場を見渡したとき感じてくださればいいと思いました。

一つのグループがファンタジーの世界を作る!と手を挙げました。自然とは切り離して対象を強調して展示したおとぎの国、なかなかの人気でした。

折り紙好きはユニット好き。今回あらためてそう思いました。ユニット作品を個人作品として出す会員が沢山あり、どれも力作でした。また特筆すべきは、遊べるおりがみ! パズルあり飛ぶものあり繋がるものあり…子どもはもちろん、大

人も夢中になります。15×15cm1枚の紙片が示す変幻自在の可能性は大きくて魅力いっぱいです。

拙いながら、二度の作品展を成し遂げた私たち。これからは、もう少しだけ背伸びした作品に挑戦してみたい! 残る疲れの底から、ワクワクふつふつと新たな気泡が上りはじめています。

中村淑子(京都折紙倶楽部代表)

■京都折紙倶楽部

発足:2005年4月/現会員数:50名/スタッフ:5名

例会:毎月第2土曜日、午前と午後で別の作品を講習(午前は難易度低い作品)

会場:中京区烏丸丸太町下ル 京都府社会福祉会館 ハートピア

(編注: P.25に関連写真を掲載)



▲さわって遊ぼう! のコーナーは大人気だった

◆OrigamiATC交換会

ATCとは、Artist Treading Cardの略で、3.5×2.5インチ(89×64mm)のカードを作って、交換し合って楽しむものだ。それに折り紙を使っているものをOrigamiATCと呼んでいる。折紙探偵団九州友の会では、5月のコンベンションで2つの交換会を催すなど、とても盛んである。

第22回折紙探偵団コンベンションでも、今年で4回目となるOrigamiATCの交換会を企画 중이다。今年はテーマを設定していないので、自由に作っていただきたい。参加にはコンベンションへの申し込みが必要で、お送りするコンベンションの受理票にOrigamiATCの参加方法が記載されているのでご覧いただきたい。参加申し込み締め切りは8月5日。

コンベンションへ来れない方のために、郵送参加も受け付けている。毎年、北は北海道、南は九州まで全国各地から20人前後の方にご参加いただいている。参加方法は、前号(157号)のP.25に記載されている要項と同じなので、参照されたい。

【OrigamiATC交換会連絡先】

Email: info@origamihouse.jp

FAX: 03-5684-6080

◆第1回韓国大学生折り紙サークル連合展

ICOA 国際大学生折紙連盟 招待展

◆開催:8月23日~25日

◆場所:韓国Contents振興院 大学路
Korea Contents Lab 2階展示室

◆主催:(社)韓国折紙協会

韓国大学生折り紙サークル連合

◆協賛:ICOA国際大学生折紙連盟

日本折紙学会

◆協力:韓国紙文化院、

日本公報文化院、他

昨年から始まった現役大学生、院生、
専門学校生に限られたICOA(国際大学
折紙連盟)の作品展が韓国大学生折り

紙サークル連合との合同で作品展が開
催される。

ICOAとして初の海外開催という形で
実現されることになった。

最近の韓国クリエイターの発展には
目を見張るものがある。その中の何人か
は今年の折紙探偵団コンベンションに
参加予定だ。若手同士の交流が活発に
なる事だろう。将来が楽しみだ。

また、若手作家として期待されている
ユ・テヨンさんは、おりがみはうすから本
の出版予定がある。

◆おりがみはうすから

◆オンラインマーケットプラットフォーム
『Origami』のウェブサイトで、折り紙の
コマ撮りアニメが使用されている。おり
がみはうすのホームページのリンクから
も見る事ができる。折り紙アニメの映
像は数十秒だが製作には毎日夜遅くま
で1週間程の時間を要した。仕上がりは
見てのお楽しみ。

◆仙台の七夕の吹き流しに折り紙が使
われる。かまぼこの材料のキチジという
魚を折り紙で作る、グラデーションで表
現された50匹の群れが上へ登って行く
ようなデザインだ。七夕祭り当日に展示
される。

下は200円) / 時間=13:00~15:30

●8月20日(土) / 講師:竹内 啓 / 作品:ハ
リネズミ

●9月17日(土) / 講師:未定 / 作品:未定

関西友の会 ※折り紙は各自持参

●9月11日(日) / 時間=10:00~16:00 /
会場=高槻市立総合市民交流センター 第
1会議室(午前)、第2会議室(午後) / 定員=
40名 / 参加費=500円(中学生以下無料)
講師:坪 正 / 午前の講習:鳩の箱(坪 正・
作)、そこそこリアルなピョンピョンカエル
(坪 正・作)、午後の講習:魚の基本形ア
フリカゾウ(坪 正・作)、15:30より情報交換・
作品発表

九州友の会 ※折り紙は各自持参

会場=佐賀県立アバンセ / 参加費=500円
(中学生以下は100円) / 時間=13:00~
16:00

●8月28日(日)3階美術工芸室 / 講師:山
北克彦 / 作品:未定

●9月25日(日)4階第5研修室 / 講師:浜田
勇(予定) / 作品:未定

JOASホール今後の予定

※それぞれ定員になり次第締め切ります

◆「ある折り紙作家の教室」

9月18日(日) / 講師=神谷哲史 / 講習
作品=ユーリプテルス / 参加費=3,000
円(材料費別) / 11:00~16:00 / 定員
=28名

※対象は、小学校5年生以上です。

※小学生の方が参加される場合は、必ず
保護者の同伴をお願いします。

※会場へは参加者および同伴者(会場費
500円が必要)のみ入場可能です。

※「ある折り紙作家の教室」は、2週間前
(今回は9月5日以降)からキャンセル料
(受講費の半額)が発生しますので、ご
注意ください。

◆「OrigamiATC研究会」

10月20日(木) / 参加費=1,000円(材
料費別) / 11:00~16:00 / 講習内容
=ATC交換会、ATC作り、折り紙講習、折
り紙の情報交換等 / 講師=松浦英子 /
定員=20名 / テーマ=童話 / 初心者歓
迎。ATC交換会では、郵送参加も受け付
けています。詳しくはおりがみはうす公
式サイトをご覧ください。

<http://www.origamihouse.jp/>

参加のお申し込みはメール info@origamihouse.jp で氏名、住所、Email、
電話番号、参加希望教室名、希望日をお
知らせください。

編集後記

■毎年同じような事になるこの季節。■忙しいを
乗り越えて辛い部分もあるコンベンションだが楽し
いからなんとか…。■時々、電話で取材を受けるこ
とがある。■鶴、奴さん、兜といった程度の認識の
記者やライターが多い。■その程度の方が現代折
り紙について質問してきたりするのだ。■普通の人は
(普通とは?という人がいるかもしれないが)幼児時
期に折紙と出会う。■それ以後は折り紙には触れ
合う機会もなかった人達だ。■当然、歯車が合わ
ない。■その結果、電話やメールでの取材は一切
お断りしている。■それでも熱心な方だと何とか
会う時間を作って取材に来てくださる。■他に進行
中のものがある。■Huluで配信されるドラマ「代償」
の主人公が折り紙好きということでお手伝いして
いる。■しかしこの手の仕事には困ったものがある■
時間やスケジュールの変更が多すぎる事だ。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団マガジン

2016年7月25日発行 第27巻2号 通巻158号

発行所 日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人 / 西川誠司

編集人 / 山口 真

編集スタッフ / 松浦英子、神谷哲史

デザイン / おりがみはうす

翻訳 / 立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

◆吉野一生基金への 寄付について

7月8日現在、吉野一生基金には新た
に8名の方から46,000円の寄付をいた
だきました。第27期の寄付金額の合計
は442,290円になります。ご協力ありが
とうございます。基金のお金は、各地の
折り紙探偵団コンベンションの招待者
に贈られます。来る8月のコンベンション
では、ミッシェル・ファン氏(USA)、ロベル
ト・モラッシー氏(イタリア)が招待され
ます。(50音順、敬称略)稲吉秀尚、小川 知、川
崎亜子、隅谷和夫、田中源太郎、田中 淳、山崎恒
美、渡辺 大

東京友の会 ※折り紙は各自持参

会場=JOASホール / 参加費=大人500円
(非購読・非会員700円)、中学生以下300
円(非購読・非会員500円) / 時間=14:
00~16:00 / 研究会=16:00~(開場は
13:45、満員の場合は、先着順とします)

●8月6日(土) / 講師:井上岳哉 / 作品:
10式戦車、雀

●9月3日(土) / 講師:飯沢秀幸 / 作品:パ
ラの箱、講師:木村良寿 / はこねこ(もふ)

静岡友の会 ※折り紙は各自持参

会場=静岡の和紙処ますたけ(静岡市呉服
町1-3-6 増武ビル3F) / 参加費=500円
(中学生以下200円) / 時間=10:30~
15:00 折紙用紙・昼食は各自ご用意く
ださい。スリッパ等上履きをご持参下さい。

●8月7日(日) / 講師:鈴木美恵子 / 作品:
エッジ・スケルトン(作:藤本修三)

東海友の会 ※折り紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟
303号室 / 参加費=大人500円(中学生以

■ORIGAMI TANTEIDAN MAGAZINE / No.158 / Published on 25, July 2016 by Japan Origami Academic Society,
1-33-8-216 Hokusai Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Vajra (Basara Taisho) 2016" Produced
by Hojyo Takashi / Photographed by ORIGAMI HOUSE / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi
Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamiya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>

E-mail = info@origamihouse.jp

このページの商品の取扱いはいすべておりがみはうすです。
日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



クエンティン・トロリップ 折り紙作品集

クエンティン・トロリップ著 3,130円(税込) / 送料430円 / B5判 / 全180頁 / 19作品収録
収録作品: 金魚、ウシガエル、ネズミ、プタ、タテゴトアザラシの赤ちゃん、パンダのブックマーク、上野パンダ、レッサーパンダ、チンパンジー、チンパンジー指付き、カラス、アカギツネ、キウイ、ルリコンゴウインコ、キバタン、トラ、ガラバゴスゾウガメ、シロクマ、ペガサス

書籍名/著者・編者	価格(税込)	送料	内 容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円	国内一律 1冊 430円 (梱包込)	B5判/全228頁/カラー口絵4頁/19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成
神谷哲史作品集2 神谷哲史 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円		B5判/全232頁/カラー口絵8頁/16作品収録 折り紙界の最先端、神谷氏の約8年ぶりとなる作品集
小松英夫作品集 小松英夫 著 山口 真 編 立石浩一 訳	4,320円		B5判/全232頁/カラー口絵8頁/20作品収録 折り図も1つの作品として捉える小松氏の初作品集
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,460円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口 真 編 立石浩一 訳	3,780円		B5判/全196頁/カラー口絵4頁/18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面~The Mask~ 布施知子 著 山口 真 編	3,560円	書籍2冊の 送料は 540円です	B5判/全200頁/全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
エリック・ジョワゼル 山口 真 編著 -折り紙のマジシャン-	5,180円		B5判ハードカバー全144頁/カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第21回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.21 日本折紙学会 編	2,480円		B5判/全288頁 国内・外から集まった秀作 57 作品を収録
第20回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.20 日本折紙学会 編	2,480円		B5判/全288頁 国内・外から集まった秀作 61 作品を収録
第19回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.19 日本折紙学会 編	2,480円		B5判/全288頁 国内・外から集まった秀作 53 作品を収録
第18回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.18 日本折紙学会 編	2,380円	3冊以上の 複数冊は 本により 異なります お問い合わせ ください	B5判/全272頁 国内・外から集まった秀作 48 作品を収録
第17回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.17 日本折紙学会 編	2,160円		B5判/全256頁 国内・外から集まった秀作 50 作品を収録

書籍2冊の送料は540円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙はそれぞれ別発送となります。

商品名	価格(税込)	送 料	内 容
恐竜柄おりがみ用紙	1,080円	1~2セット	35×35cm/10枚入り/70kgの洋紙(コルキー)に細かなウロコ柄を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,300円	450円	恐竜柄おりがみ用紙+ドラゴン(北條高史・作)の折り図セット
『折紙探偵団マガジン』専用ファイル	810円	1冊285円 2冊330円	193×268×28mm/箔押しロゴ入り/『折紙探偵団マガジン』1年分(6冊)と、会員特別配布物が収納可能なプラスチックファイル

折り紙用紙専門のオンラインショップ!

おりがみはうす オンラインショップ

<http://www.olshop.origamihouse.jp/>

おりがみのトーヨーの商品を
25%引きで販売中!

※創作専科・アウトレット商品等を除く/発送は週1回木曜日

詳しくは
検索サイトで

おりがみはうす

検索

オンラインショップ限定価格で
一般店舗では取り扱いのない
大判折紙や単色折り紙等々、
700種類を超えるおりがみを
豊富に取り揃えています!



商品のお申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

※PayPalによるお支払いも可能です。
詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp>まで

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は下記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始等を除く)。
※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。



ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp
月~金 12時~15時 土・日・祝 10時~18時



おりがみ・クラフト用 おりツール MADE IN JAPAN

おりツール・のり Origami Craft glue

折紙・手芸
クラフト用接着剤
水性 NET.30ml



¥280
(税抜き)

速乾&細口ノズルで細い隙間も
ピタッと決まる!



ピタッと
シワなく
反りにくい
乾燥後の反りが少なく
乾くと透明に
なります。

ロング細口ノズル



取り外し可能ノズル



株式会社トヨー
<http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷ですので実際の商品とは色が異なる場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。 ※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡出張所 / 札幌出張所